



CE9.15

Cisco Webex Room ユーザ ガイド

# Touch10 または Room Navigator を使用するデバイス

# 目次

## 本ユーザガイドの内容

<b>ビデオ会議：概要</b>	
ベスト プラクティス.....	4
音声設定 .....	5
自分のログイン情報を使用してログオンする .....	6
USB カメラとしての Room Kit Mini 使用 .....	7
<b>ビデオ通話</b>	
連絡先リストからのコールの発信 .....	9
発信する前に連絡先を編集する .....	10
名前、番号、または IP アドレスを使用したコールの配置 .....	11
着信コール – 通話中以外の場合 .....	12
通話中に別の通話に回答する .....	13
通話から自分を切断する .....	14
通話を保留にする/保留中の通話を再開する .....	15
継続中のコールを転送 .....	16
応答不可を有効にする .....	17
すべてのコールの自動転送 .....	18
通話中にキーパッドを表示 .....	19
既存のコールへの参加者の追加 .....	20
会議から参加者を切断 .....	21
参加者をミーティングに許可する .....	22
会議中のスピーカーの固定 .....	23
ミュージックモードの使用 .....	24
最近の通話のコール詳細検索 .....	25
<b>インテリジェント近接通信</b>	
Cisco 近接通信の超音波信号 .....	27
<b>コンテンツ共有</b>	
通話中のコンテンツ共有 .....	29
コール外でコンテンツを共有する .....	30
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更 .....	31

<b>ミーティングのスケジュール</b>	
ミーティングのスケジュールに参加する .....	33
Webex ミーティングへの参加 .....	34
<b>連絡先</b>	
お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ .....	36
通話中に [お気に入り] に追加する .....	37
非通話時に [お気に入り] に追加する .....	38
既存のお気に入りを編集する .....	39
<b>カメラ</b>	
カメラの設定の表示 .....	41
カメラ位置プリセットの追加 .....	42
カメラ位置プリセットの編集 .....	43
カメラをオンまたはオフにする .....	44
スピーカートラッキング .....	45
プレゼンタートラッキング .....	46
自分のカメラの操作 .....	47
遠端カメラ制御 .....	48
セルフビューの管理 .....	49
セルフビュー PiP サイズの変更 .....	50
セルフビュー PiP を移動する .....	51
<b>設定</b>	
アクセス設定 .....	53

格納ファイルのすべてのエントリは、対応記事に移動するためのアクティブハイパーリンクです。

チャプター間を移動するには、サイドバーのアイコンをクリックする方法もあります。

**注:** このユーザガイドで説明されている機能の一部は、特定の市場ではオプションである場合があります。

このガイドでは、次の製品を Touch 10 または Room Navigator によって使用する方法について説明します。

MX シリーズ:

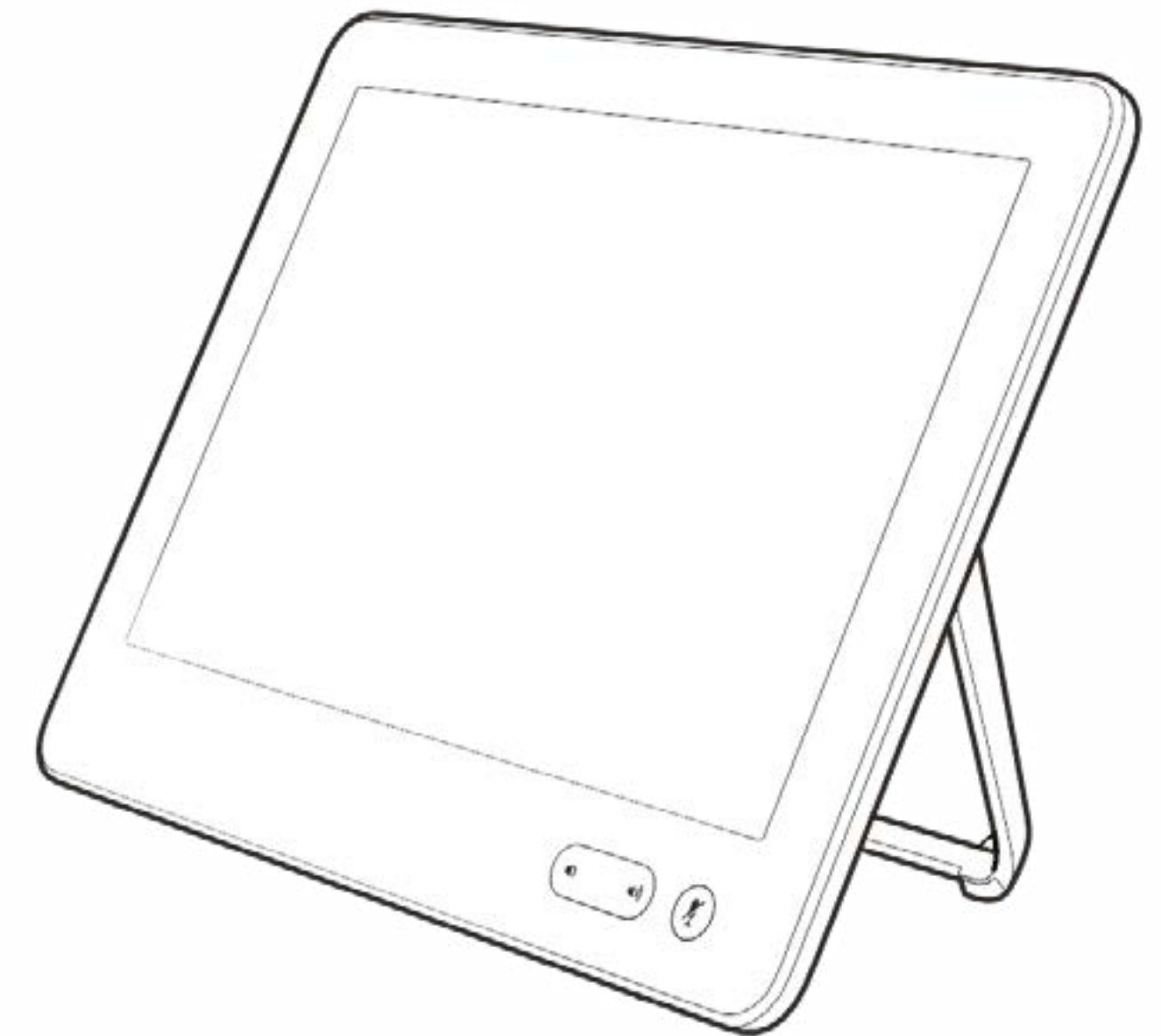
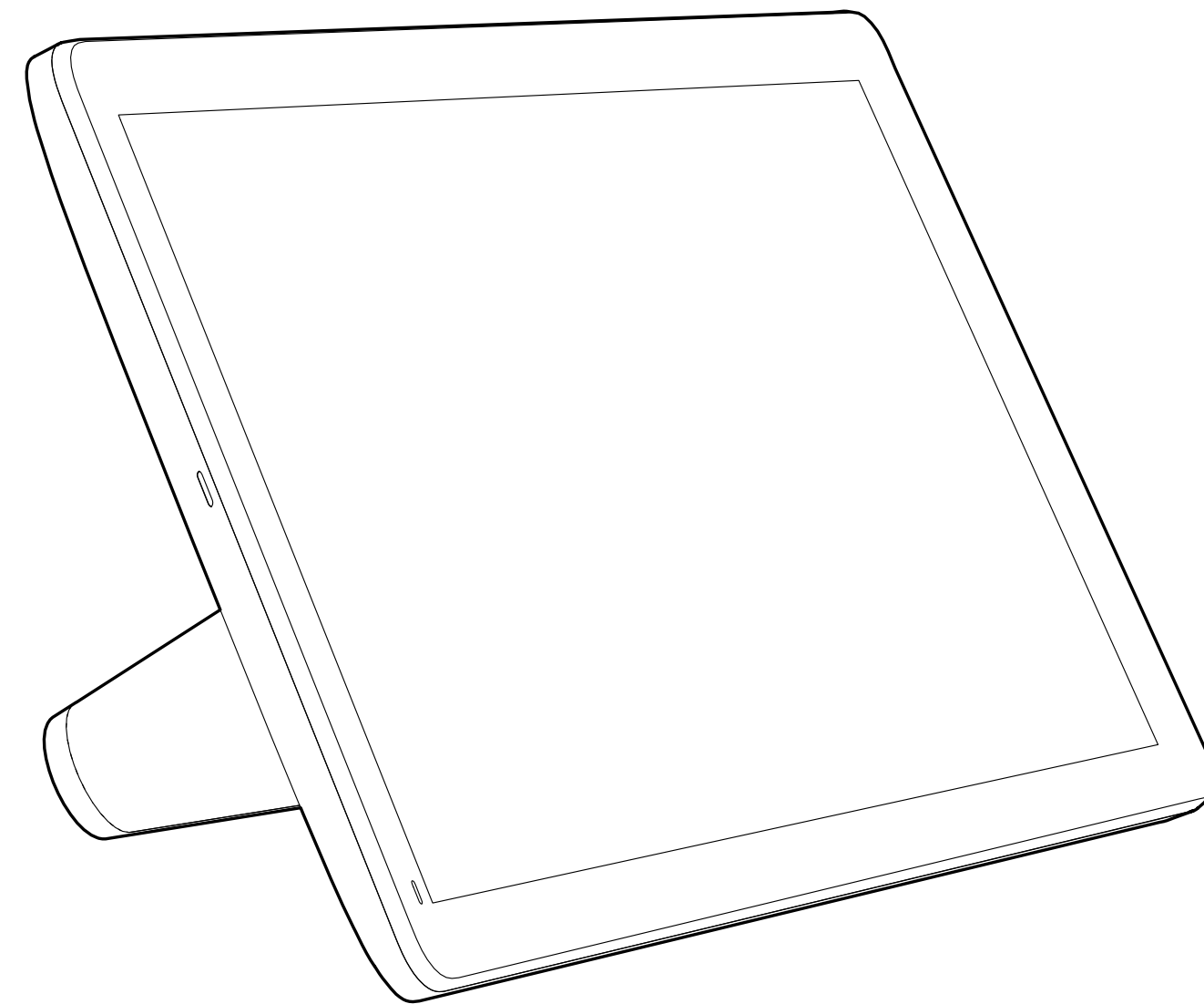
- MX200 G2
- MX300 G2
- MX700
- MX800

SX シリーズ:

- SX10 Quick Set
- SX20 Quick Set
- SX80 コーデック

Room シリーズ:

- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room Kit Plus Codec Plus
- コーデック Pro を使用した Room Kit Pro
- Room 55 と 55 Dual
- Room 70 および Room 70 G2
- Room Panorama および Panorama 70



# ビデオ会議: 概要



# ベスト プラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、フェイスツーフェイスの会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません—通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

## 会議室内

- すべての音声認識されるように、マイクをテーブルの前面に配置してください。最も優れた位置は、デバイスの前面の少なくとも 2 m (6.5') で、テーブルの少なくとも 0.3 m (1') の前面にある平らな表面上です。
- ディレクティブマイクは、デバイスから離す必要があります。
- マイクは、常に見える場所に置いておくようにしておきます。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなど、ノイズ源から常に離れた場所に置いてください。これらのノイズ源からの雑音は、遠隔地の出席者には、予想以上に大きく

聞こえます。

- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーの近くになるよう、または指定したコントローラの近くになるように参加者を整列させてください。
- ホワイトボードが使用されている場合、ホワイトボードがメインカメラを介して、または専用のホワイトボードカメラを介して見えるようになると、会議がリモート参加者により適切に認識されます。通常、放送会社はこのようにして、プレゼンターが本当に同じ部屋にいることを視聴者に見せます。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- 最も自然な会議環境を確保するために、可能であれば、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください。遠くにいる会議の相手とアイ コントクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。これを確認するには、ビデオデバイスのセルフビュー機能を使用します。セルフビューには、リモートパーティがデバイスから表示できるもの (発信ビデオ) が表示されます。

- コンテンツを共有する場合は、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本のVideoStreamを使用します。1 本はプレゼンテーション用、もう 1 本は発表者 (または発表者グループ) 用です。デバイスが小さいほど、プレゼンテーションを視聴するか、またはプレゼンタを選択するかを選択する必要があります。

## その他のヒント

### カメラのプリセットの使用

Cisco Webex Devices を使用すると、定義済みのズームとカメラの方向 (パンとチルト) を作成できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング付きのデバイスの場合、これは必要ありません。

### スピーカーのボリューム

音声システムは、モニタまたは Cisco Digital Natural Audio Module に内蔵されているスピーカーを使用します。

一部のデバイスでは、モニタリモートでモニタの音量を調整することによって、デフォルトのボリュームレベルを設定できます。

### 明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタには、非常に簡単に使用できる、画面上のメニューがあります。モニタの設定方法の詳細については、ユーザ ガイドおよび管理マニュアルを参照してください。

ビデオ会議: 概要

# 音声設定

## 音量コントロール

Touch 10 では、ハードボタンを使用して音のレベルを制御します。マイクはミュートボタンを使用してミュートできます。

Room Navigator では、ソフトボタンを使用して音のレベルを制御します。

## ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースまたはホームオフィスで特に便利です。

タッチコントローラで、ホーム画面の右上にあるマイクアイコンをタップします。ノイズ除去をタップしてオンにします。

オフにする場合は、[デフォルト (Default)] をタップします。

Room シリーズではノイズ除去機能を使用できません。

## 着信音と音量

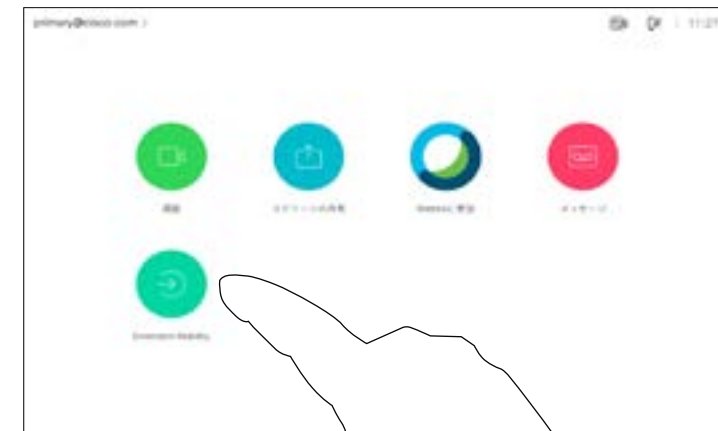
着信音を変更し、着信音の音量を調整するには、ホーム画面でデバイス名をタップし、[設定 (Settings)] を選択します。[着信音と音量 (Ringtone and volume)] に移動します。リストから着信音を選択し、スライダーを使用して音のレベルを設定します。



# 自分のログイン情報を使用してログオンする

## Extension Mobility について

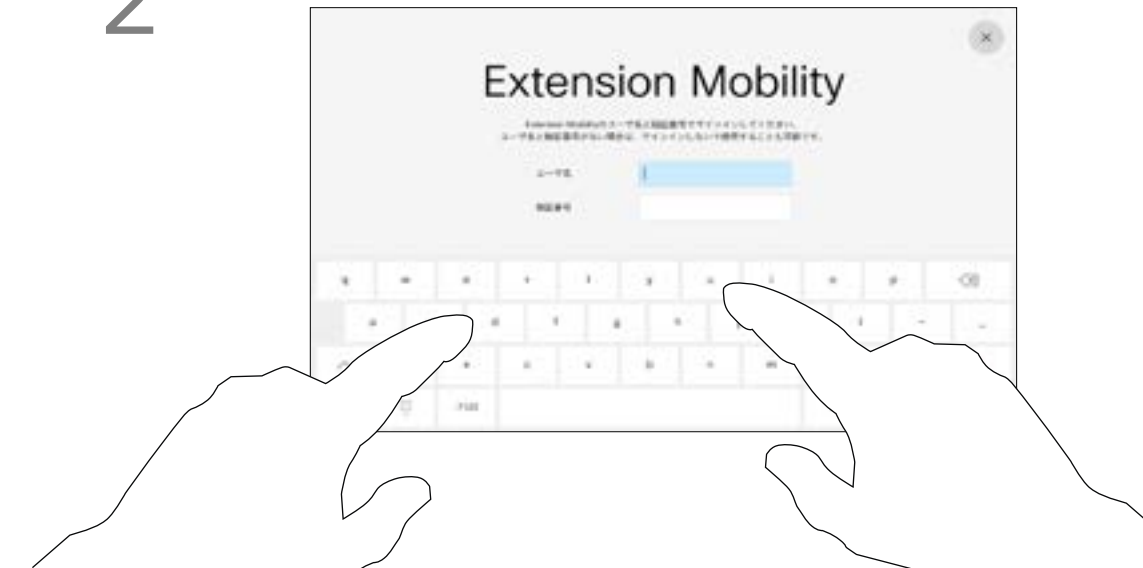
1



エクステンションモビリティ対応デバイスには、自分のログイン情報を使用してデバイスにログインするための追加ボタンがあります。

Extension Mobilityボタンをタップします。

2



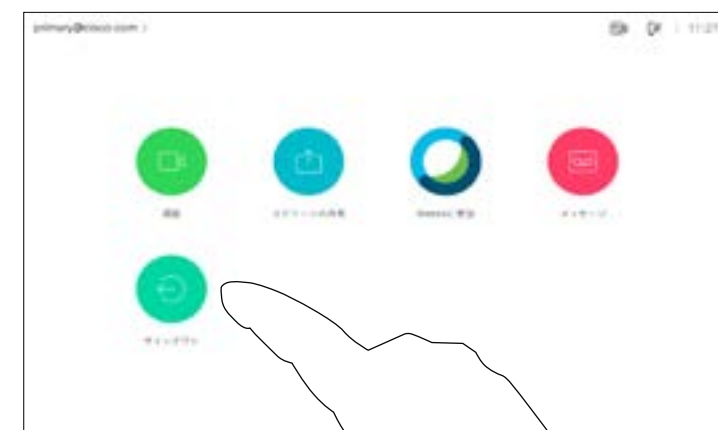
ユーザ名と PIN コードを入力します。

3



図のように ログインをタップします

4



離席するときは、サインアウトをタップします。

会議室やクワイエットルームに配置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の元で稼働しているデバイスでは、自分の個人資格情報を使用してデバイスにログインすることができます。

次に、CUCM は自分宛のすべての着信コールを特定のデバイスにルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[受信者 (Recv)] リストはデバイスからクリアされます。

Extension Mobility はホットデスクングとも呼ばれます。



# USB カメラとしての Room Kit Mini 使用

Cisco Webex Room Kit Mini は、USB カメラとしても使用できます。

Room Kit Mini を Cisco に登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

[Cisco] と共に Room Kit Mini を登録している場合は、USB カメラとしても使用できますが、次のことを確認してください。

- ・ ソフトウェアクライアントがカメラの使用を開始したときで、ケーブルが接続されていない場合は、Room Kit mini が [応答不可 (DND)] モードになります。
- ・ これにより、専用のコンピュータが常時ミニに接続されている場合でも、通常の Cisco のコールには Room Kit Mini を使用することができません。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Room Kit Mini の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この設定では Room Kit Mini のマイクとスピーカーを使用して素晴らしいサウンド体験を実現します。

このセットアップで外部モニタを含むように設定を拡張する場合は、通常の方法でコンピュータをモニタに接続します。

カメラコントロールは Room Kit Mini の Touch 10 から完全にアクセス可能です。

Cisco 登録の Room Kit Mini では無効にできない [応答不可 (Do Not Disturb)] を除いて、その他のデバイス設定にも完全にアクセスできます。

## 登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

カメラは Touch 10 から制御されます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

## 未登録時に USB カメラとして使用

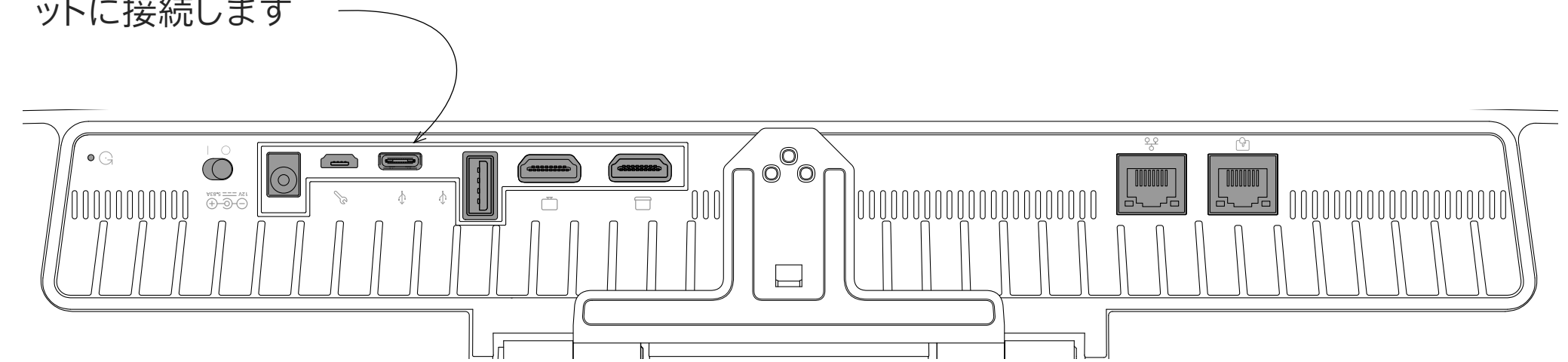
初めて Cisco のビデオデバイスを起動するときは、セットアップウィザードが表示されます。

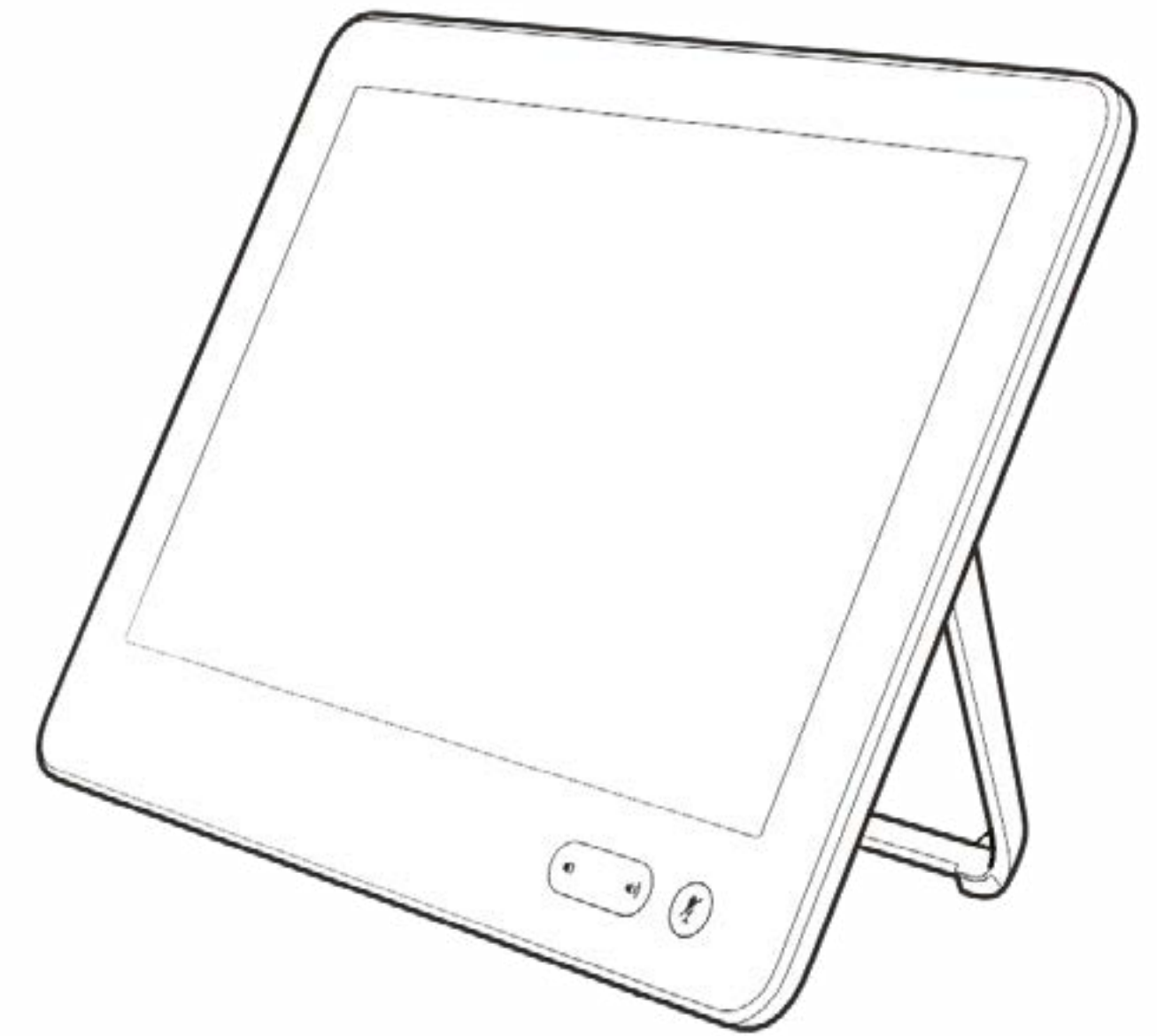
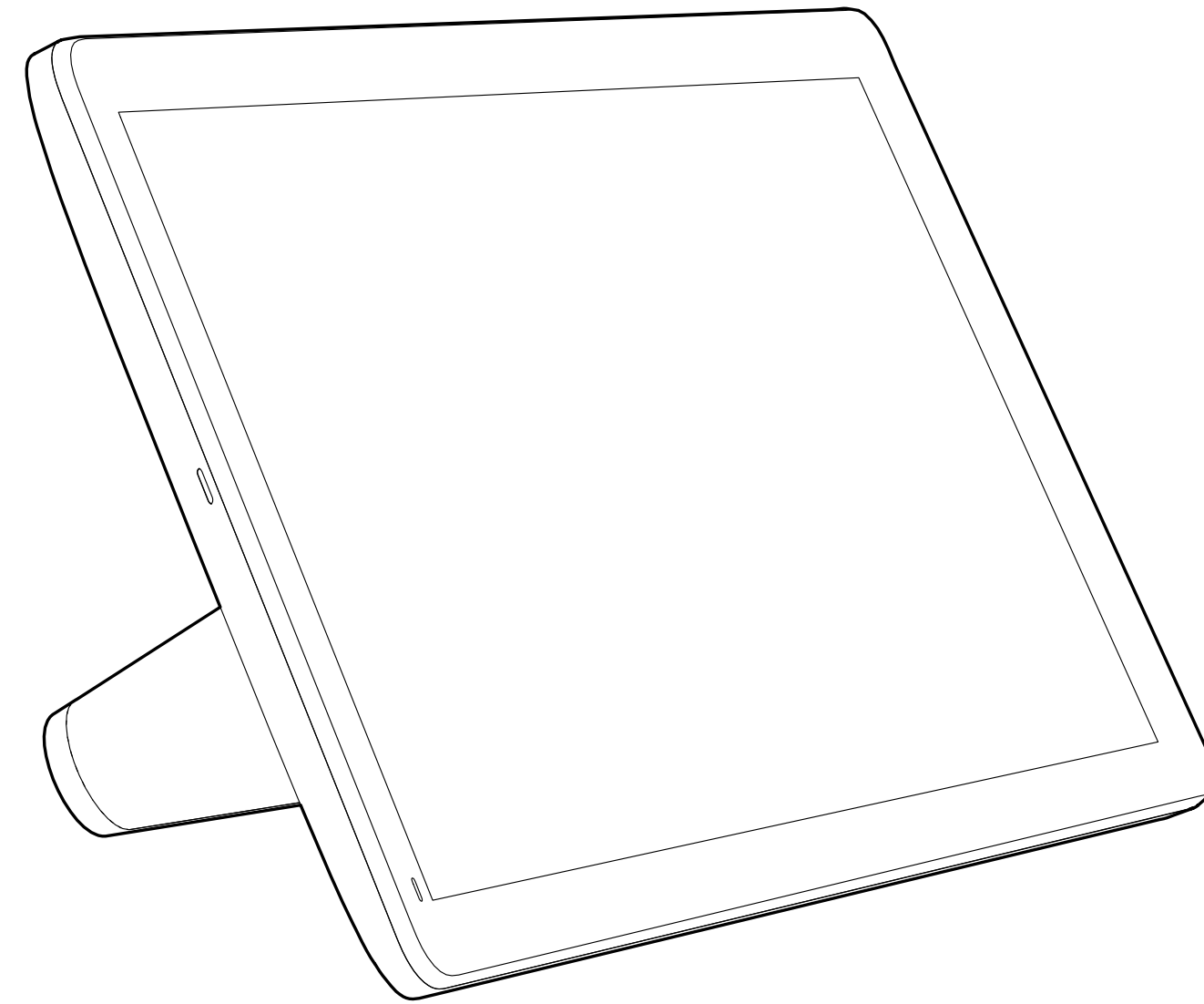
このウィザードでは、シスコ サービス(クラウドまたはオンプレミス)への登録方法を指定できます。Room Kit Mini では、USB デバイスとしてのみ使用する場合はこのウィザードをスキップできます。

この方法を示すために、詳細な指示が画面に表示されます。

後で、Room Kit Mini を Cisco に登録する必要がある場合は、設定に移動し、デバイスの有効化を選択します。

コンピュータを USB-C ソケットに接続します



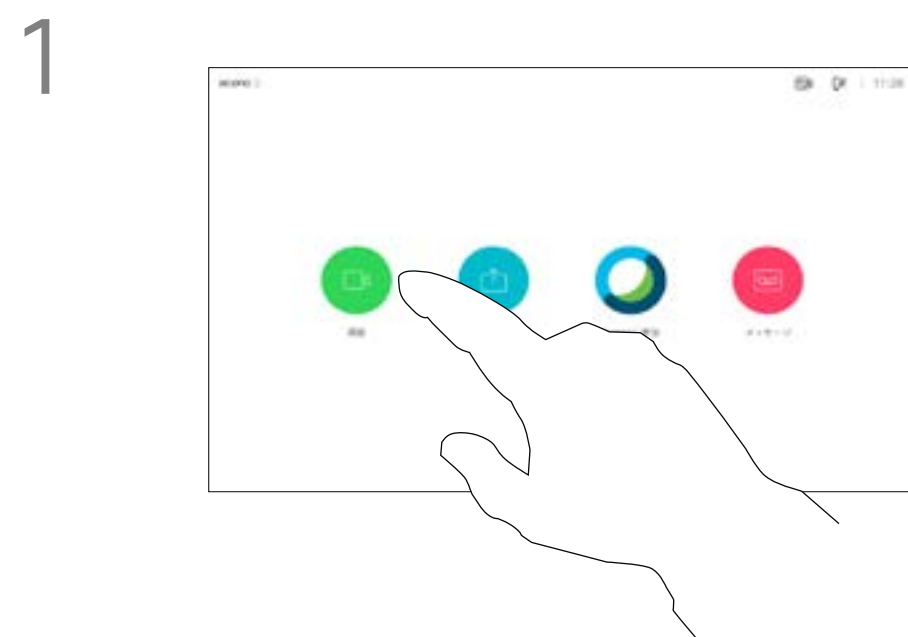


# ビデオ通話



# ビデオ通話 連絡先リストからのコールの発信

## 連絡先リストについて



1 通話ボタンをタップします。



2 特定のリスト(お気に入り、ディレクトリ、または発着信履歴)で誰かを検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールしてエントリを探します。



3 または、[検索] または [ダイヤル] フィールドをタップします。仮想キーボードが表示され、すべてのリストからエントリを検索できます。

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

**お気に入り。**これらの連絡先はユーザーによって追加されました。通常、これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。お気に入りは金色のアスタリスクで表示されます。

**ディレクトリ**は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

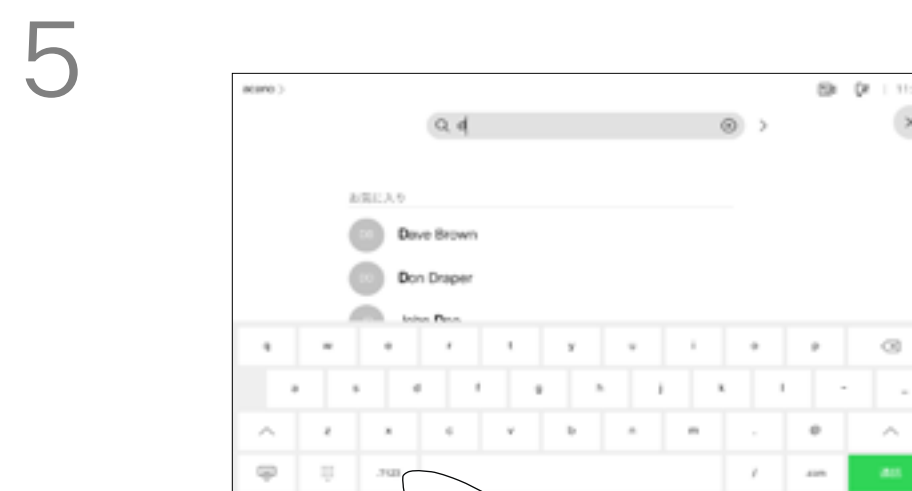
**発着信履歴**は、発信、受信、不在着信のリストです。

**次のオプションが適用されます。**

- ・ 名前、番号、または IP アドレスでキーを入力すると、デバイスはすべてのリストに含まれているかを検索します。
- ・ お気に入りリストにエントリを追加することができます。発信する前にエントリの内容を編集したり、コールレートを変更したり、**発着信履歴**からエントリを削除することができます。



4 名前、番号、または IP アドレスを入力します。  
入力したとおりに一致するものが表示されます。  
IP アドレスで使用するドットを入力するには、[\*] を長押しします。



5 特殊文字も含まれる拡張数字モードを使用できます。  
英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下隅にあるキーをタップします。



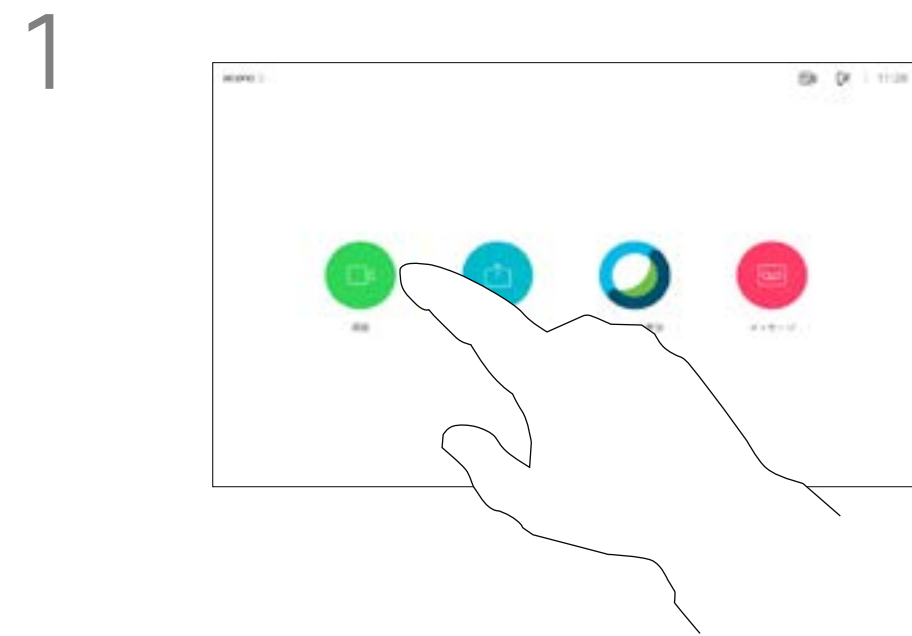
6 通話先を見つけたら、名前をタップし、緑色の**発信**ボタンをタップします。

# ビデオ通話 発信する前に連絡先を編集する

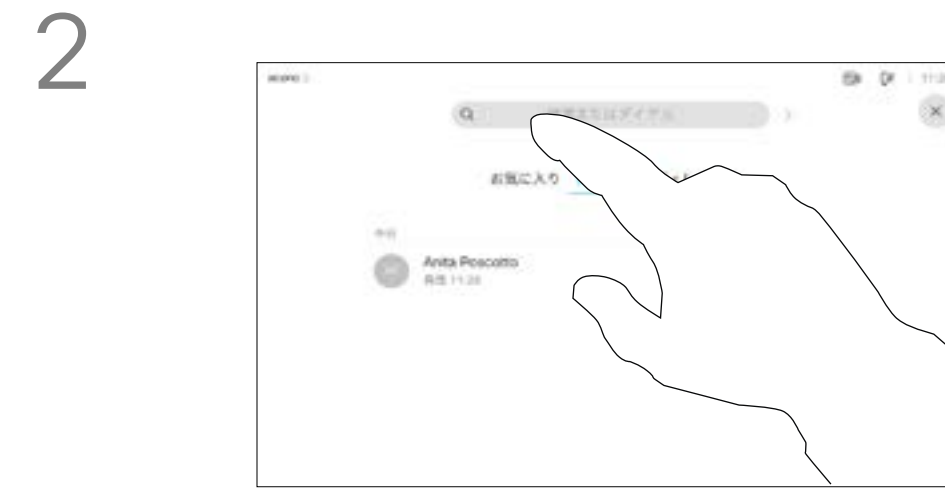
## エントリ編集について

連絡先リストを入力する方法については、前のページを参照してください。

発信する前に、[連絡先] 一覧のいずれかのエントリの編集が必要な場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、それ以外では適切なエントリに変更する場合があります。



1 通話ボタンをタップします。



2 前のページに示すように、**検索またはダイヤル** フィールドをタップするか、いずれかの一覧をスクロールします。



3 エントリが見つけたら、タップして [通話] メニューを表示します。[通話] メニューで、☒ に示すように**More**をタップして、**編集および通話**をタップします。

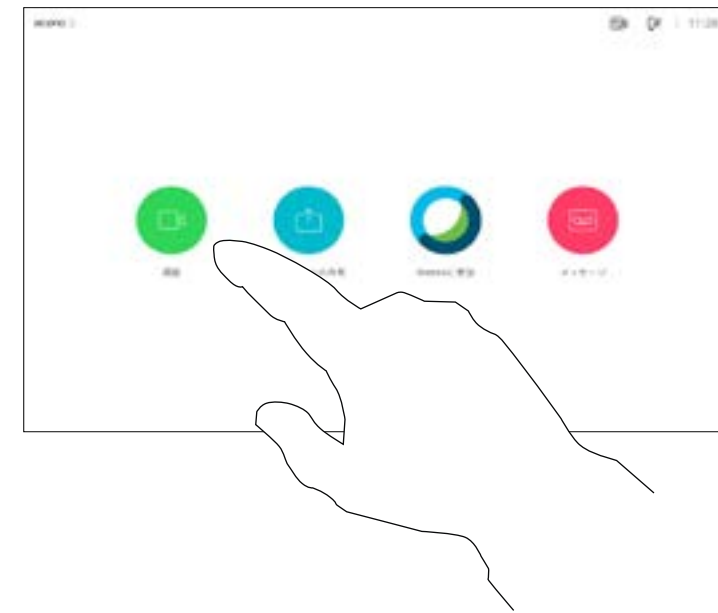


4 必要に応じて編集し、緑色の**通話** ボタンをタップして発信します。

# 名前、番号、または IP アドレスを使用したコールの配置

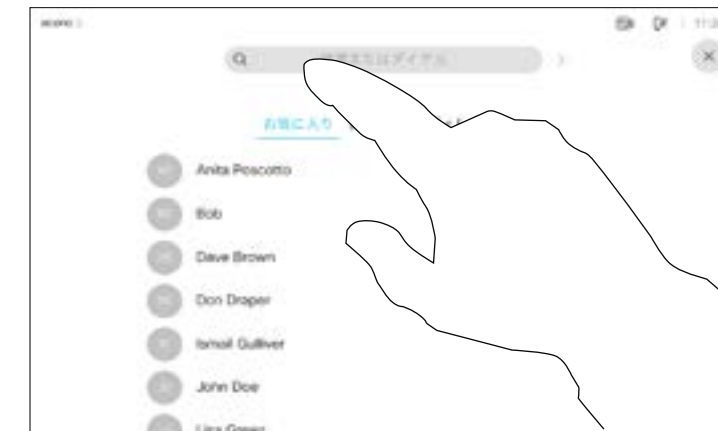
## 発信について

1



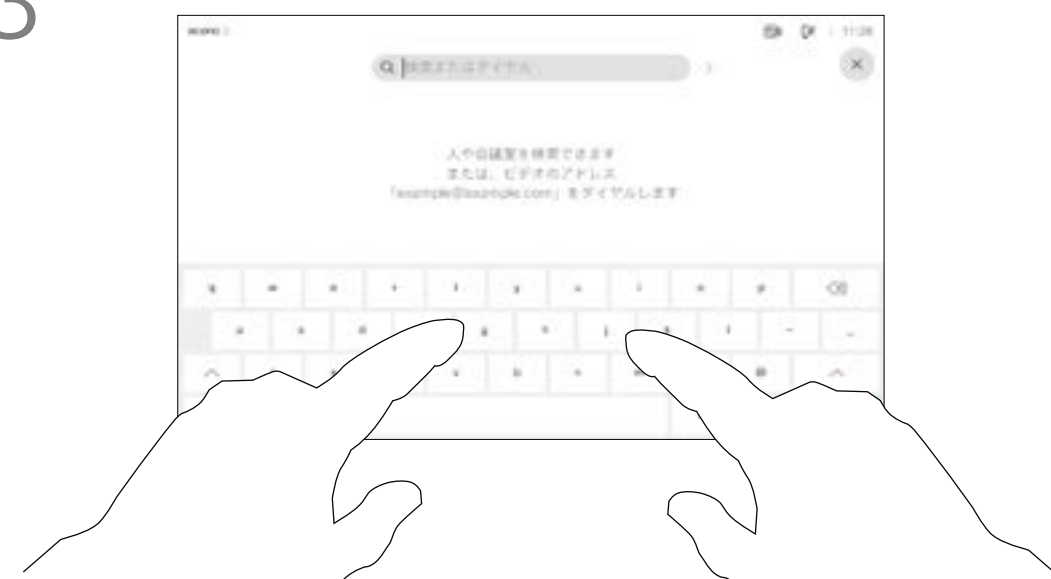
通話ボタンをタップします。

2



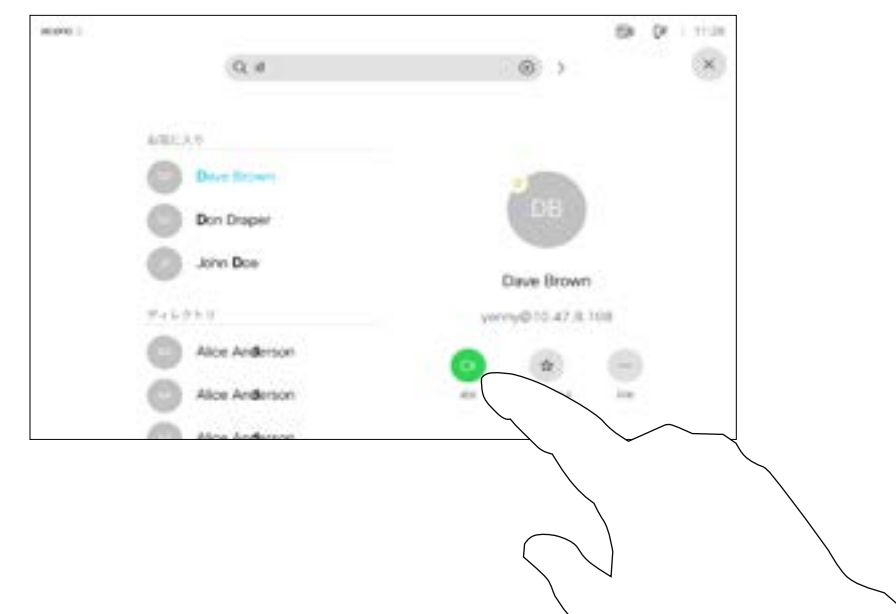
検索とダイヤルフィールドをタップします。これにより、キーボードが開きます

3



名前、番号、または住所を入力します。入力したとおりに、一致するものや候補が表示されます。一覧で求める連絡先が表示され場合はそれをタップします。それ以外の場合は入力を続けます。

4



通話先を入力または特定できたら、名前をタップしてから、緑色の発信ボタンをタップして発信します。

連絡先リストに登録されていないユーザでも、タッチパッド仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号をキー入力することで、そのユーザを呼び出すことができます。

以前にコールしてきた人やコールした人は、**[発信履歴 (Recents)]** リストに表示され、任意のコールを**[お気に入り (Favorites)]** リストに転送できます。これについては**連絡先**セクションで説明しています。

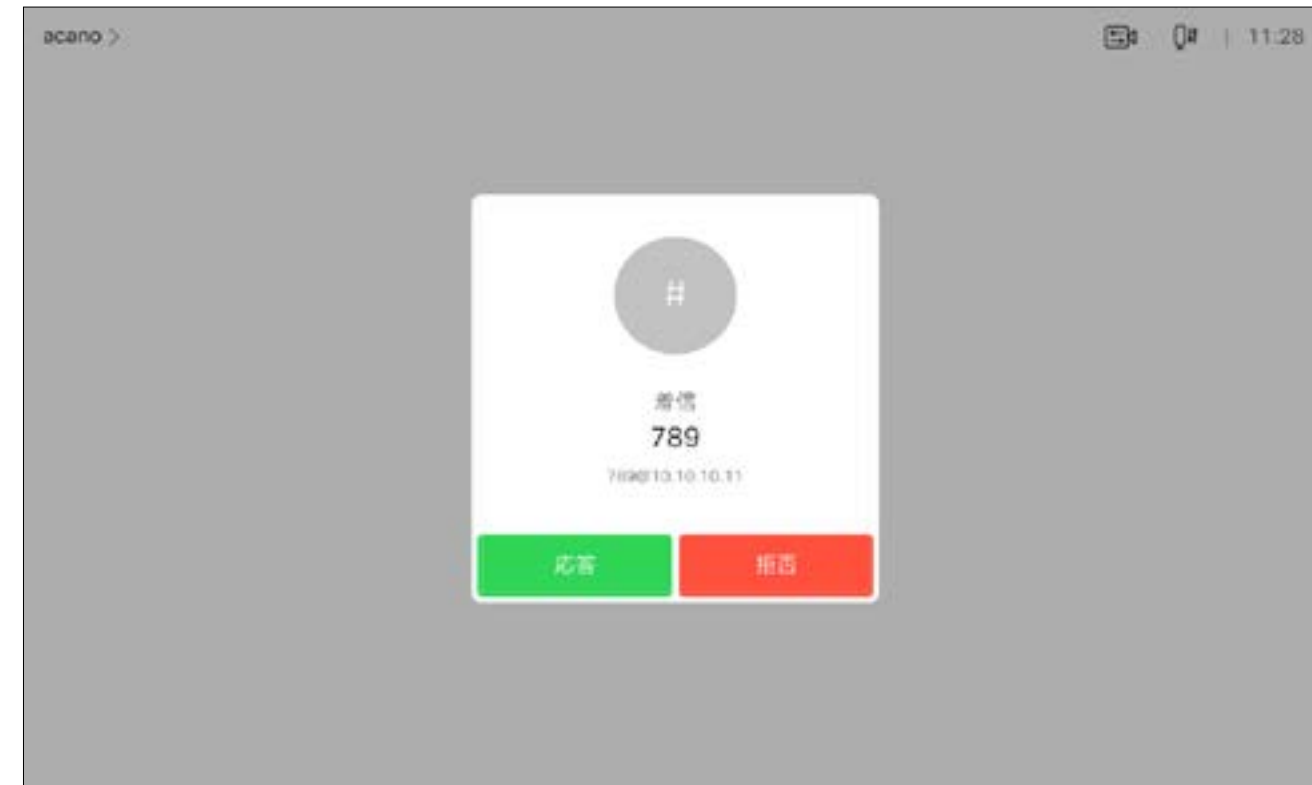
場合によっては、内線にアクセス、または暗証番号を提供するために、コール中に番号を入力する必要がある場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、**[トーン信号 (Touch Tones)]** (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

発信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

# 着信コール – 通話中以外の場合

## 着信があった場合



着信コールに対して、応答または拒否することができます。



デバイスで複数の着信コールを受信できる場合は、すべてを追加するか、すべて拒否するかを選択できます。

- ・ ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- ・ 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- ・ コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します (コールに応答しなかった場合)。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。



ビデオ通話  
通話中に別の通話に応答する

着信があった場合

すでに通話中の場合は、デバイスに対して有効になっているときに別の着信コールを受け入れることができます。



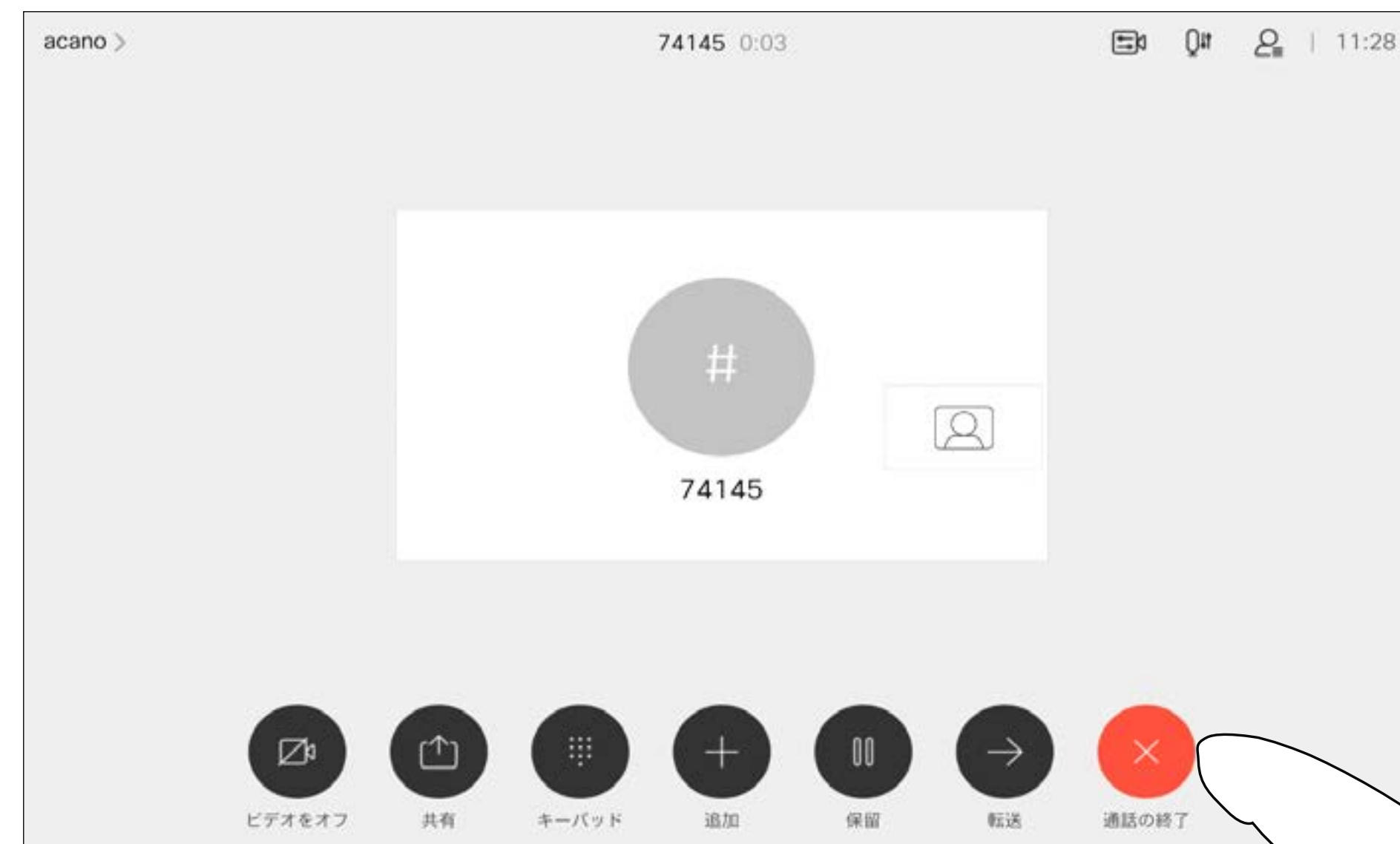
# ビデオ通話 通話から自分を切断する

## 自分で切断するについて

通話中に **通話の終了** をタップすると、通話が切断されます。2 人の参加者だけがコールした場合は、このコールは終了します。

複数の参加者がいる会議コールでは、**通話の終了** をタップすると、ユーザが通常の参加者である場合にのみ、参加が終了します。

ただし、自分がそういった会議のホストである場合、**通話の終了** をタップすると、会議のタイプによっては会議が終了します。

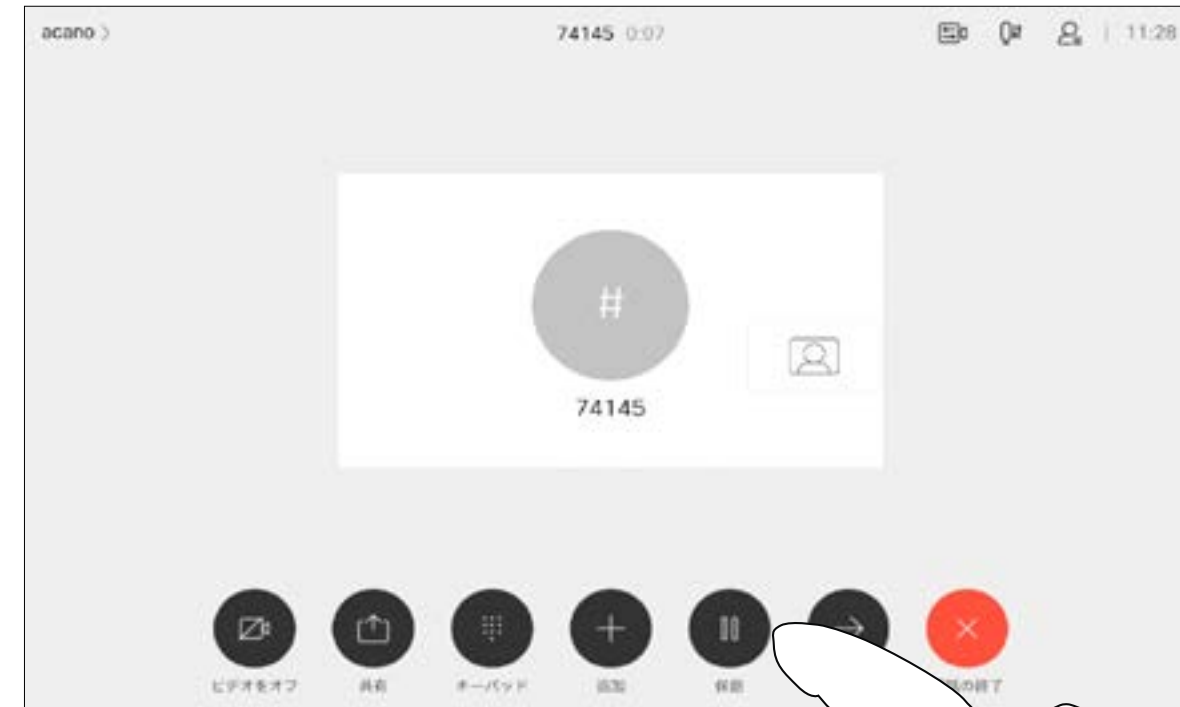


通話を切断するには、**通話の終了** をタップします。

# 通話を保留にする/保留中の通話を再開する

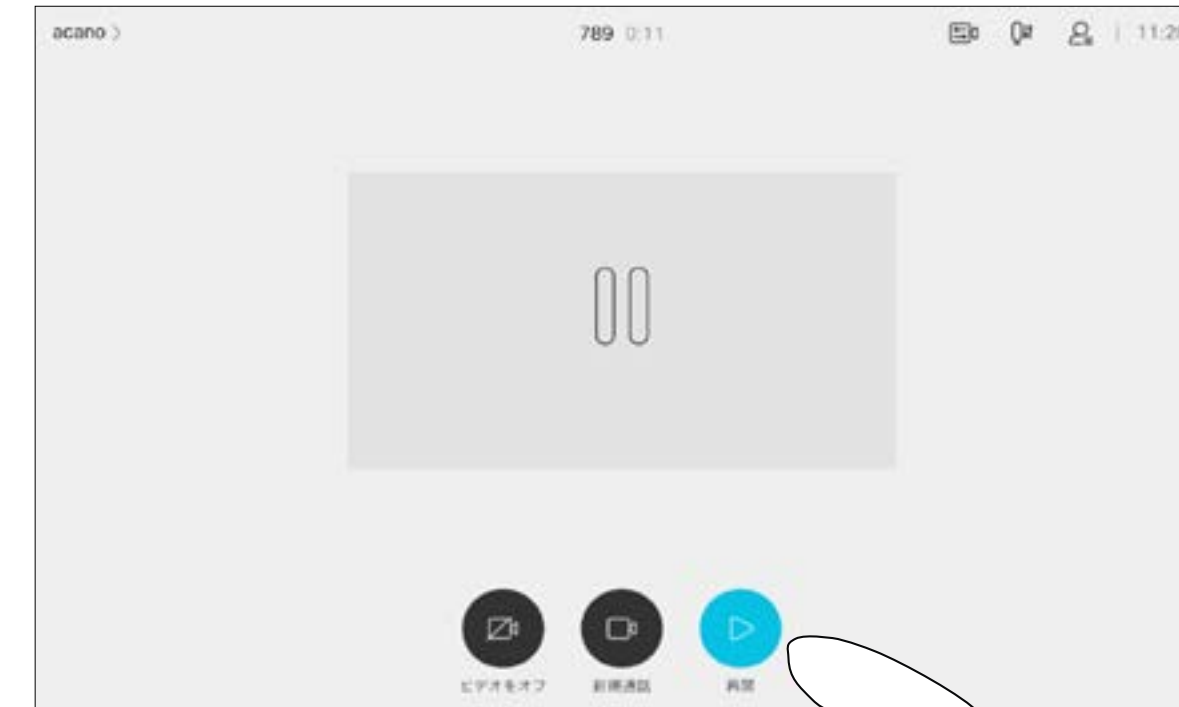
## 保留について

1



通話状態であるとして、**保留** をタップします。

2



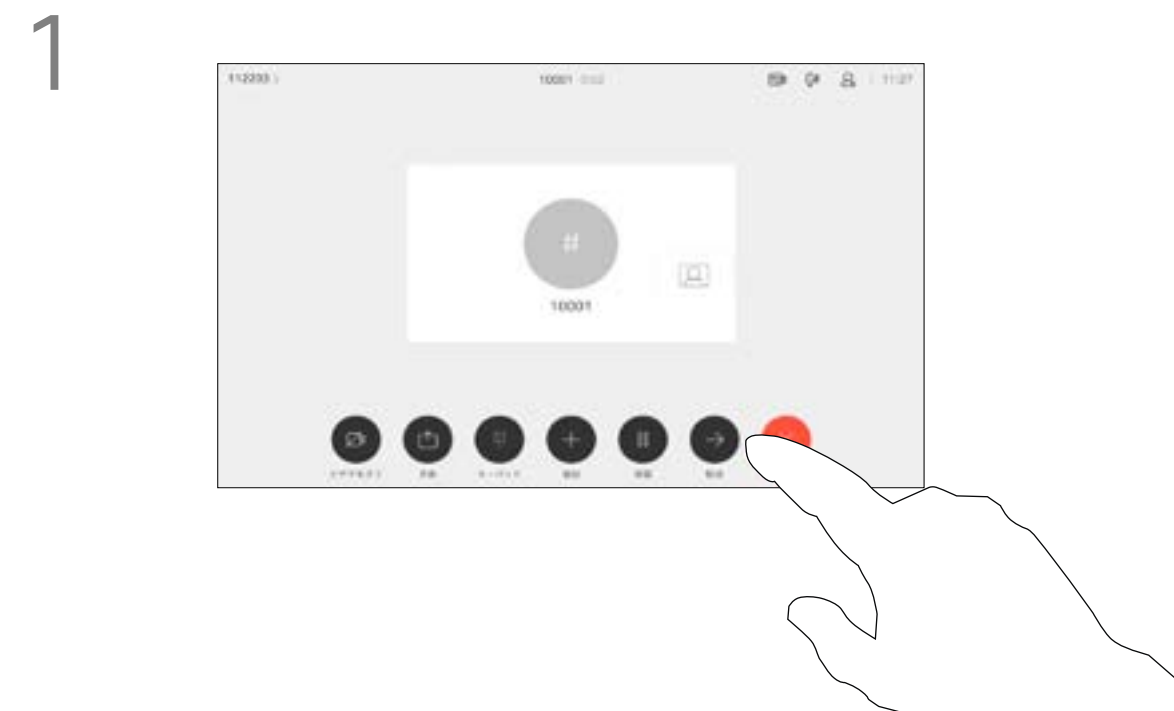
**再開** をタップして、通話状態にあった相手に戻ります(元の操作に戻ります)。

ユーザを保留中にすることは通常、ユーザを他のユーザに転送する際に最初のステップとして使用できますが、ユーザを調べる必要がある場合や、ビデオ転送の停止も含むミュートの代わりに使用することもできます。

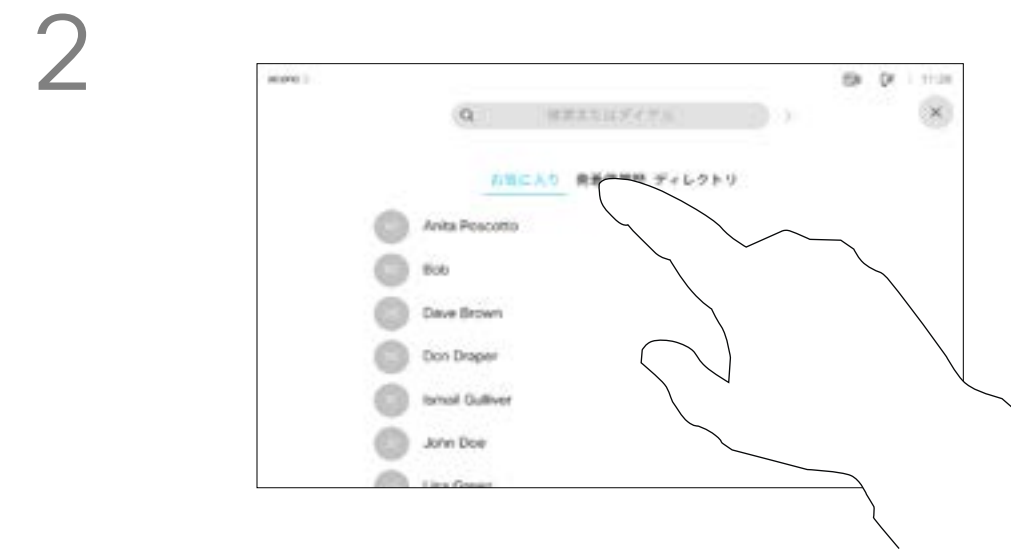
# ビデオ通話 継続中のコールを転送

## 転送について

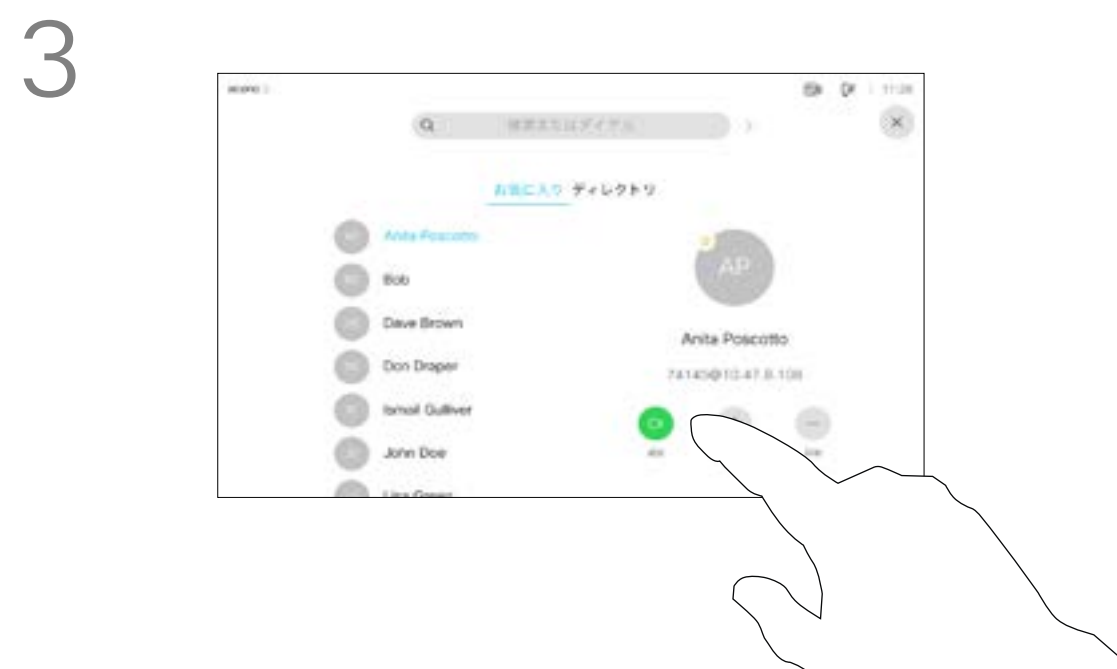
継続中のコールを別の人に転送することができます。転送は常に提案されており、コールを転送する担当者に連絡して、コールを実際に転送することができます。



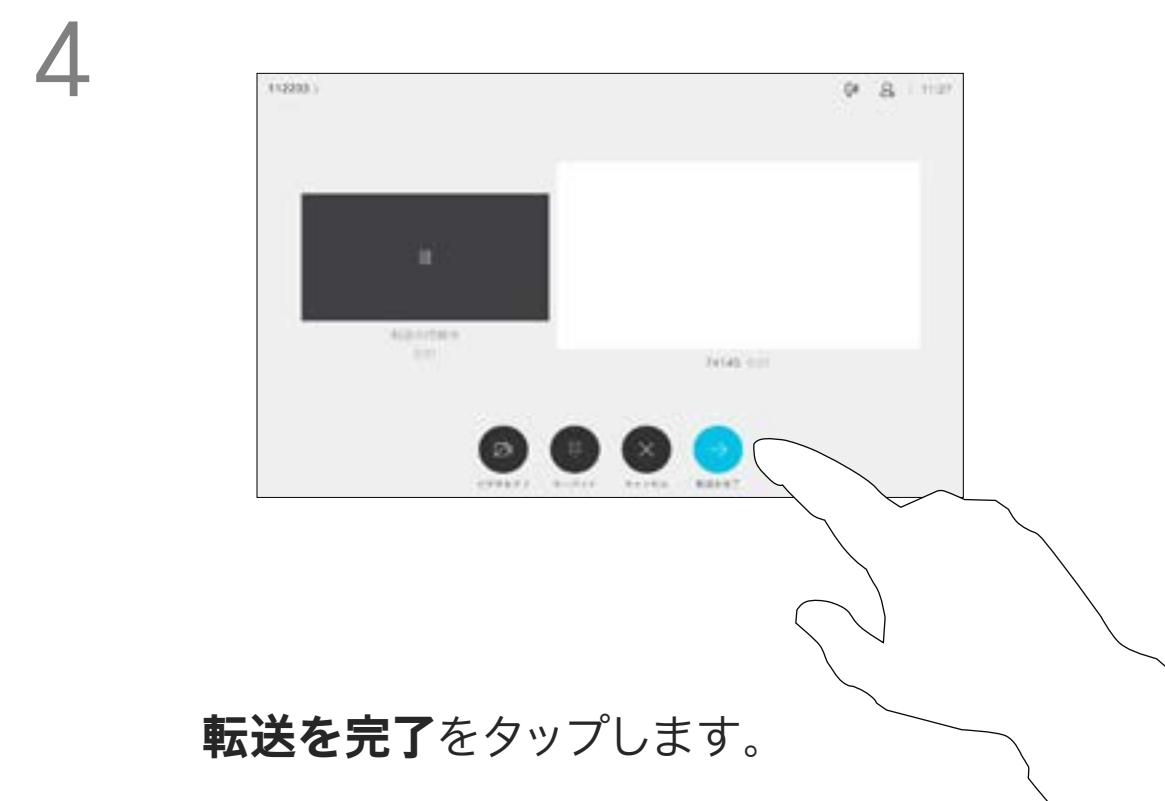
**転送**ボタンをタップします。  
現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



緑色の**通話**ボタンをタップします。  
相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。



**転送を完了**をタップします。



# ビデオ通話 応答不可を有効にする

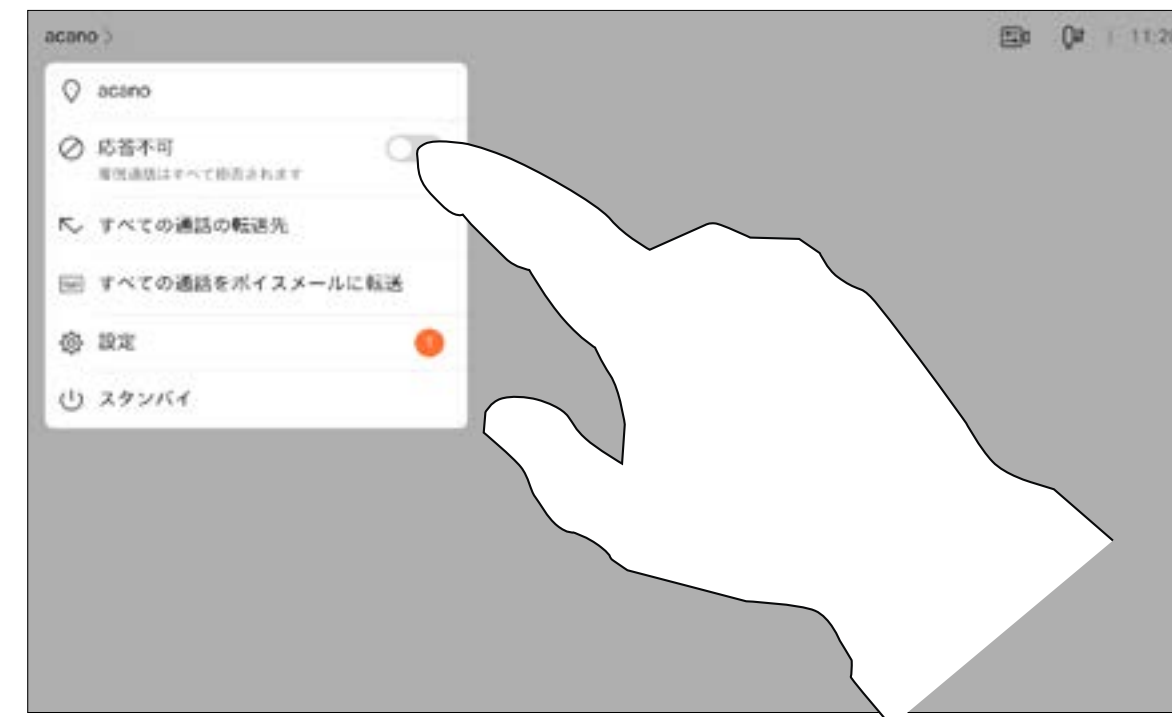
## 応答不可について

1



図のように、左上をタップします。

2



図のように [応答不可] をタップします。この機能を非アクティブにするには、同じ手順を繰り返します。

着信コールに応答しないようにデバイスを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

ビデオサポートチームがこの機能のタイムアウトを設定していて、その後デバイスが着信コールに応答して通常どおり応答している可能性があります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

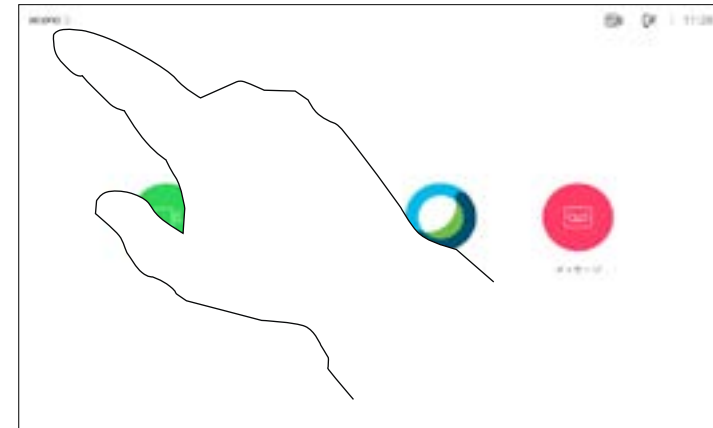
**Room Kit Mini を USB カメラとして使用する** USB カメラとして Room Kit Mini を使用し、PC とサードパーティのビデオクライアントを USB カメラとして使用することができます。重複コールによる競合を避けるため、デバイスは自動的に [応答不可] モードになっています。この状況では、[応答不可] モードをオフにすることはできません。

未登録のデバイスとしての Room Kit Mini の使用を選択した場合、コールのオーバーラップが発生しないため、上記の設定は適用されません。

# ビデオ通話 すべてのコールの自動転送

## 通話の転送について

1



図のように、左上をタップします。

2



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

ビデオサポートチームがすべての着信コールを転送するためのオプションを有効にしている可能性があります。ボイスメールと受信者のいずれかを選択できます。

**[すべてのコールの転送先]** をタップすると、いつもの **[発信]** メニューが表示され、受信者を指定できます

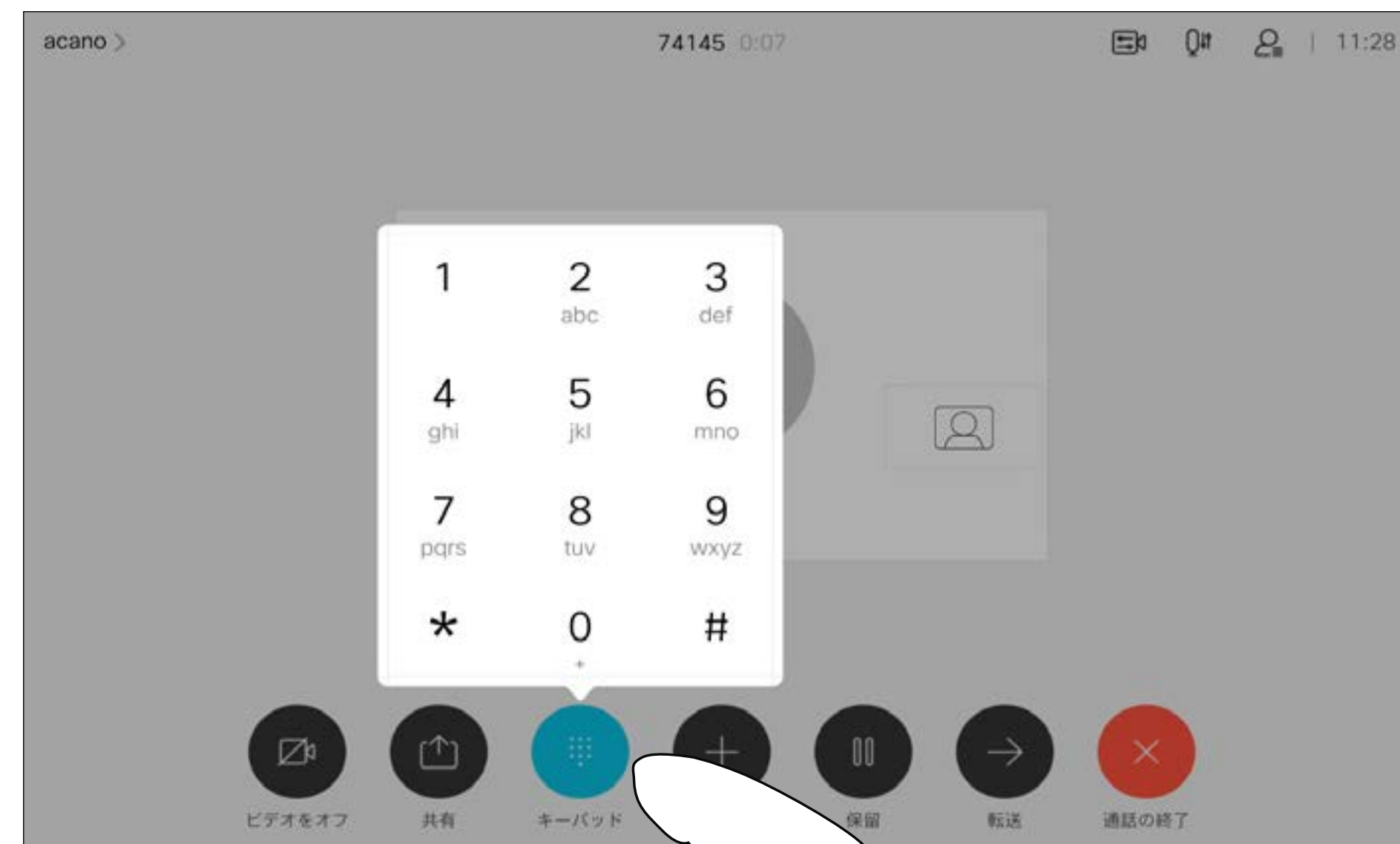
ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

ビデオ通話  
**通話中にキーパッドを表示**

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(暗証番号の使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号を入力するよう要求されることがあります。

これを送信するには、タッチ画面のキーパッドを呼び出す必要があります。



通話中に **キーパッド** をタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

# ビデオ通話 既存のコールへの参加者の追加

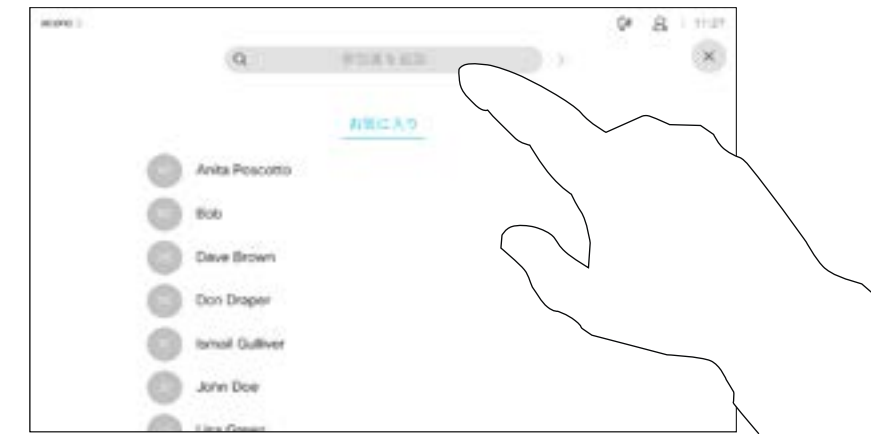
## ビデオ会議について

1



すでに通話状態であるとして、この通話は、あなた、または(あなたに対してコールした)他の人によって開始されています。追加をタップします。

2



通常の方法で、発信先を探します。

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへ問い合わせてください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

3



通常の方法で発信します。

4



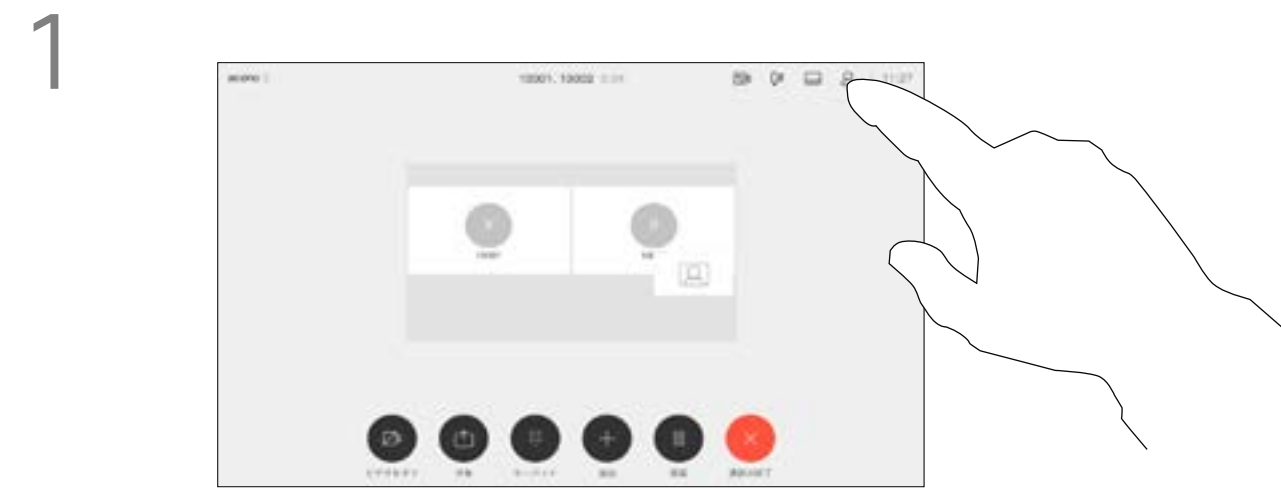
既存のコールにこの新しいコールが追加され、会議を確立しました。

この手順を繰り返して、ビデオ インフラストラクチャが許容する範囲まで参加者を追加できます。

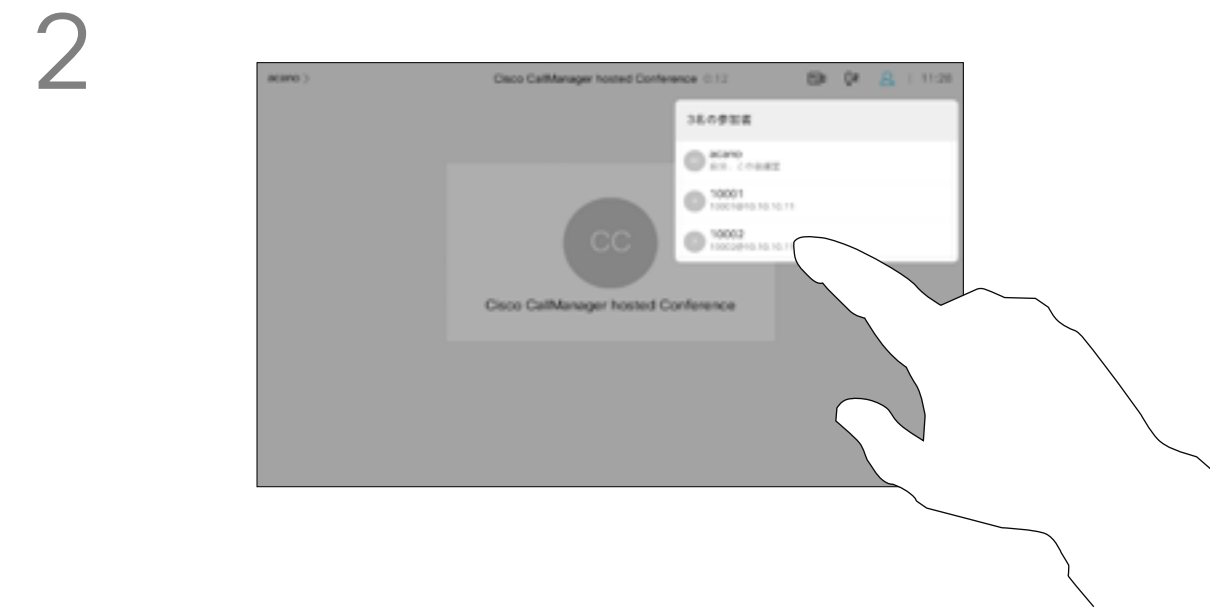


# ビデオ通話 会議から参加者を切断

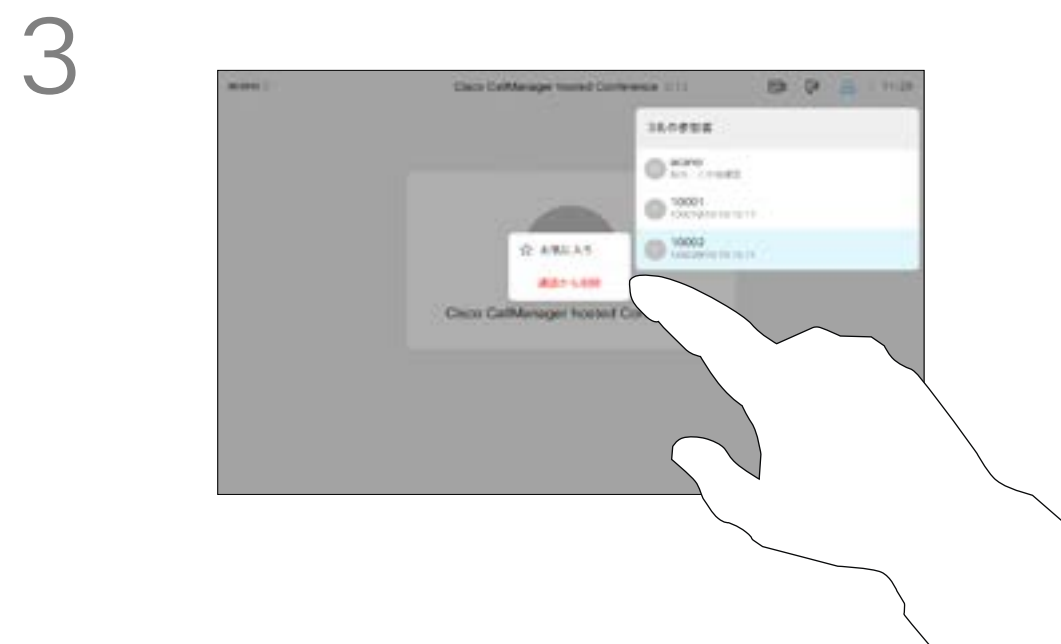
## ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の**参加者**アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



電話会議から切断する参加者をタップします。



**コールから削除**をタップします。

デバイスからビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで使用できる場合とできない場合があります。

会議から参加者を切断できるのは会議のホストのみです。

ビデオ通話  
参加者をミーティングに許可する

参加者の許可について

ロックされている CMS ミーティングでは、参加者を参加者一覧からミーティングに参加させることができます。

1



誰かがロビーで待機中の場合、画面にメッセージが表示されます。

2



参加者アイコンをタップして開きます。

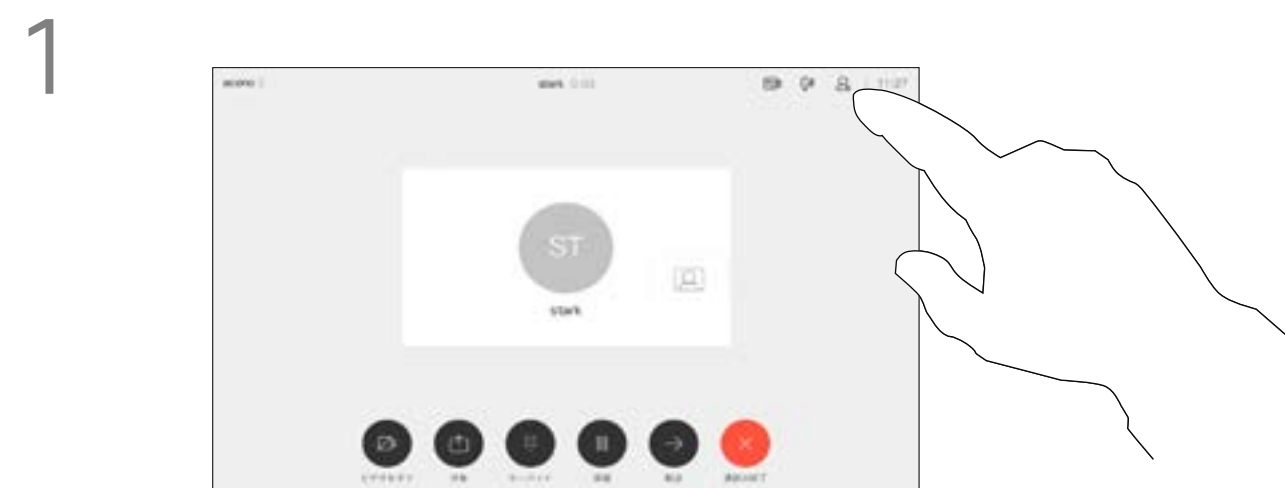
3



許可をタップして参加者をミーティングに参加させます。

# ビデオ通話 会議中のスピーカーの固定

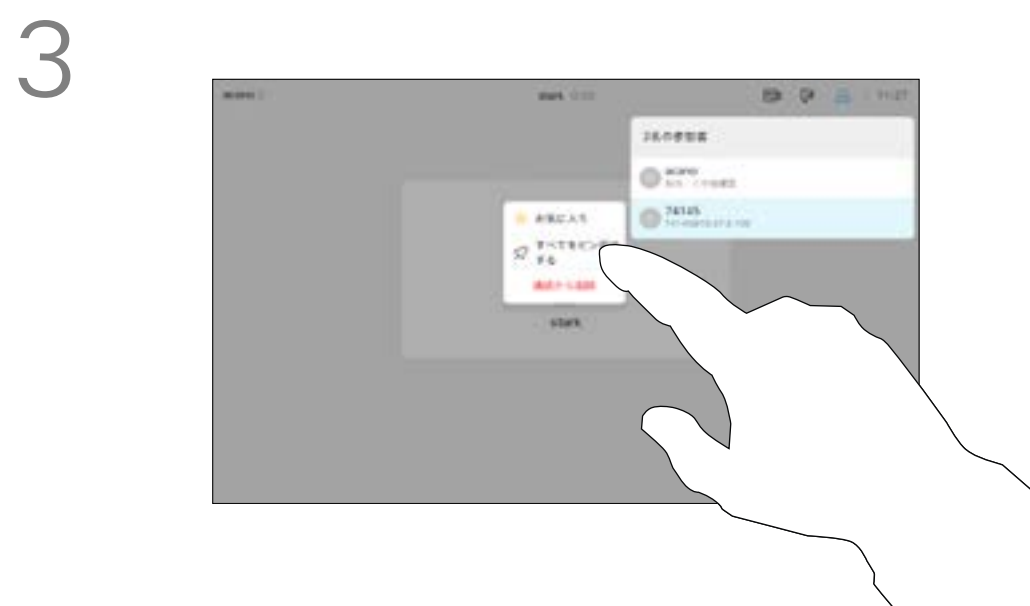
## スピーカーの固定について



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



固定する参加者をタップします。



すべて固定をタップします。

CMS ミーティングでは、ミーティングの参加者全員にとって重要であるとしてミーティングの参加者を固定することができます。このようにすると、参加者または会議室にアクティブなスピーカーでなくても、全画面に表示されます。

スピーカーを固定すると、そのスピーカーが固定されていることを示す通知が画面に表示されます。同様に、固定を解除すると、それらの固定が解除されたというメッセージが表示されます。

音声のみの参加者を固定する場合、この設定はレイアウトには反映されません。

デフォルトでは、ホストのみがすべてを固定できますが、ミーティングの開催者は会議の設定でこれを変更することができます。

スピーカーは、CMS ミーティングでのみミーティング全体に対して固定できます。

ビデオ通話

# ミュージックモードの使用

1



ホーム画面のマイクアイコンをタップし、[音楽モード (Music mode)] を選択します。

ミュージックモードをオフにするには、もう一度 [デフォルト (Default)] ボタンを選択します。

## ミュージックモードについて

ミュージックモードを使用すると、通話中に、音楽のダイナミックレンジを流すことができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くのが重要な設定で、より良いエクスペリエンスが作成されます。

ミュージックモードは、リモートミュージックのレッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避します。

ミュージックモードを使用していない場合は、デバイスによって雑音がフィルタリングされ、音声のレベルの違いが減少します。これにより、ミーティングの設定に対応し、気を散らすノイズを減らすことができます。デバイスを使用して録音された音楽を再生する場合にも、追加のフィルタリングが適切に機能します。

ミュージックモードを使用するには、まずデバイス上で有効にする必要があります。ホーム画面の左上隅にあるデバイス名を選択して、設定 > ミュージックモードに移動してトグルをオンに切り替えます。

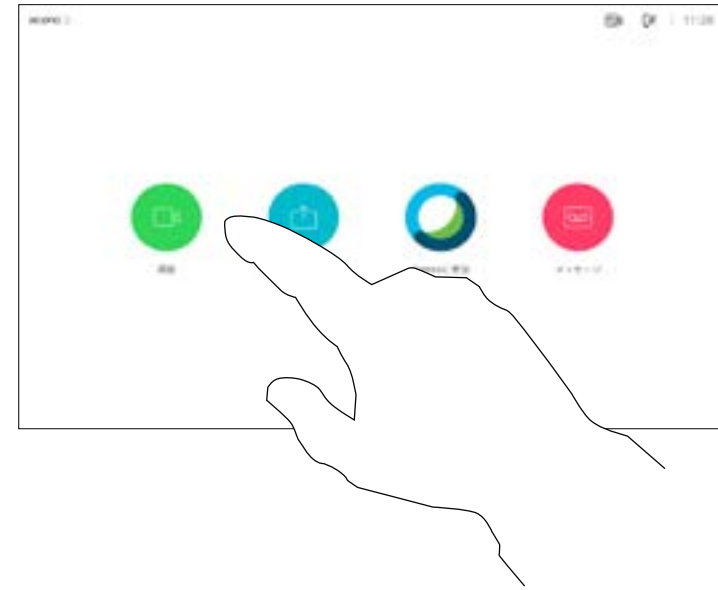
注: 音楽モードとノイズ除去は同時に使用できません。



# ビデオ通話 最近の通話のコール詳細検索

## 通話の詳細について

1



通話ボタンをタップします。

2



最近をタップしてスクロールし、情報を確認します。

最近の通話のトラブルシューティングを行う必要がある場合は、[最近の通話] リストから通話の詳細を見つけることができます。

3

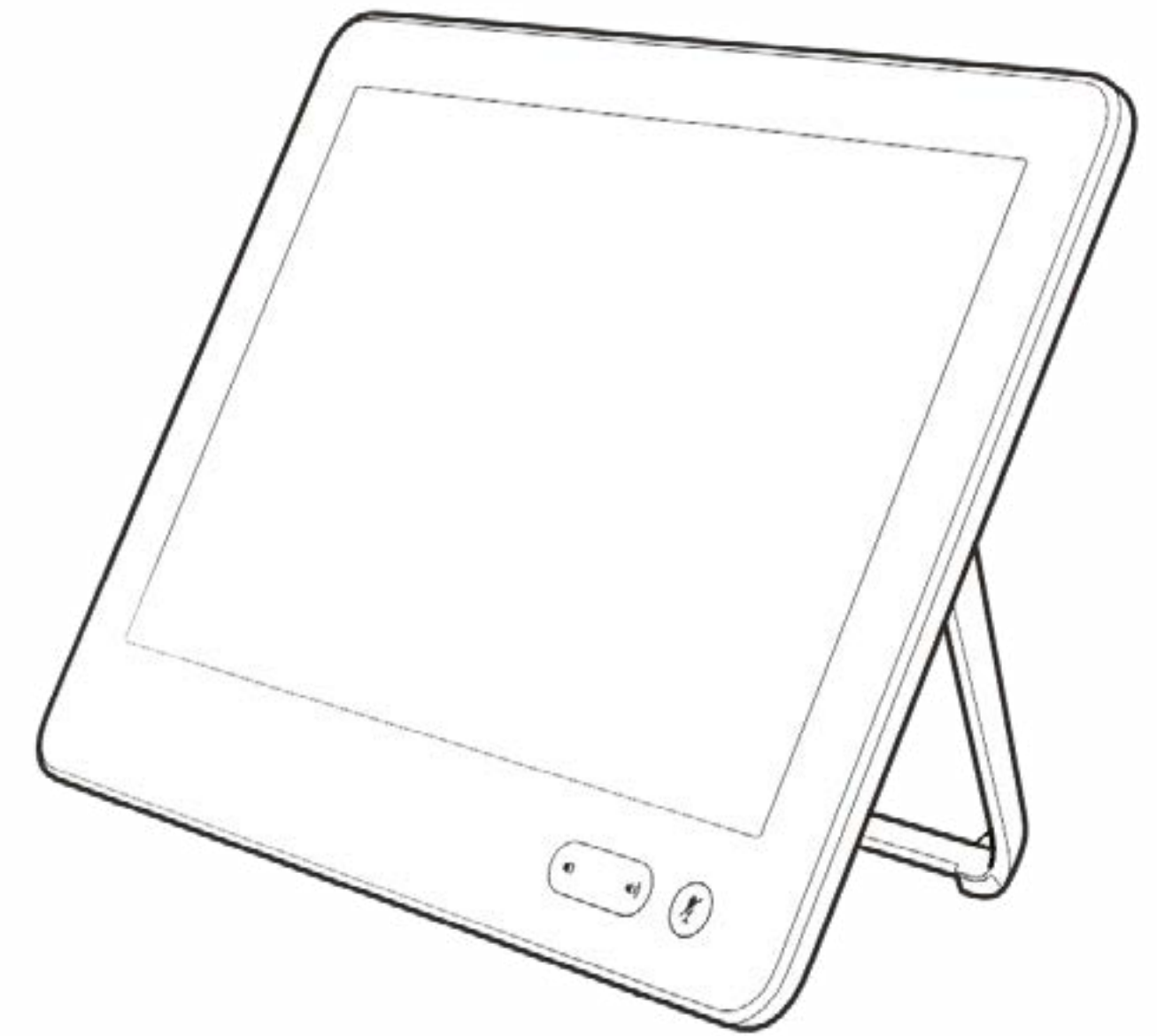
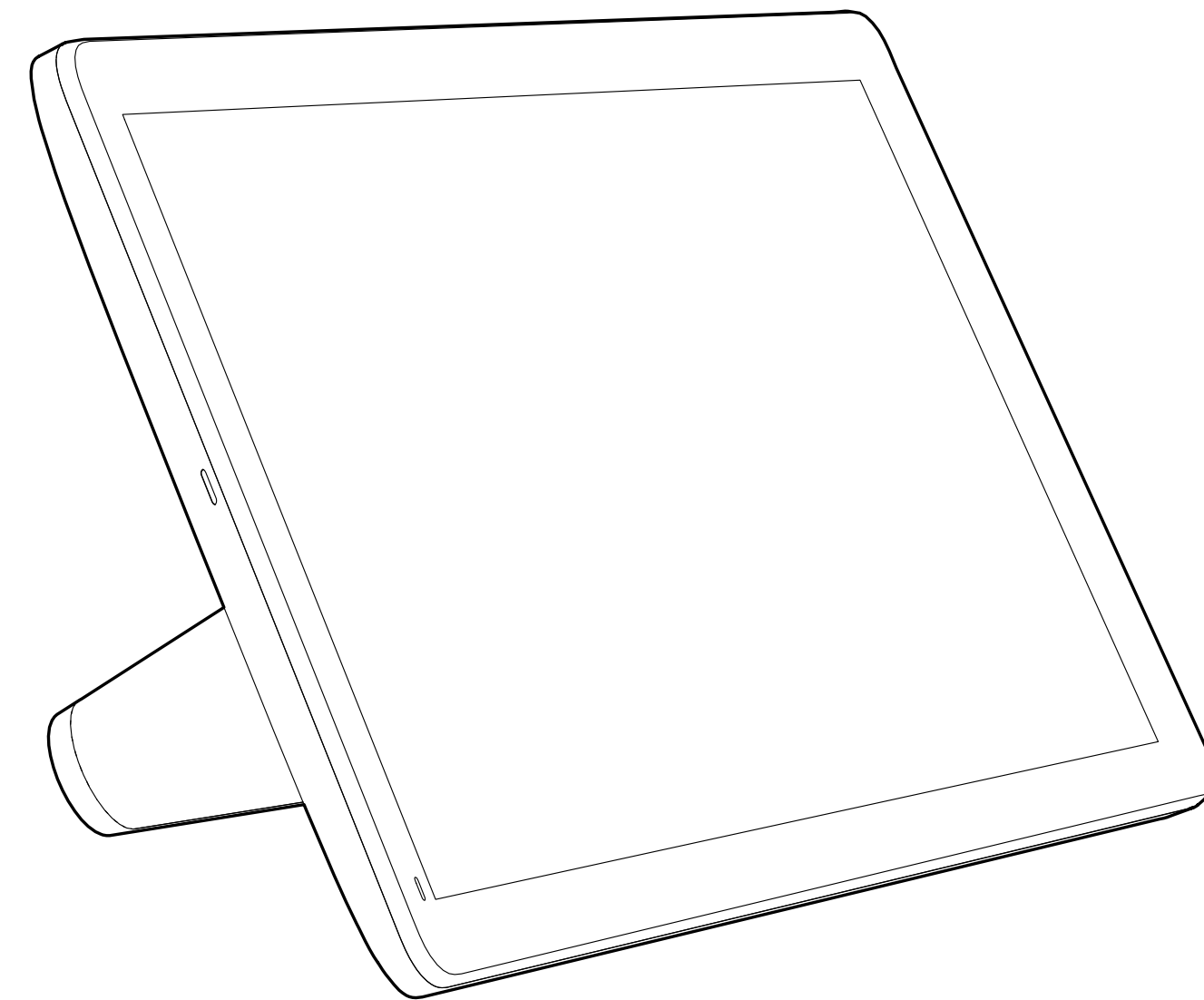


エントリが見つけたら、タップして [通話] メニューを表示します。[通話] メニューで、☰に示すようにMoreをタップして、通話詳細をタップします。

4



[通話情報] ペインをスクロールして、必要な情報を探します。  
× をタップしてペインを閉じます。



# インテリジェント近接通信



# Cisco 近接通信の超音波信号

Cisco ビデオデバイスは、近接機能の一部として超音波を発しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接通信信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン [http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code\\_24-securete/index-eng.php#a2.2.2](http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securete/index-eng.php#a2.2.2) (英語) をご覧ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループ使用の一体型スピーカー付き Cisco ビデオデバイスの場合、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満でスピーカーから 50 cm 以上の距離にあります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズレベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いので、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なります。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることとなります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

Cisco のビデオコーデックとサードパーティ製のスピーカーデバイスを使用したソリューションでは、Cisco は超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

## 近接通信について

インテリジェント近接機能を使用すると、コンピュータからビデオデバイス上のワイヤレスでコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

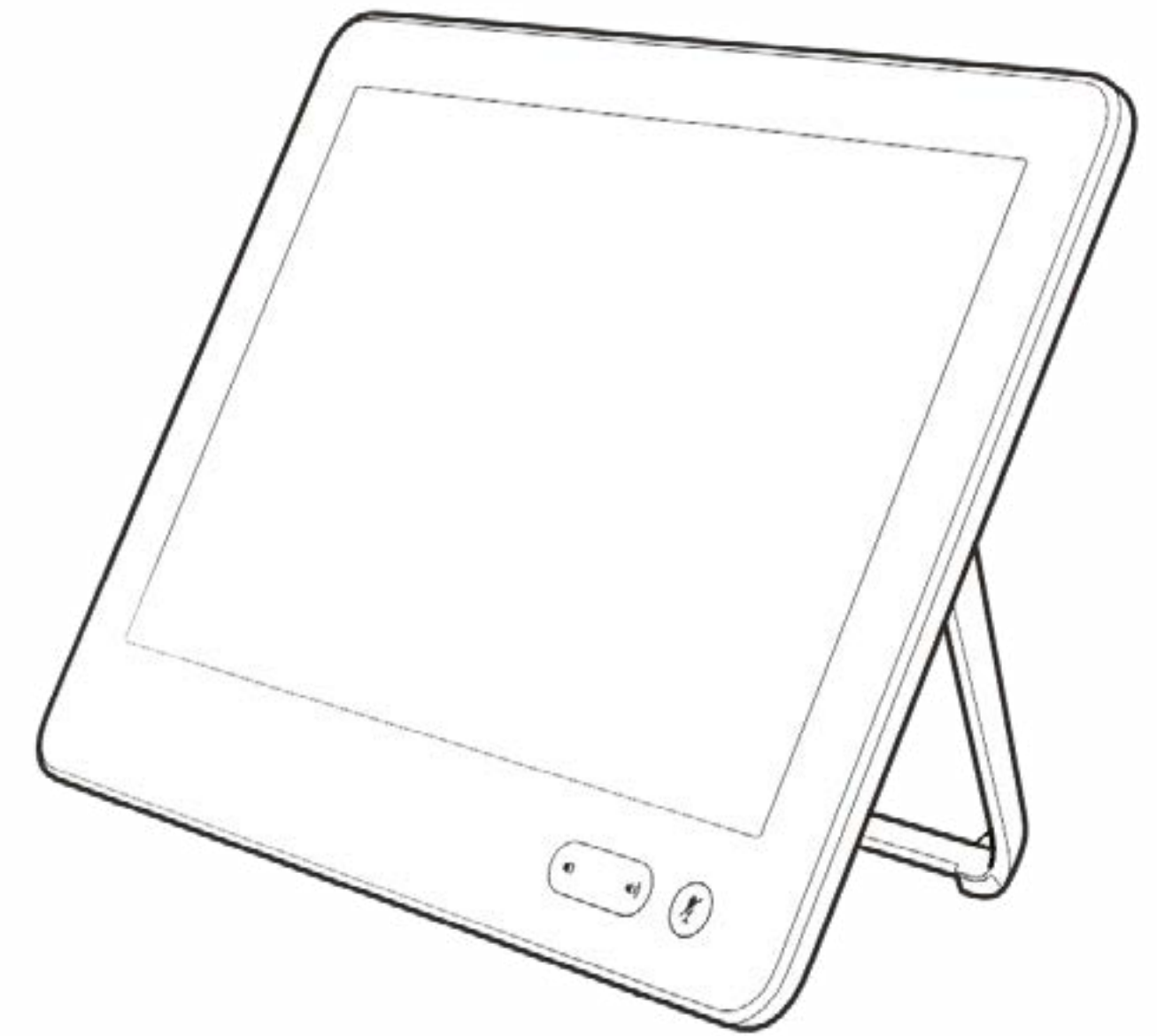
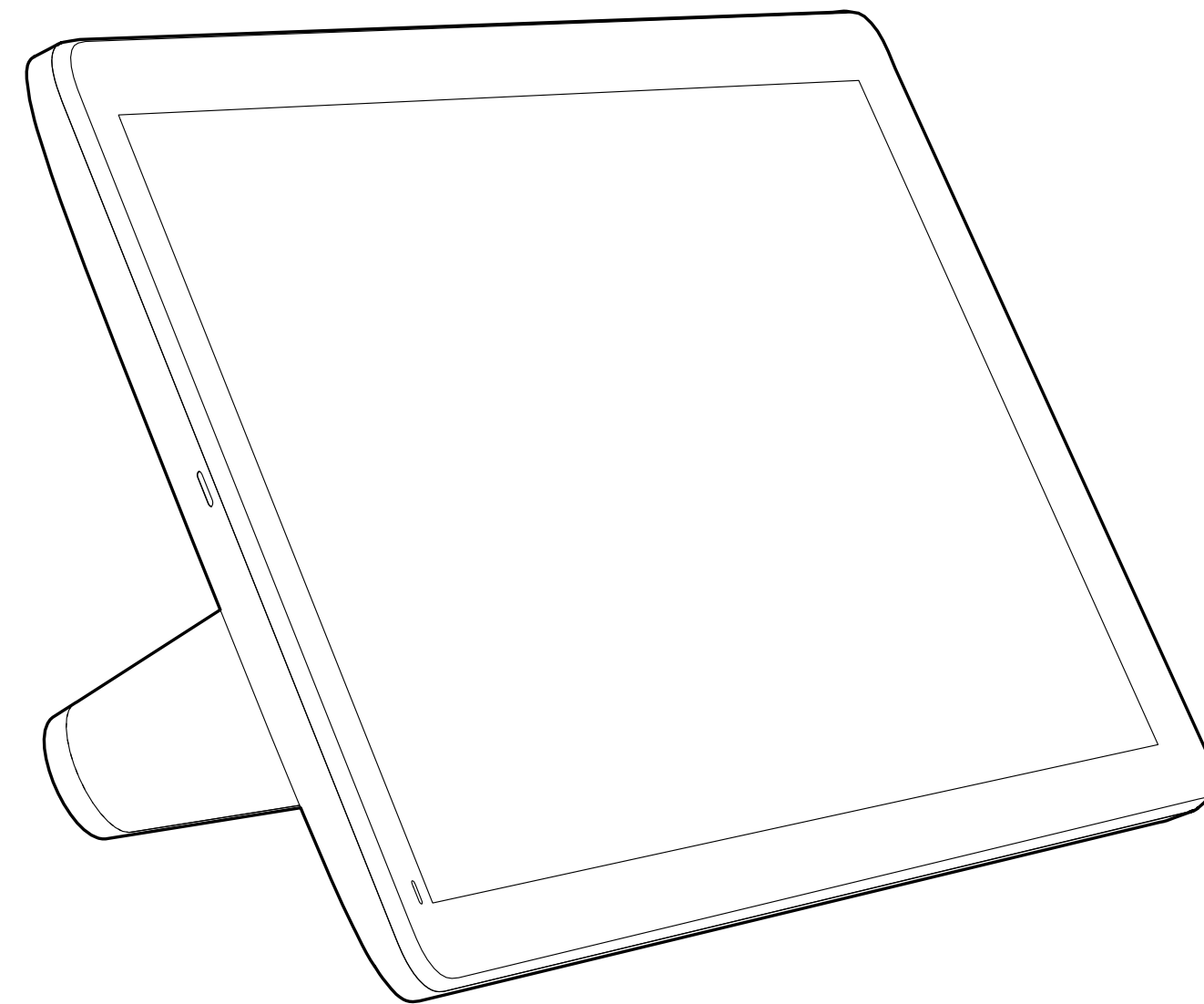
Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

インテリジェント近接通信は、会議室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



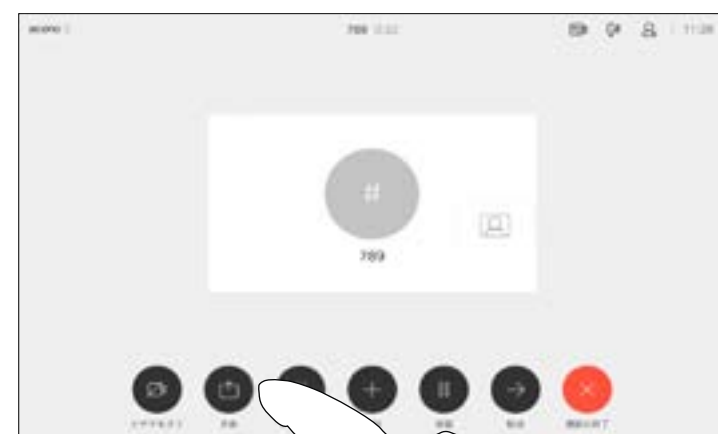
# コンテンツ共有



# コンテンツ共有 通話中のコンテンツ共有

## コンテンツ共有について

1



適切なケーブルを使用してデバイスにソースを接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、共有をタップします。

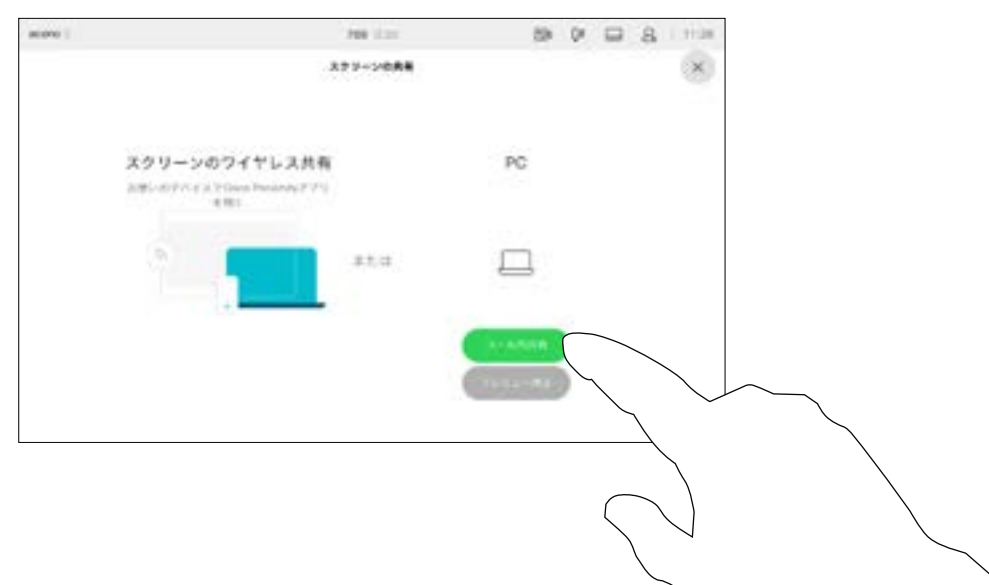
2



プレビューをタップすると、自分のデバイスだけで共有するコンテンツが表示されます。これはリモート参加者とは共有されません。

前の表示に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。

3



プレビューを中止するには、**プレビューを中止** をタップします。

リモート参加者とコンテンツを共有するには、**通話中に共有** をタップします。

4



リモート参加者とのコンテンツ共有を中止するには、**共有を停止** をタップします。

ビデオデバイスは、ビデオコールでプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

ソースデバイスがインテリジェントな近接通信を持つようになっている場合は、デバイスをビデオデバイスとペアリングし、ワイヤレスでコンテンツを共有できます。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。詳細については、次のページを参照してください。

**メモ:** デバイスは HDCP で保護されたコンテンツを共有するビデオ入力コネクタを使用するように設定されている場合があるため、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダーを使用したビデオの視聴が可能になります。

この機能を使用できるのは非通話時のみです。

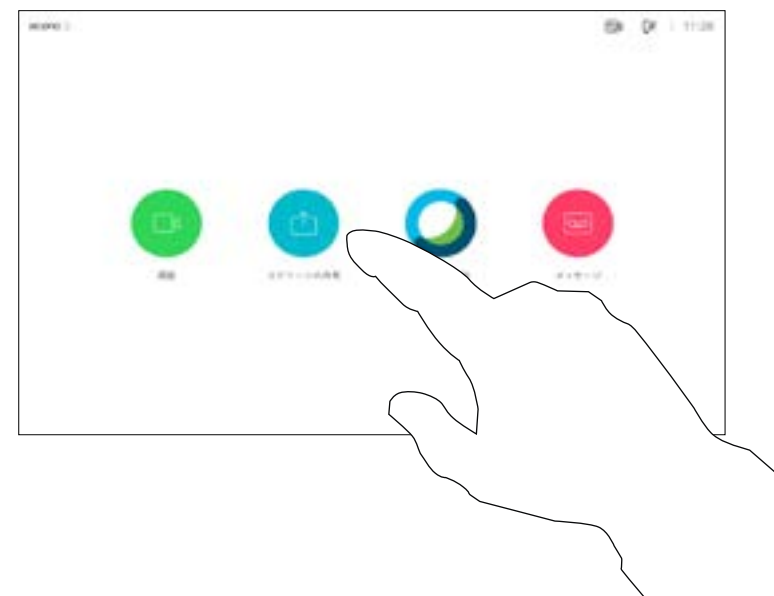
コール中に、この特定のビデオコネクタを使用してコンテンツを共有しようとすると、コンテンツの共有は行われません。その代わりに、HDCP 体制を維持するために通常、コンテンツ sharingI に通常割り当てられる画面の部分が黒になります。

これは、この入力コネクタからのコールで共有しようとしているあらゆるコンテンツに適用されます。これは HDCP で保護されているかどうかは関係ありません。

# コンテンツ共有 コール外でコンテンツを共有する

## ローカル コンテ ンツの共有

1



適切なケーブルを使用してビデオデバイスにソースデバイスを接続し、スイッチがオンになっていることを確認して、共有をタップします。

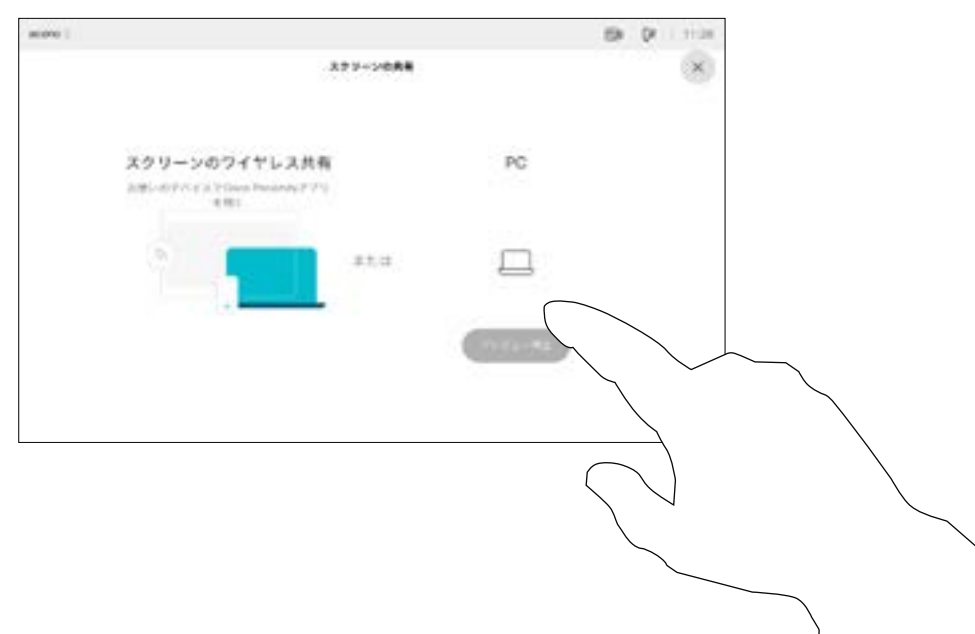
2



共有をタップして、デバイスの画面のコンテンツを表示します。

前の表示に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。

3



セッションを終了するには、共有を停止 をタップします。

また、そのデバイスをローカルミーティングで使用して、コールの外部でコンテンツを提示および共有することもできます。

ソースデバイスがインテリジェント近接通信を有効にしている場合は、そのデバイスの近接通信をオンに切り替えるだけです。ソースデバイスをビデオデバイスとペアリングすると、コンテンツをすぐに共有できます。

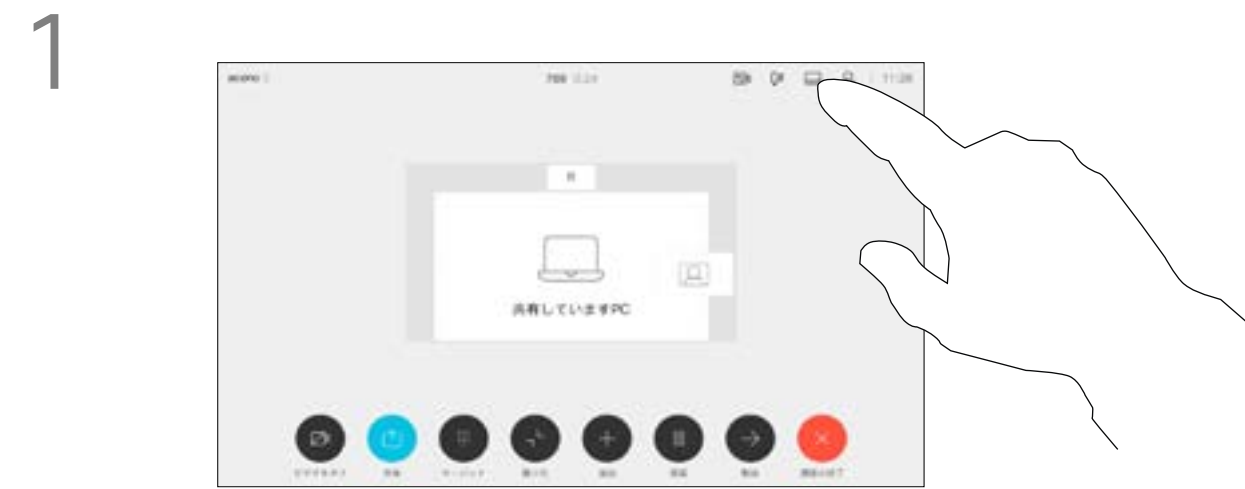
**ヒント！** 複数の画面を搭載したデバイスでは、画面の数だけ、独立したプレゼンテーションが表示されます。これは非通話時のみ可能です。

**メモ:** 最初に接続するプレゼンテーションをワイヤレス接続し、次にケーブル接続を使用することを推奨します。これを別の方法で行うと、最初の接続が切断される可能性があります。

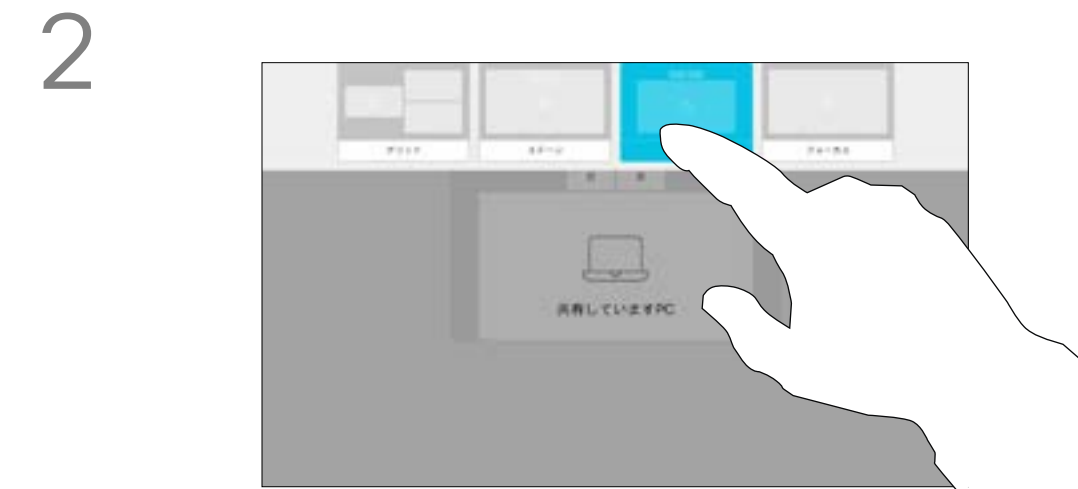
**HDCP:** デバイスは HDCP で保護されたコンテンツを共有するビデオ入力コネクタを使用するように設定されている場合があるため、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダーを使用したビデオの視聴が可能になります。詳細については、前のページを参照してください。

コンテンツ共有  
**通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更**

プレゼンテーション レイアウトについて



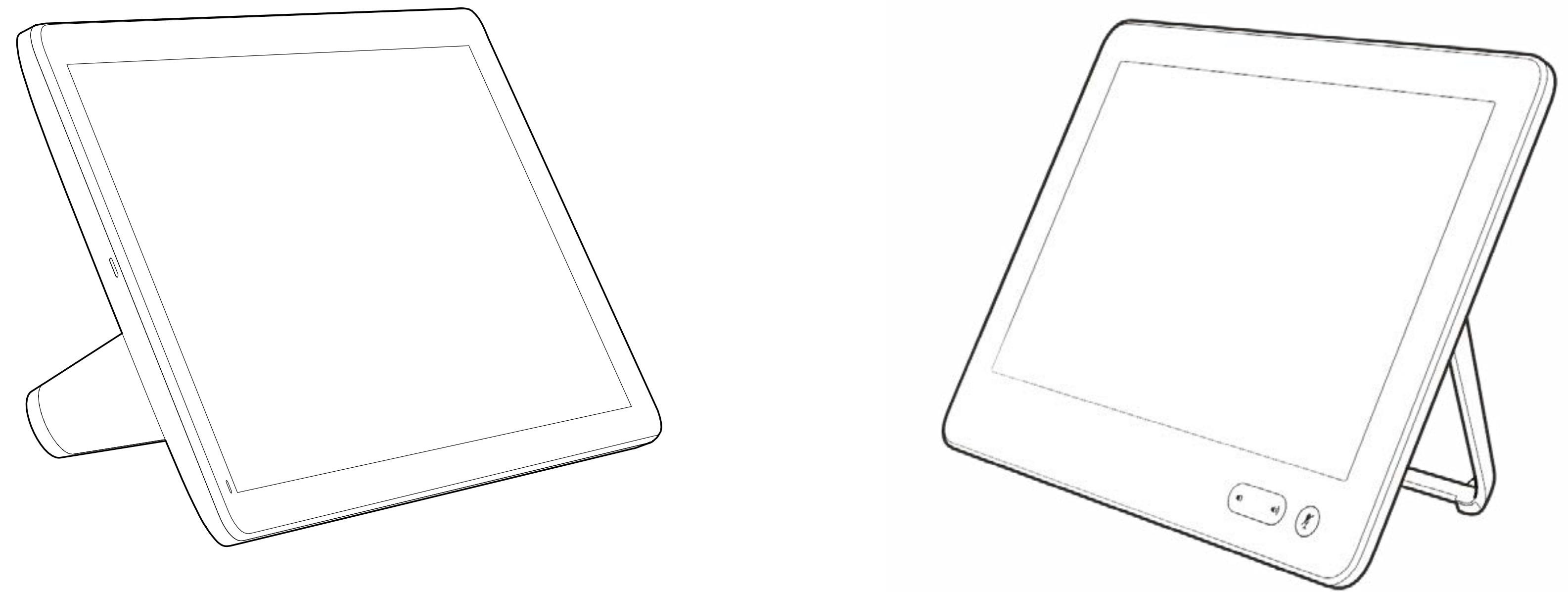
図のようにレイアウトアイコンをタップします。



使用するレイアウトをタップします。完了したらフィルムストリップ以外の場所をタップします。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更することができます。一般的な利用可能なオプションは、プレゼンタの表示または非表示に加え、プレゼンタを PiP (ピクチャインピクチャ) または PoP (ピクチャアウトサイドピクチャ) での表示を指定します。

デバイスで使用可能なレイアウトオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトは常に選択可能なものです。



# ミーティングのスケジュール



ミーティングのスケジュール

# ミーティングのスケジュールに参加する

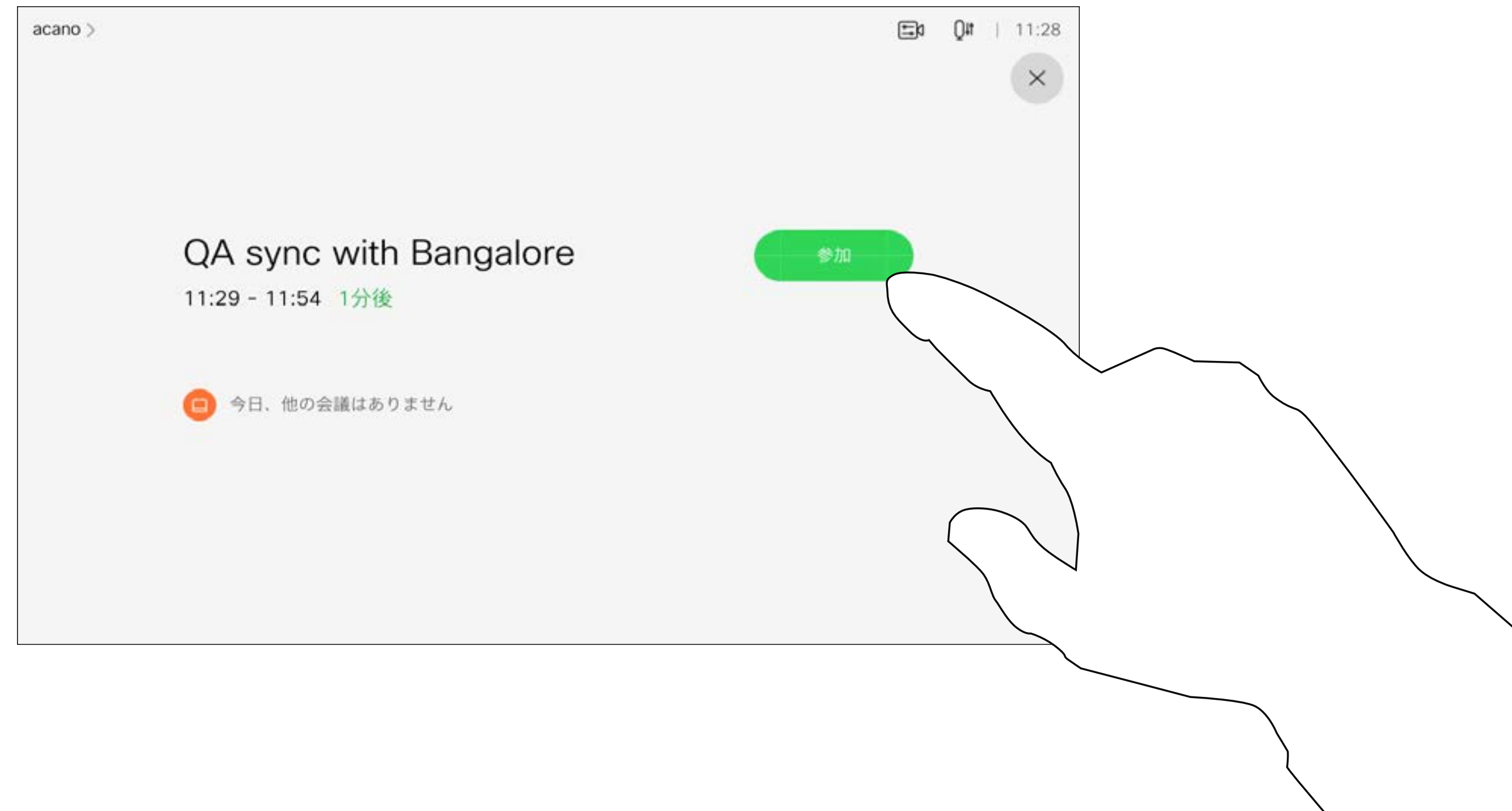
## ミーティングへの参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。スケジュールされたミーティングは左図のように表示されます。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

ミーティングがすでに始まっていても参加できます。

[デバイス] 画面にスケジュールされたミーティングが表示されると、デバイスはスタンバイからウェイクアップします。



ミーティングを開始しようとする、ミーティングへの参加を促すメッセージが表示されます。参加をタップします。

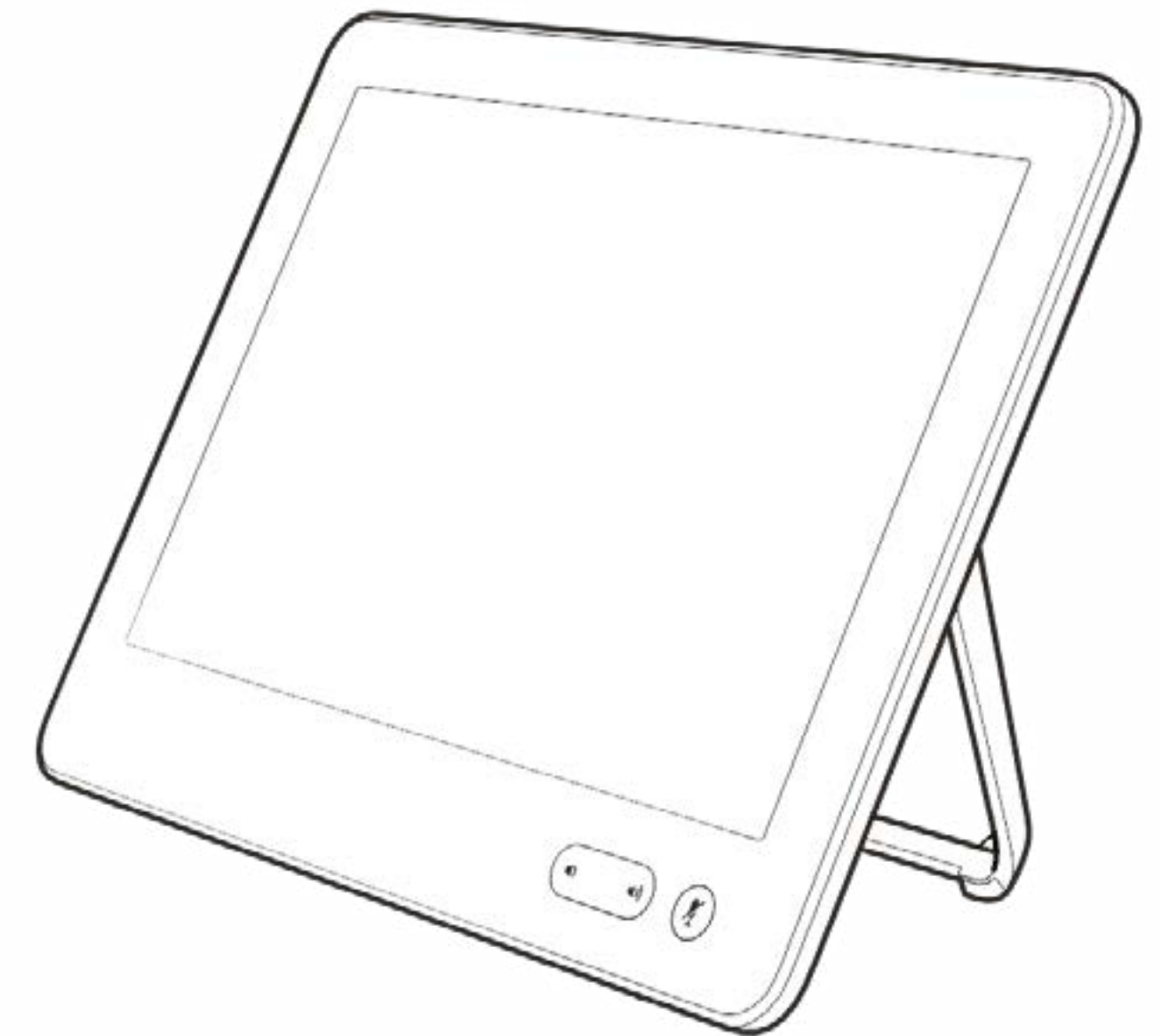
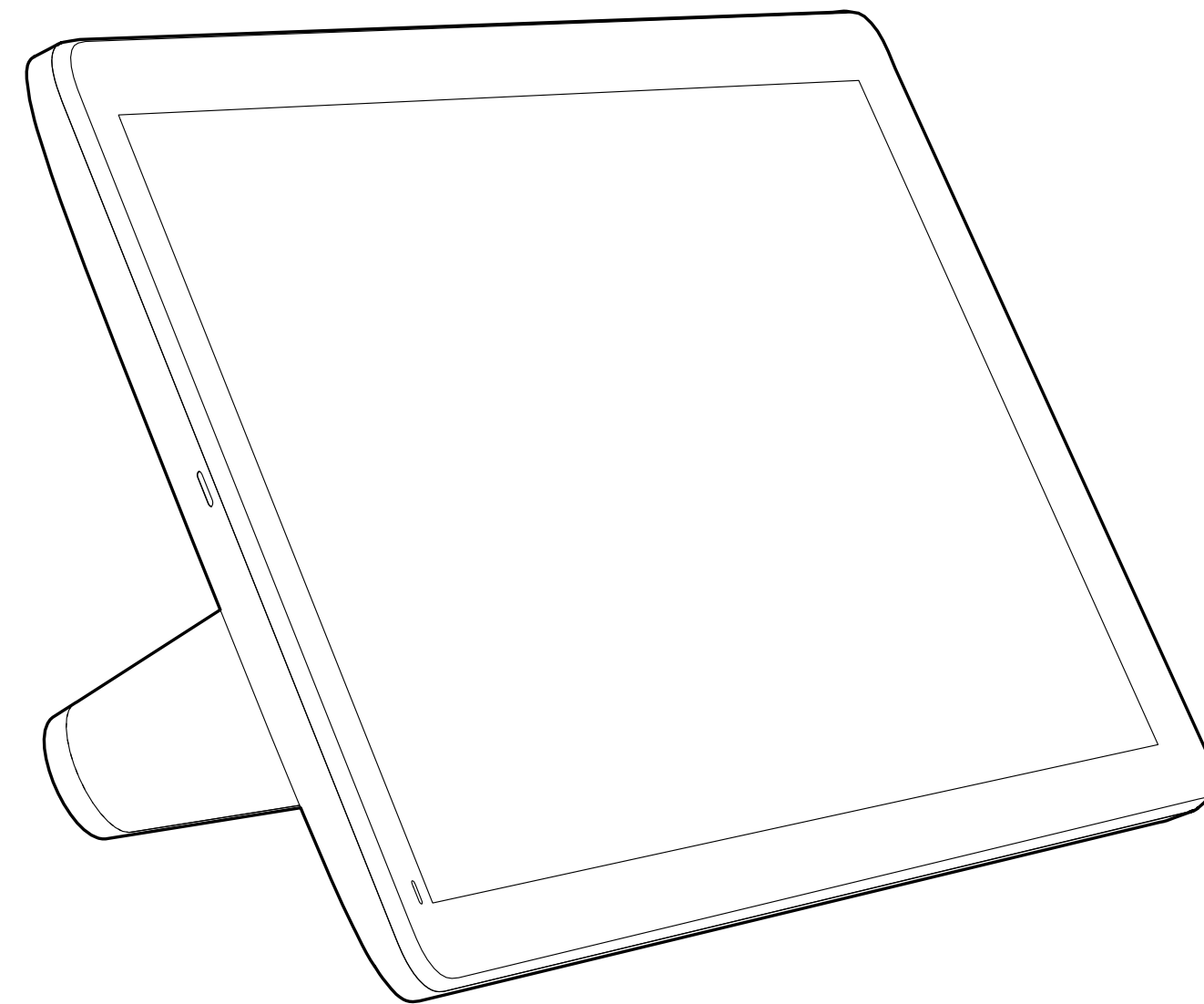


ミーティングのスケジュール

# Webex ミーティングへの参加



タップで Webex に参加次に、受信した招待ミーティングの番号キーを入力して、参加を押します。



# 連絡先

連絡先

# お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ

## 連絡先リストについて

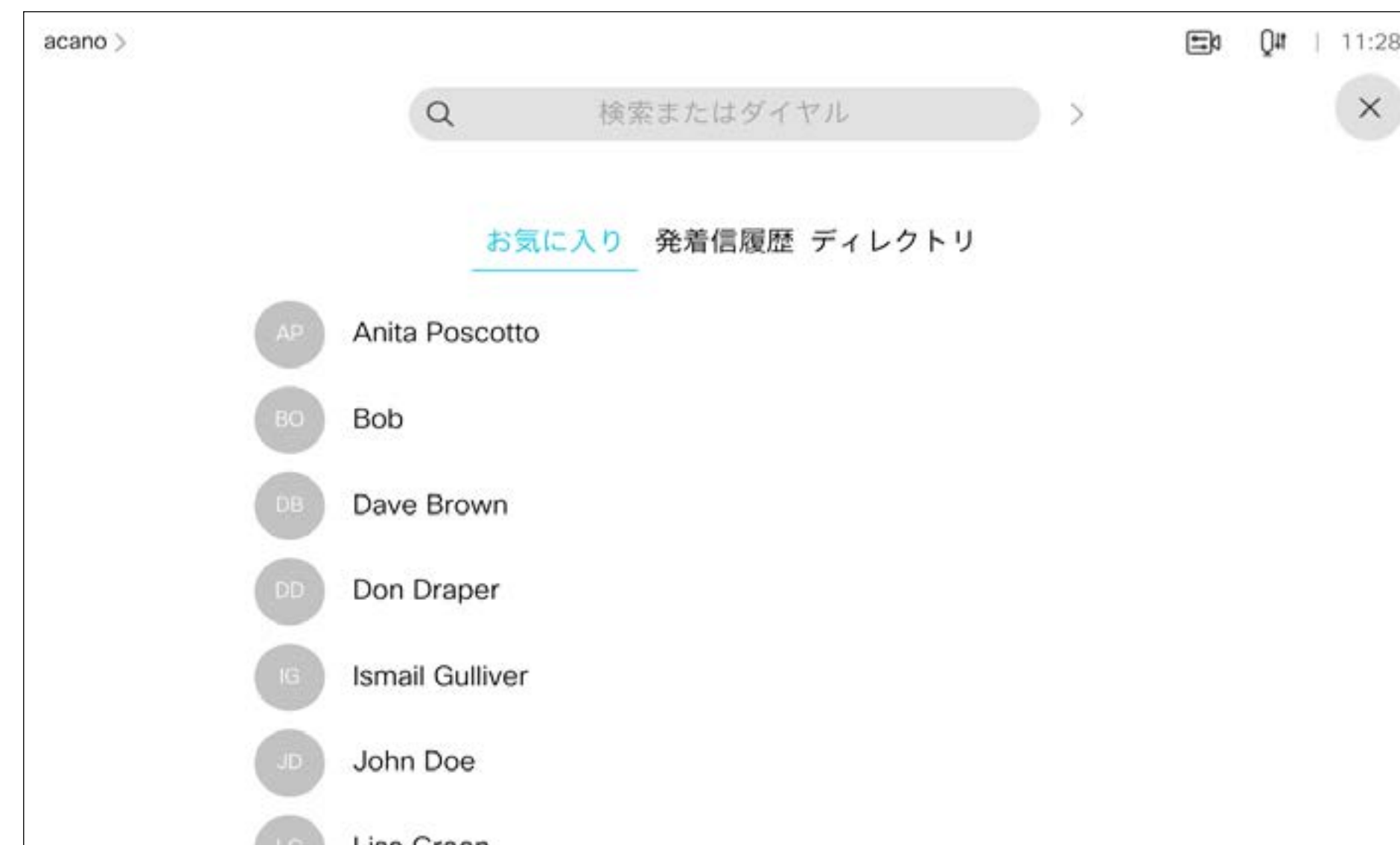
連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

**お気に入り。**これらの連絡先はユーザーによって追加されました。通常、これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

**ディレクトリ**は通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

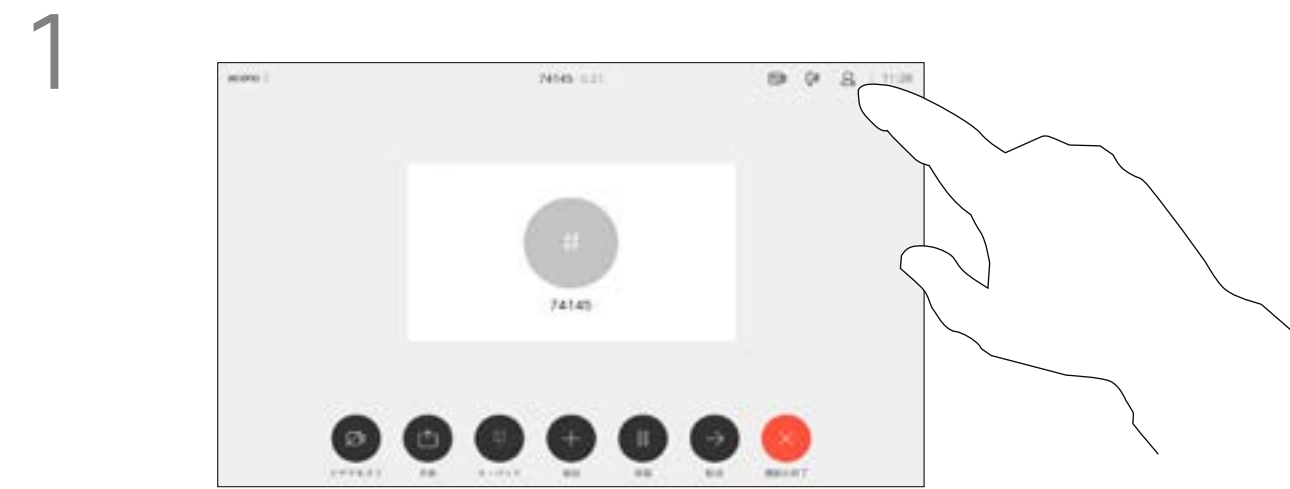
**発着信履歴**は、発信、受信、不在着信のリストです。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

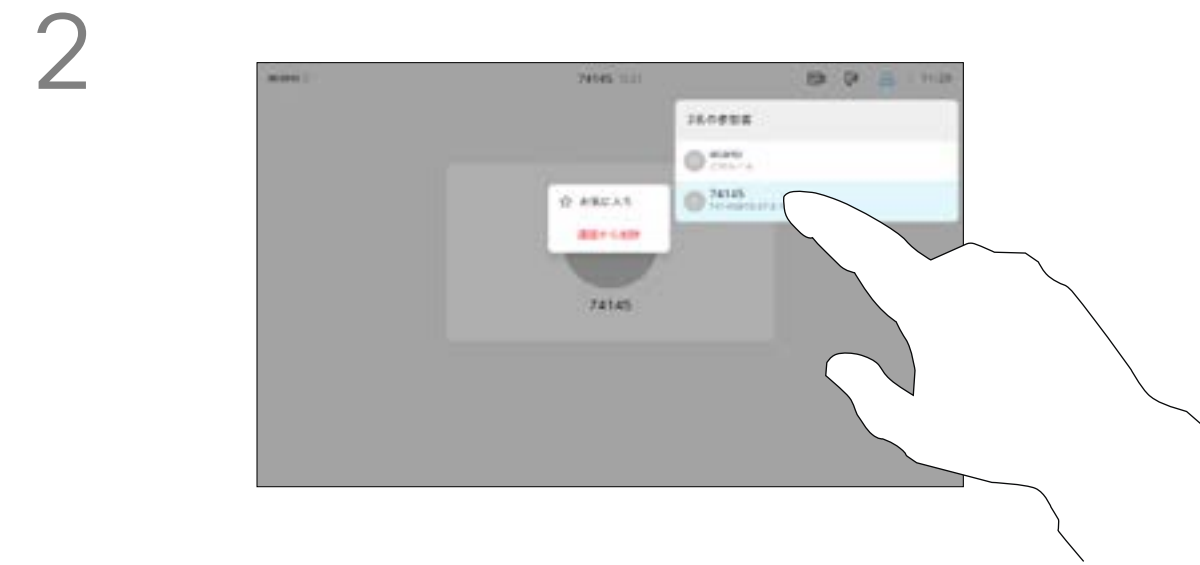


# コンタクト 通話中に [お気に入り] に追加する

## お気に入りについて



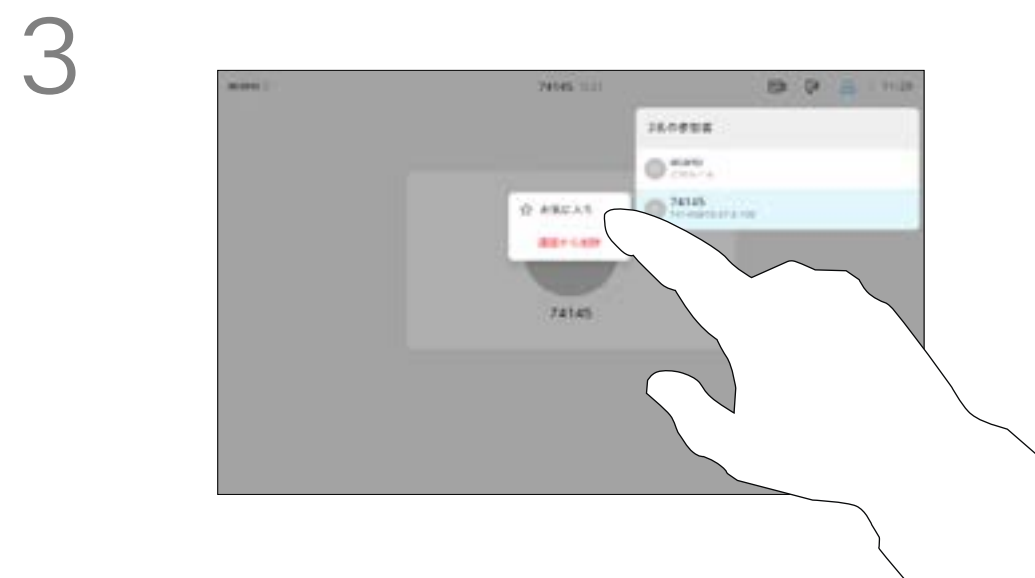
1 通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



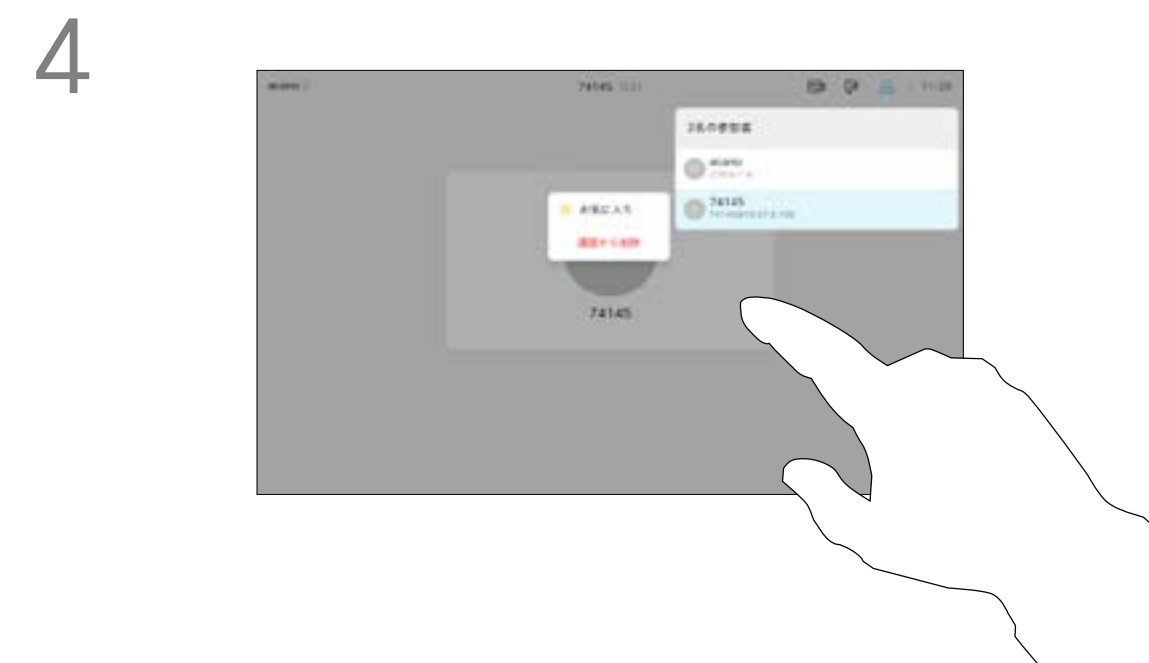
2 参加者のリストで、誰かをタップするとその人が [お気に入り] に追加されます。

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

お気に入りは、発着信履歴または ディレクトリリストから選択するか、手動で入力します。



3 お気に入りをタップします。



4 その参加者は [お気に入り] のリストのメンバーになります (星印が金色に変わります)。

[お気に入り] リストからエントリを削除するには、[連絡先] 中の お気に入りに移動して、この手順を繰り返します。

完了したらメニュー以外の場所をタップします。

# コンタクト 非通話時に [お気に入り] に追加する

この機能について



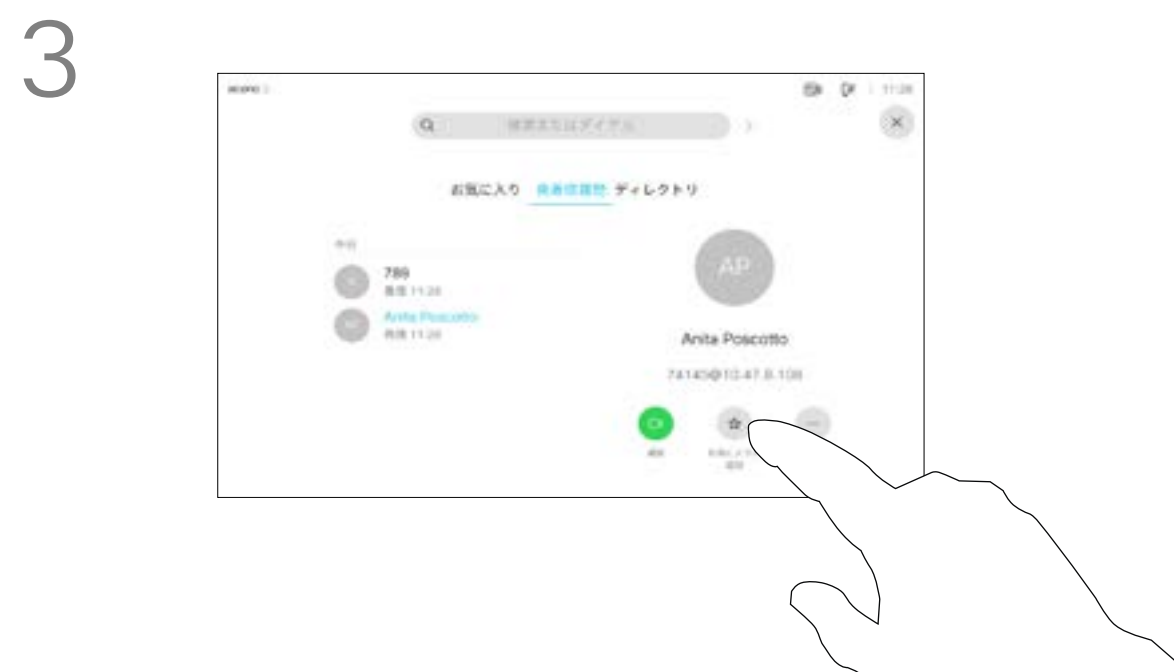
図のように、**発信**(図なし)をタップして、[連絡先] リストを呼び出します。**[発着信履歴]**または **ディレクトリ** をタップして、[お気に入り] に追加するエントリを探します。



エントリをタップし、[お気に入り] に追加します。上記の画面が表示されます。

[お気に入り] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[発着信履歴]または[ディレクトリ] リストから、または手動で[お気に入り]を入力できます。



**お気に入りに追加** をタップします。これで、エントリが [お気に入り] に追加されました。



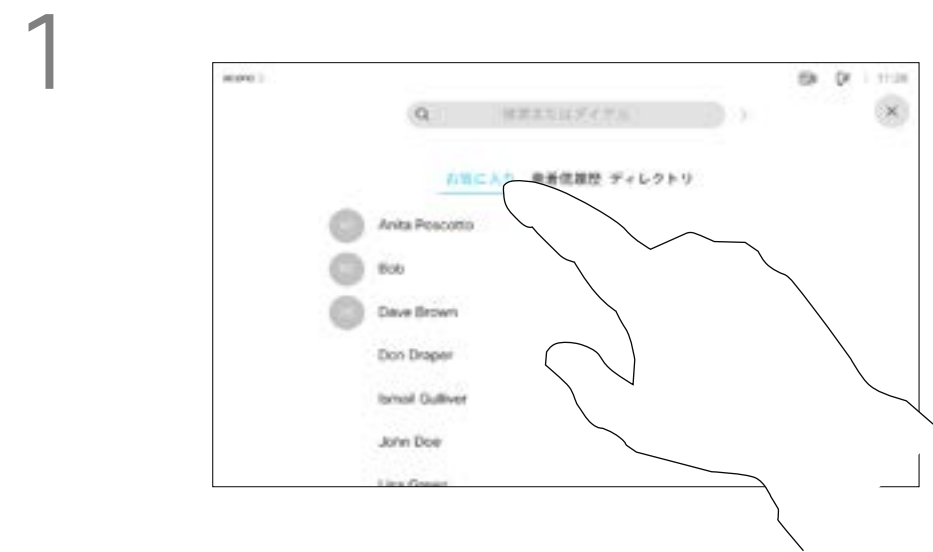
図のように、[お気に入り] が金色の星印で表示されます。  
[お気に入り] リストからエントリを削除するには、この手順を繰り返します。  
このメニューを終了するには、図のように [X] をタップします。



# コンタクト 既存のお気に入りを編集する

この機能について

この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



図のように、発信(☒なし)をタップして、[連絡先] リストを呼び出します。お気に入りのリストにアクセスするには、お気に入り をタップします。



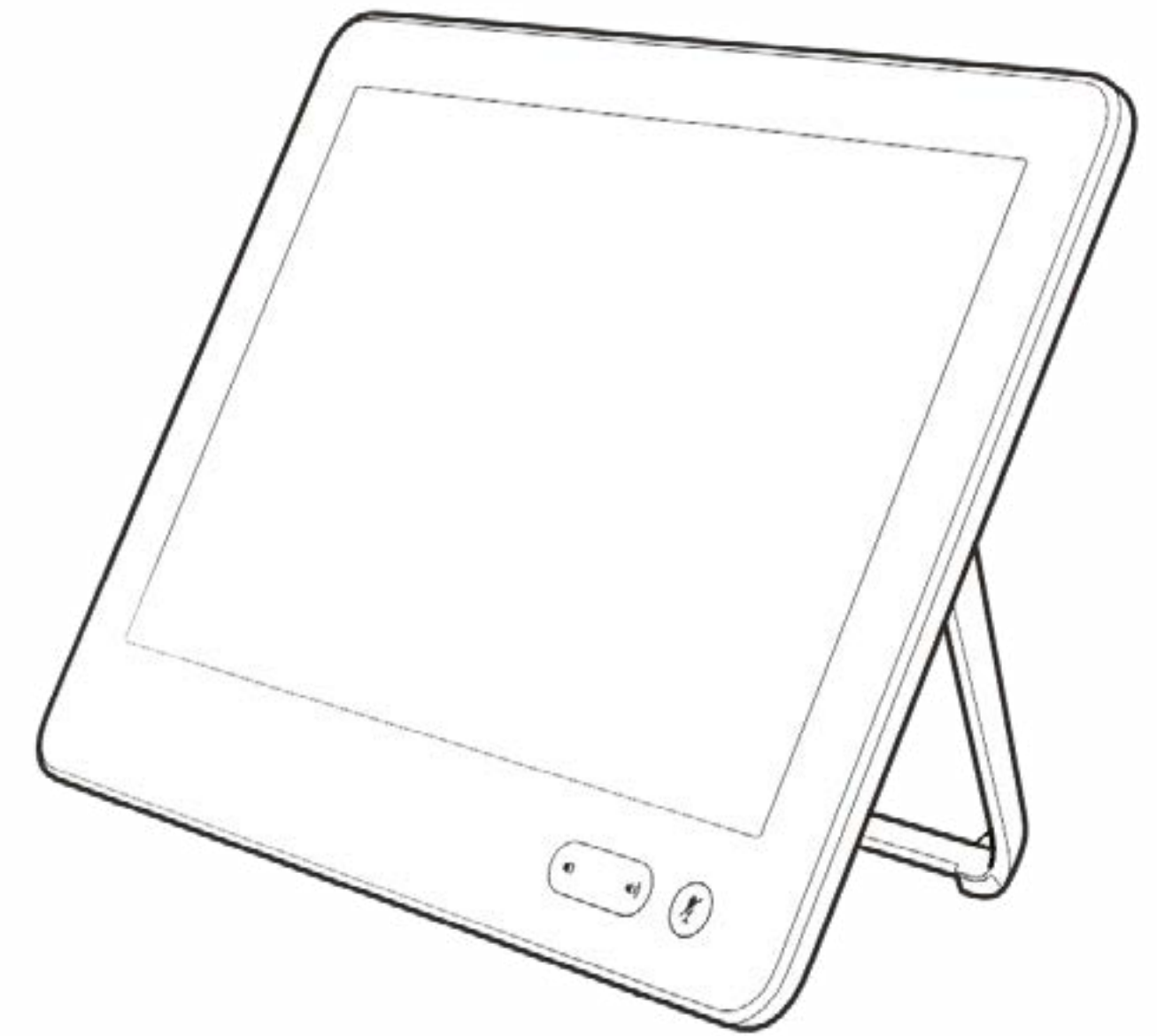
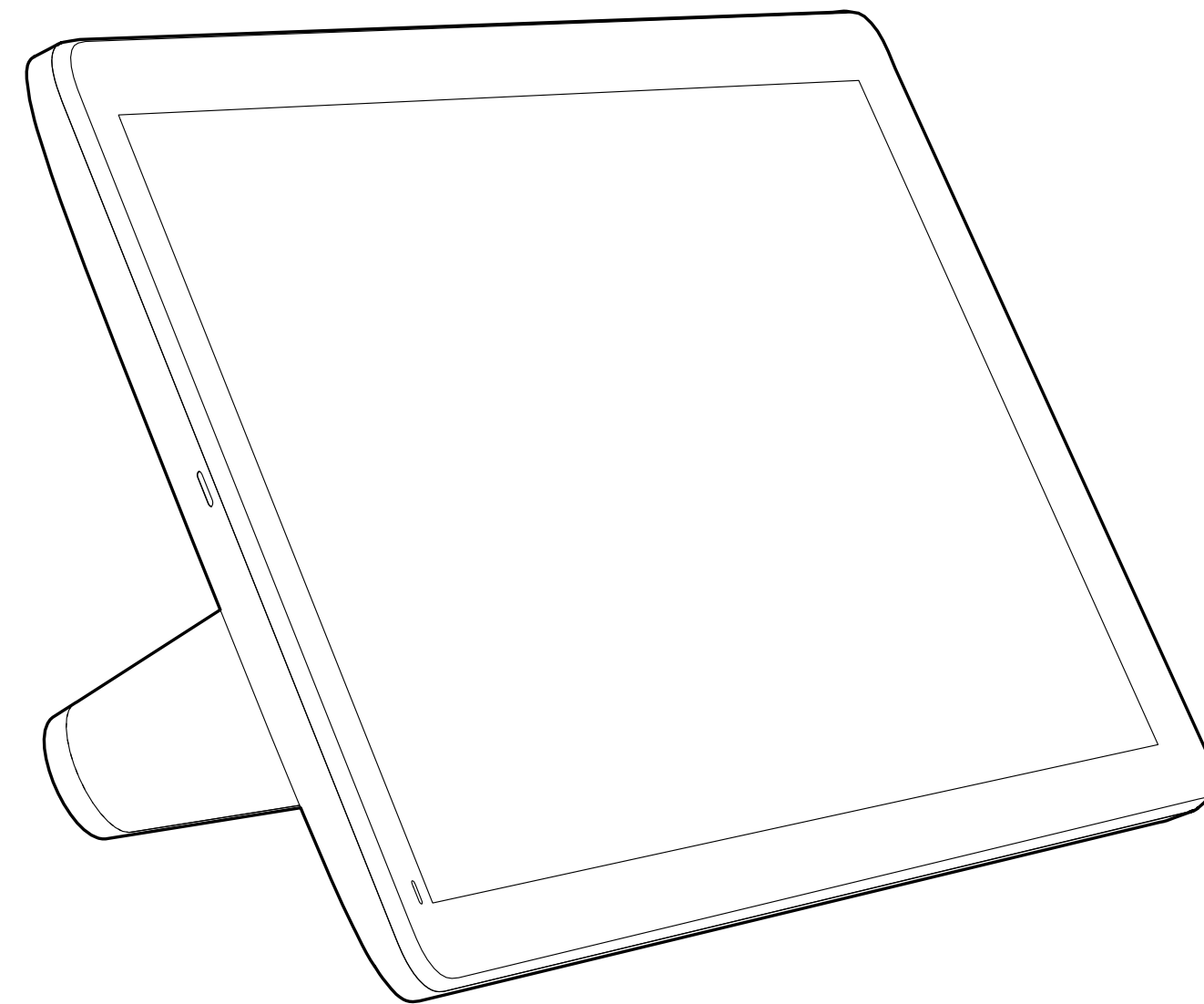
[お気に入り] をタップして編集します。詳細をタップします。



お気に入りの編集をタップします。



お気に入りのエントリを編集して、保存をタップして変更を適用し、終了します。変更を適用しない場合は、キャンセルをタップします。



# カメラ

# カメラ カメラの設定の表示

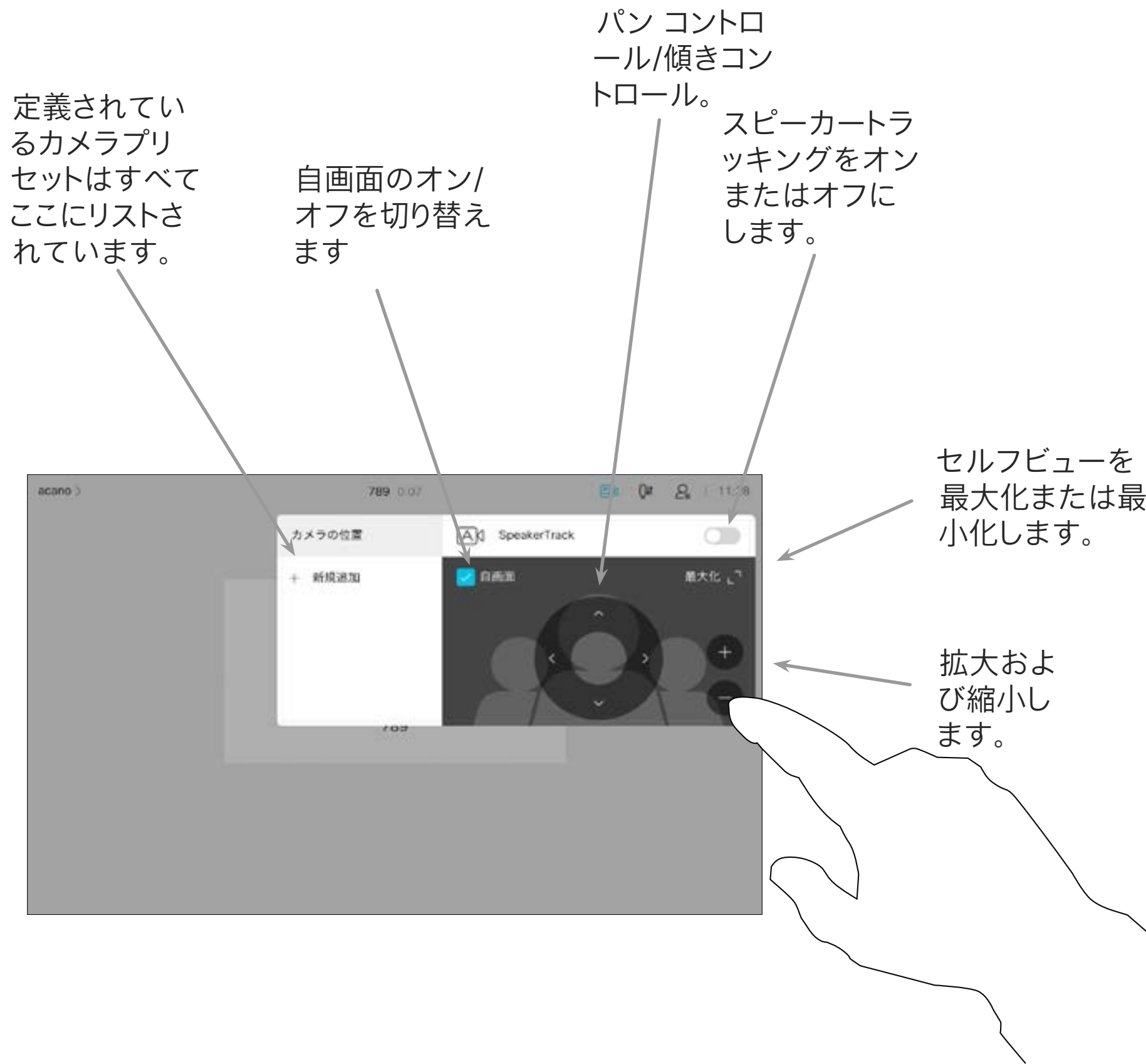
## カメラ操作について

1



カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



カメラ設定では、カメラのズーム、パン、およびチルトを制御できるほか、カメラ位置プリセットの定義と編集もできます。

さらに、セルフビュー（デバイスから他のユーザに表示される画像）は、オンまたはオフにしたり、最小化または最大化表示することもできます。

セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなっている場合は、セルフビューを移動できます。

スピーカートラッキングを備えたデバイスでは、これをオンにすると、現在話している人物がカメラで拡大します。

カメラ

# カメラ位置プリセットの追加

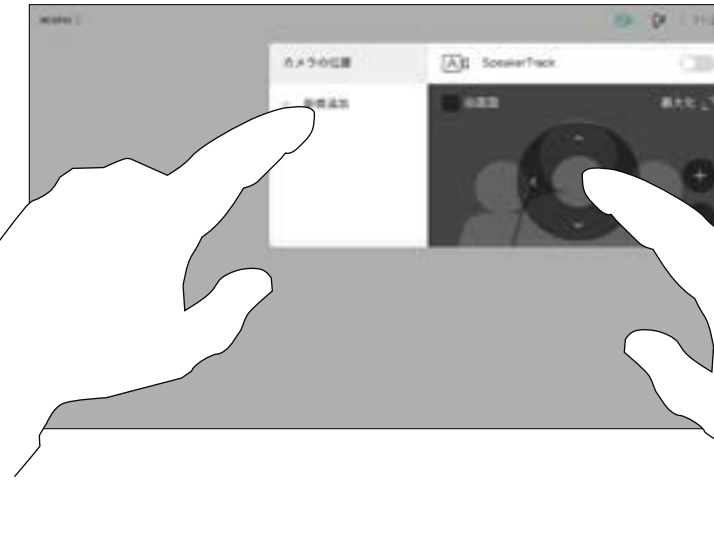
## カメラのプリセットについて

1



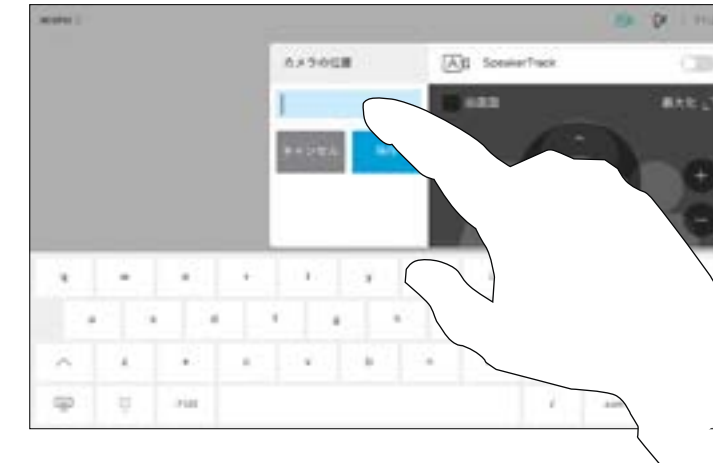
カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



セルフビューが自動的に有効化されます。必要に応じて、傾き、パン、およびズームを調整します。次に **+ 新規追加** をタップします。

3



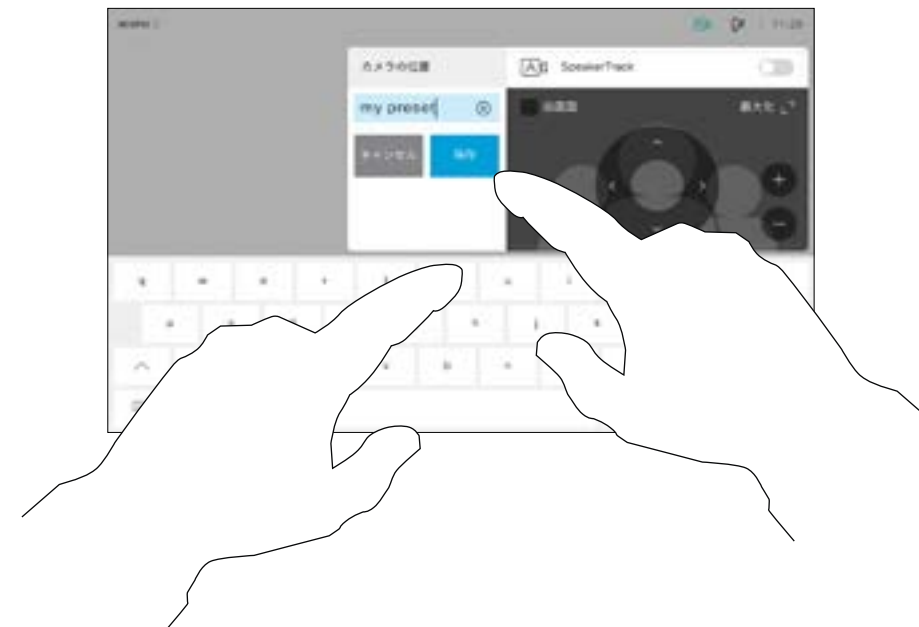
テキスト フィールドをタップします。

デバイスを使用すると、定義済みのズームとカメラの方向 (パンとチルトとも呼ばれます) を作成できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。

つまり、1 つまたは複数のズームインプリセットを作成する場合は、ズームアウト (概要) プリセットも作成して、概要モードに簡単にスイッチバックできるようにする必要があります。

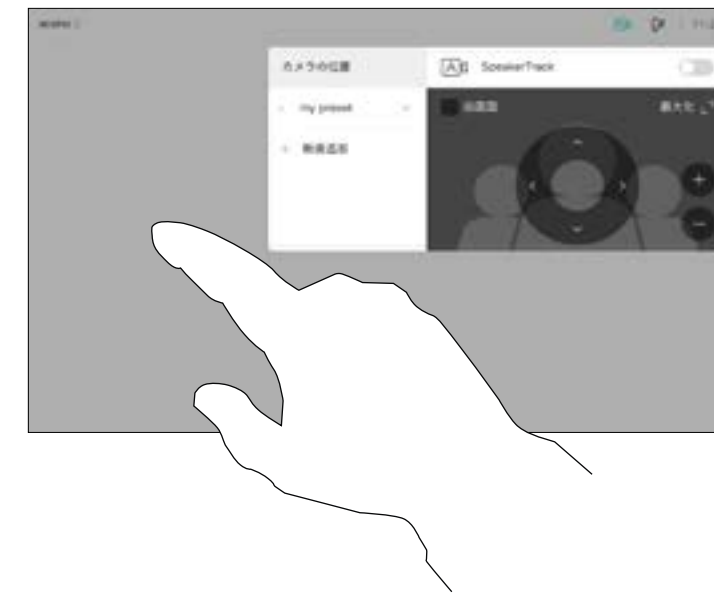
遠端のカメラは、他のすべての参加者のカメラを制御することもできますが (これらのカメラがリモート操作可能な場合)、そのプリセットを定義したり、使用したりすることはできません。

4



わかりやすい名前を付けて **保存** をタップすると、変更が適用されます。

5

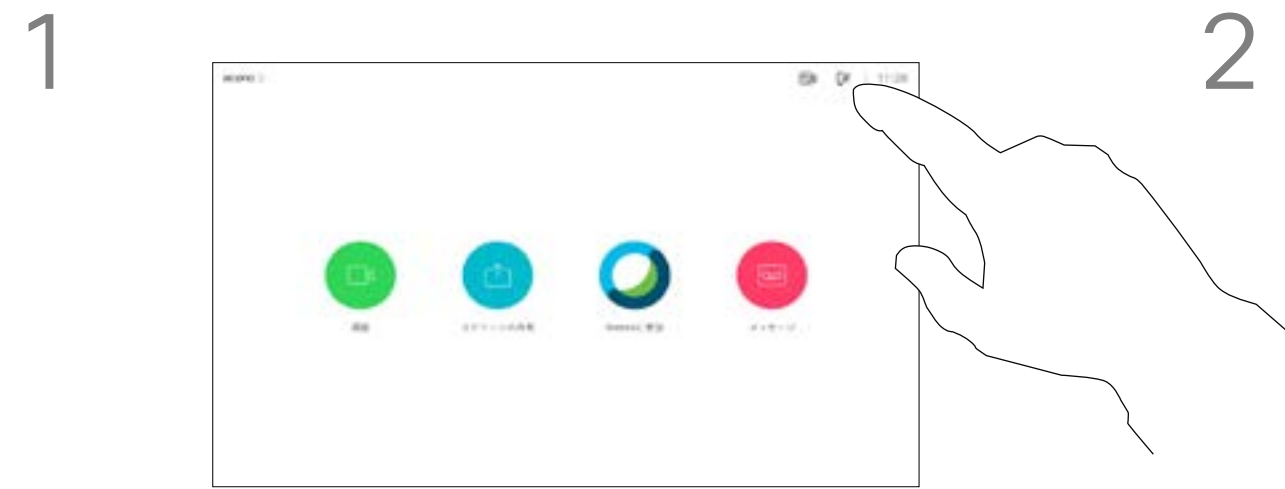


完了したらメニュー以外の場所をタップします。

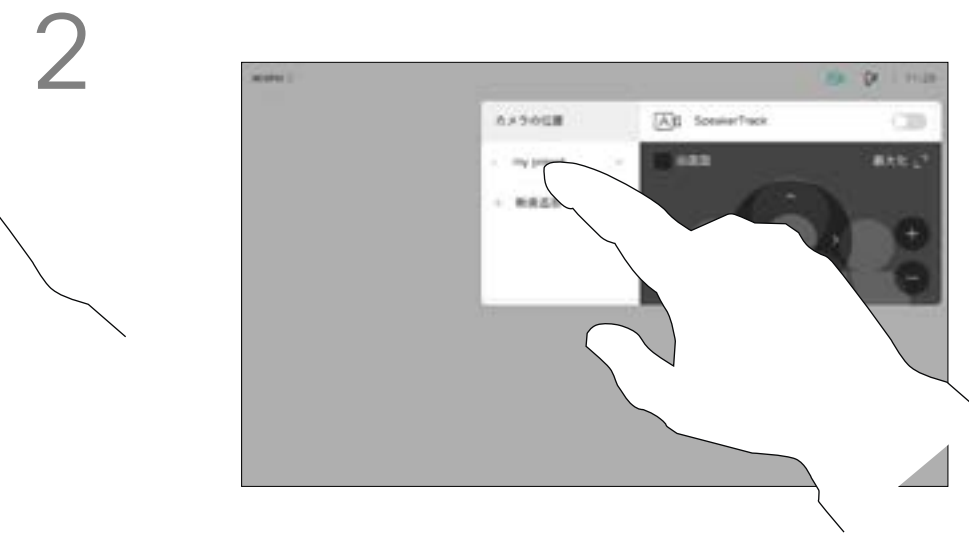


# カメラ カメラ位置プリセットの編集

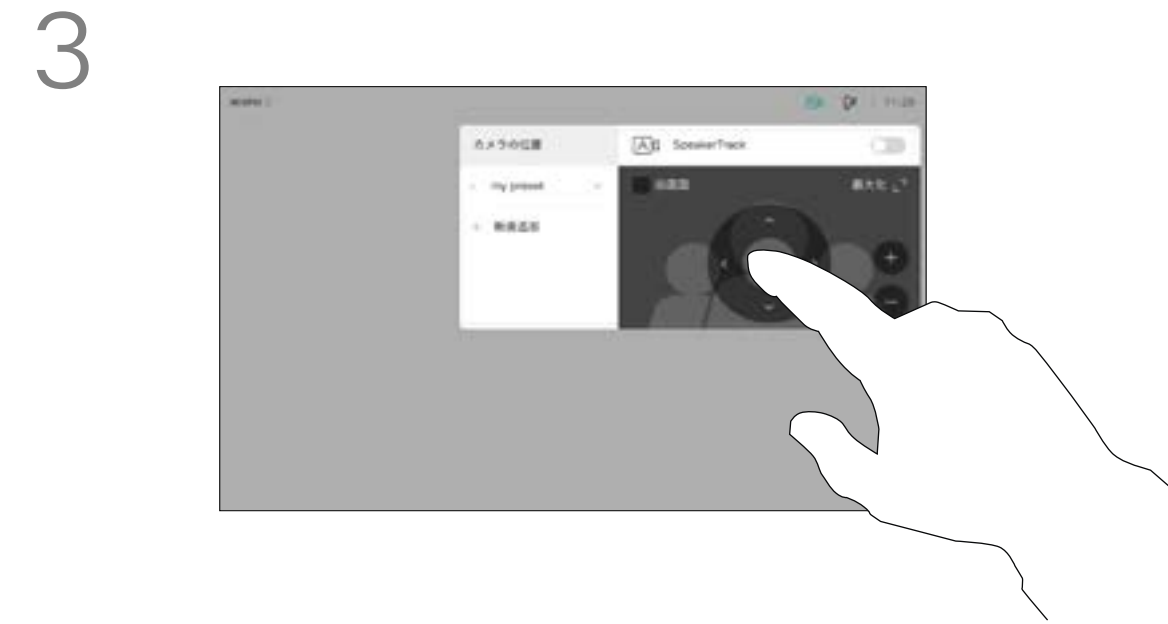
## プリセットの編集について



1 カメラ をタップして、[カメラ] メニューを呼び出します。



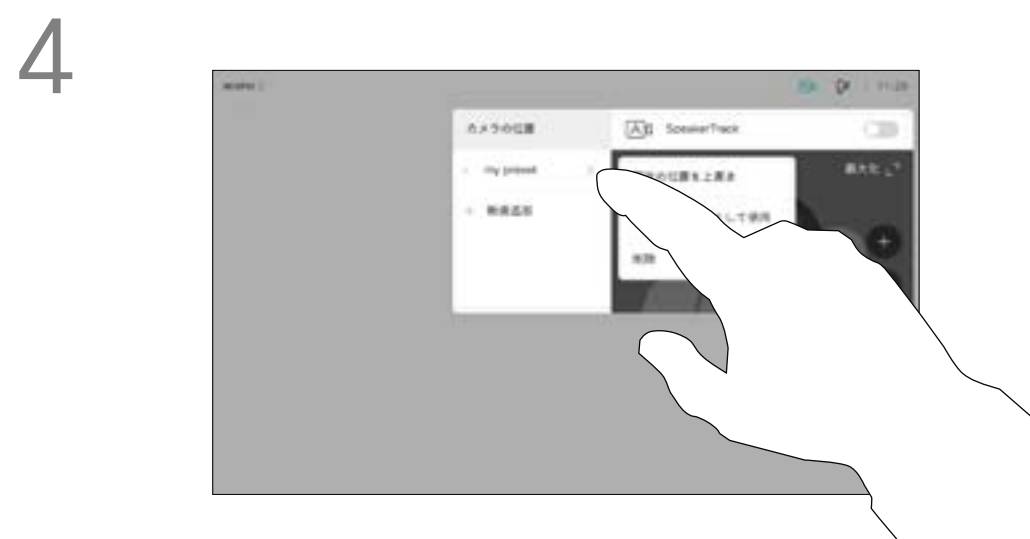
2 編集するプリセットをタップします。セルフビューが自動的に有効化されます。



3 必要に応じて、パン、傾き、およびズームを調整します。

プリセット編集は、既存のプリセットを取得し、それを変更して同じ名前で保存することです。

名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、好きな名前で新しいプリセットを作成することをお勧めします。



4 編集するプリセットの小さな矢印をタップします。



5 現在のプリセットを上書きをタップして変更を適用します。  
既存のプリセットを削除するには削除をタップします。

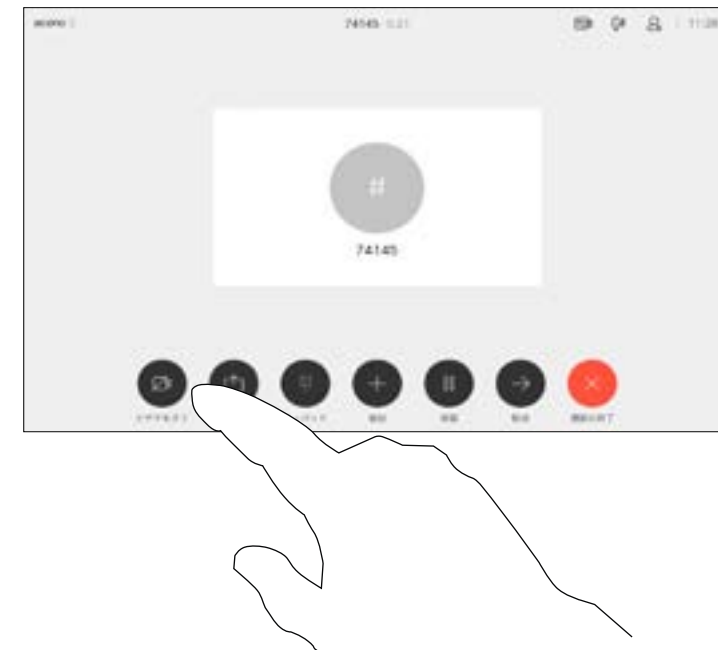


6 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

# カメラ カメラをオンまたはオフにする

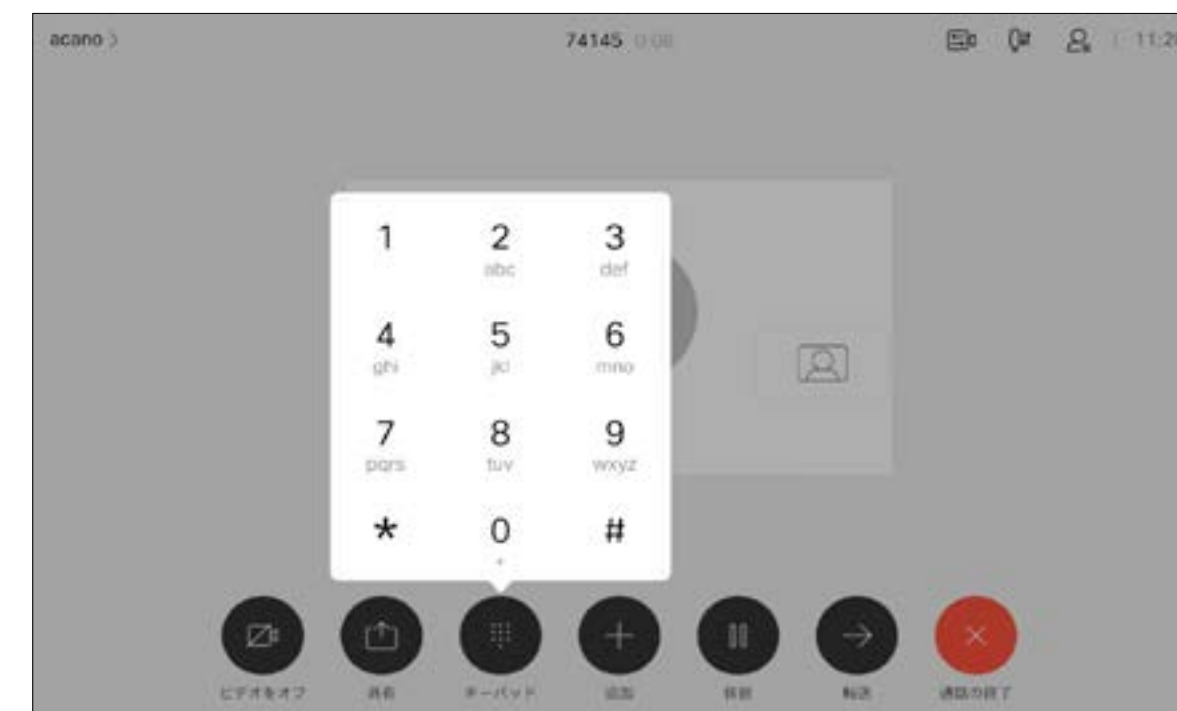
## ビデオ オフについて

1



図のように ビデオをオフにする をタップします。

2



アイコンが赤色に変わり、デバイスからビデオが送信されないことを示します。この機能を無効にするには、もう一度タップします。

ビデオの電源オフ機能は、機械的にブロックするオプションがないデバイスで、カメラからのビデオ送信が制御できるように設計されています。

# カメラ スピーカー トラッキング

## スピーカー トラッキングについて



1 [スピーカー トラッキング] を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 右上隅にあるボタンをタップして、スピーカー トラッキング機能をアクティブにします。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。  
スピーカー トラッキングを非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカー トラッキングカメラを搭載したデバイスは、内蔵マイクアレイと一緒に使用してカメラを操作します。カメラでは、ユーザを追跡して表示し、カメラのコントロールメニューやカメラプリセットを使用して拡大および縮小する必要がないようにしています。

スピーカー トラッキングがアクティブになっている場合は、カメラ位置プリセットは使用できません。スピーカー トラッキングをオフにして、プリセットにアクセスできるようにします。

必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカー トラッキングをアクティブにします。

メモ: マイクがミュートになっている場合は、スピーカー トラッキングは動作しません。

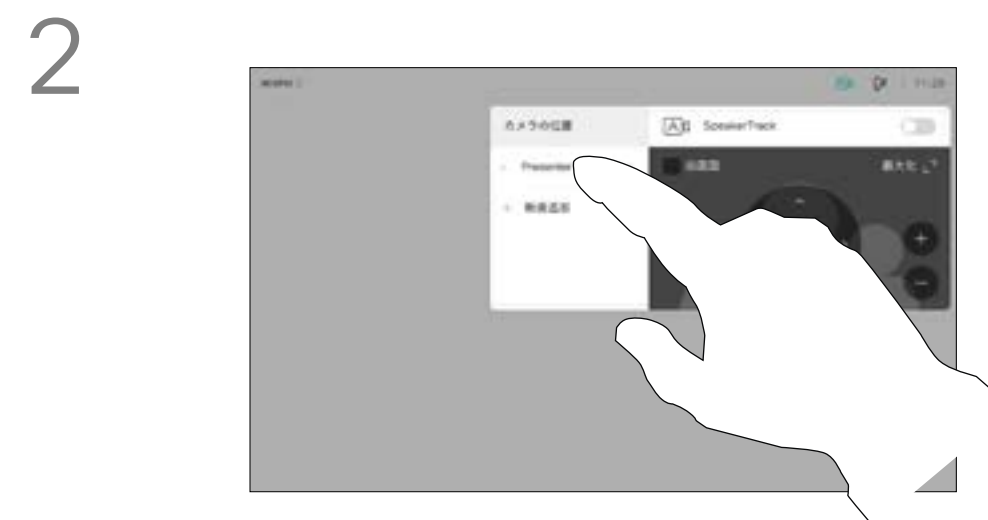
スピーカー トラッキングを拡張して、ホワイトボードにスナップ機能やプレゼンター トラッキング機能を含めることができます。その方法については、次のページで説明します。

# カメラ プレゼンタートラッキング

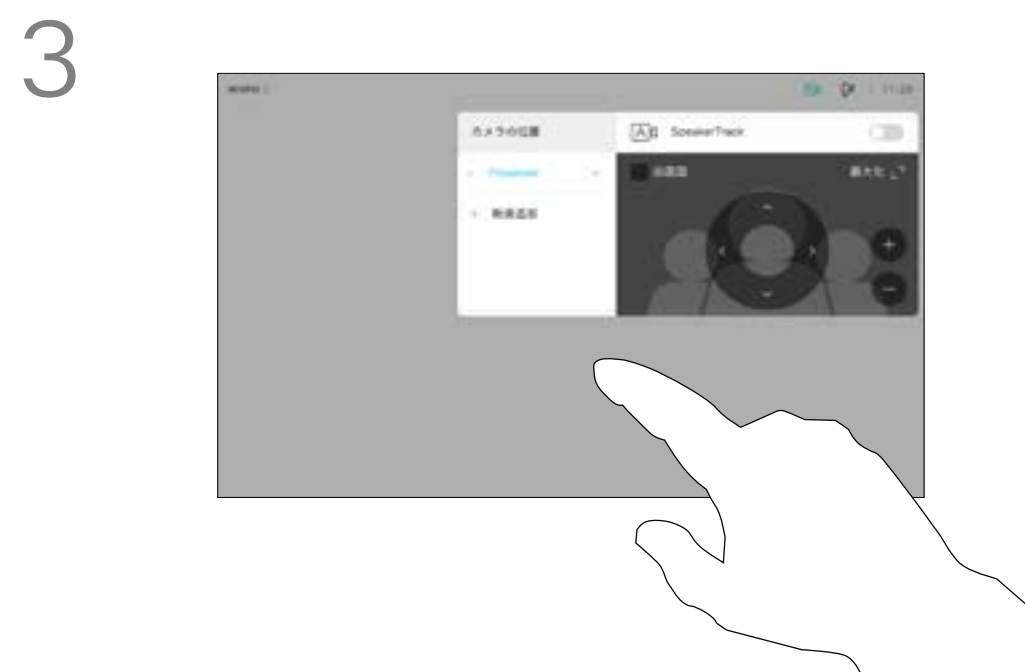
## プレゼンター トラッキング について



1 [プレゼンタートラッキング] を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 PresenterTrack が有効になっているデバイスは、図のように、これをカメラプリセットとしています。スピーカートラッキングが有効になっている場合は、カメラプリセットにアクセスできません (詳細については、前のページを参照してください)。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。プレゼンタートラッキングを非アクティブにするには、[プリセット] を再度押します。

SpeakerTrack のあるデバイスには、プレゼンタープリセットが含まれている場合があります。このプリセットは、ビデオサポート チームによって動作するように実装されているはずですが。

PresenterTrack を使用すると、カメラは、表示されているステージ上を移動するプレゼンターを拡大およびトラッキングすることができます。ステージゾーンは、ビデオサポートチームによって定義されます。

プレゼンターがステージを離れると、トラッキングが停止します。

この機能をサポートする製品とその設定する手順については、『CE 9.2 管理者ガイド』の「弊社のルームデバイスとコーデック」を参照してください。



# カメラ 自分のカメラの操作

## プリセットの編集について

### カメラ プリセットの使用

1



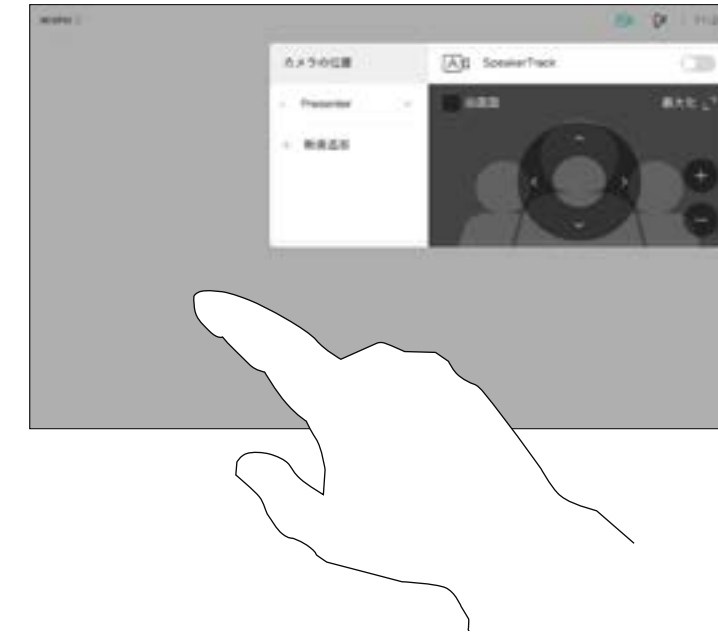
通話中またはコール外 (図をご覧ください)、カメラアイコンをタップします。

2



使用するプリセットを選択します。

3



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

通話中に、既存のカメラ プリセットをすぐに使用することができます。

デバイスに複数のカメラがある場合、たとえば 1 つのカメラが参加者を表示し、別のカメラがホワイトボードを表示します。

新しいカメラ プリセットを追加するか、既存のカメラ プリセットを変更する場合は、非通話時と同じ方法で行います。プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、傾き、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。

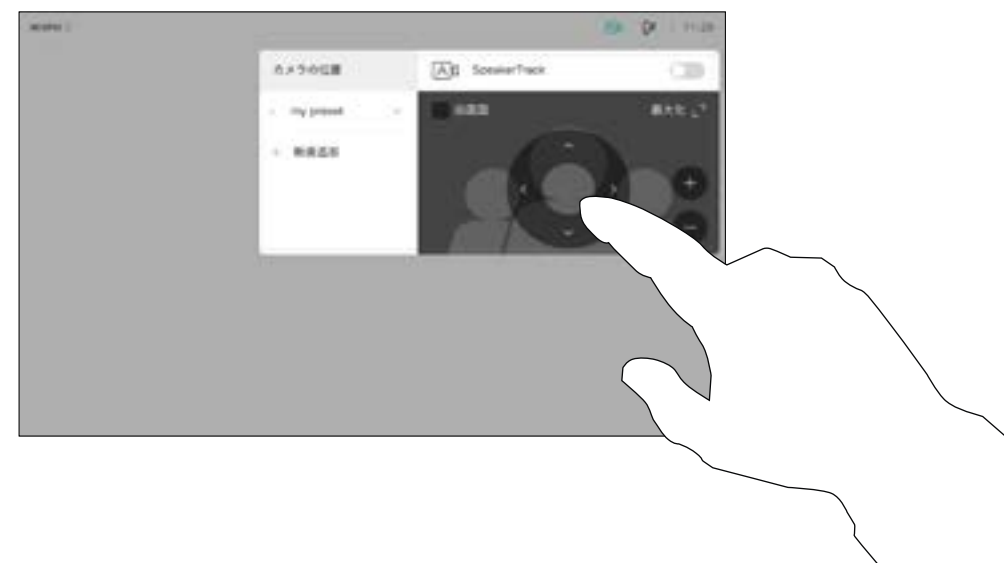
### カメラのパン、傾き、およびズームの調整

4



通話中またはコール外 (図をご覧ください)、カメラアイコンをタップします。

5



パン、傾き、およびズームを調整します。セルフビューは、アシストするときに一時的にオンになります。

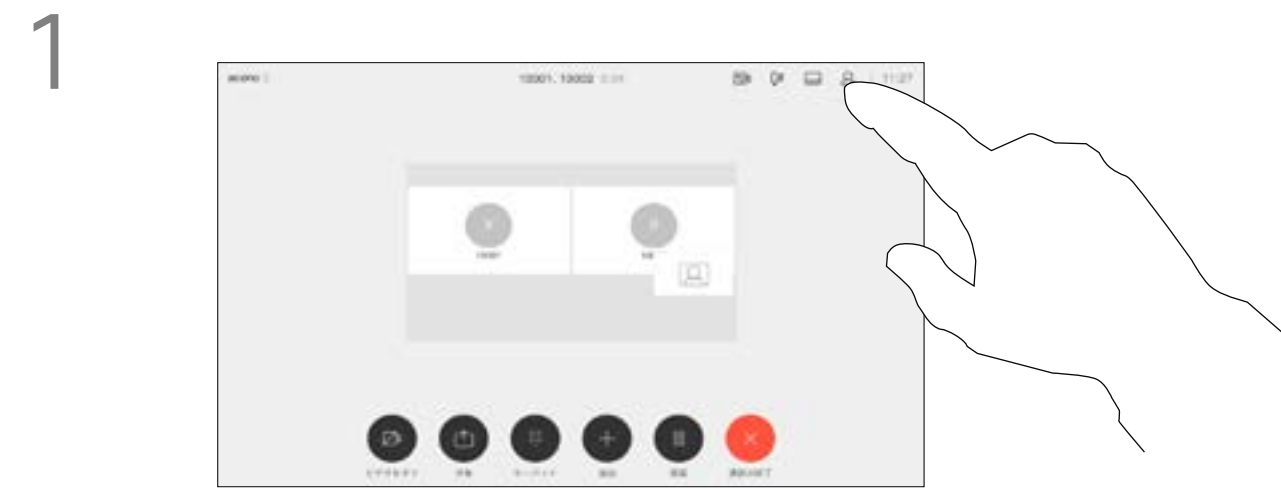
6



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

# カメラ 遠端カメラ制御

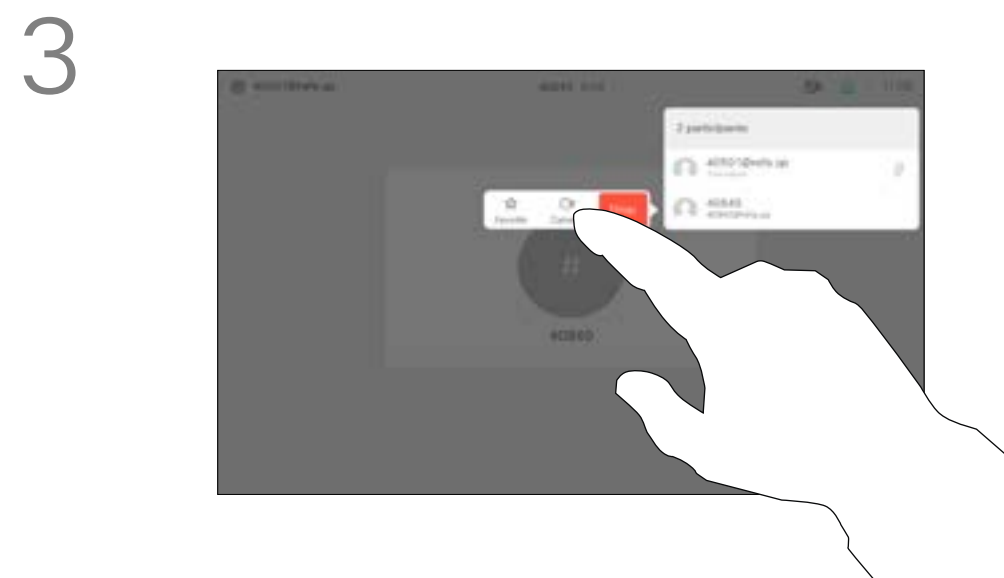
## カメラ操作について



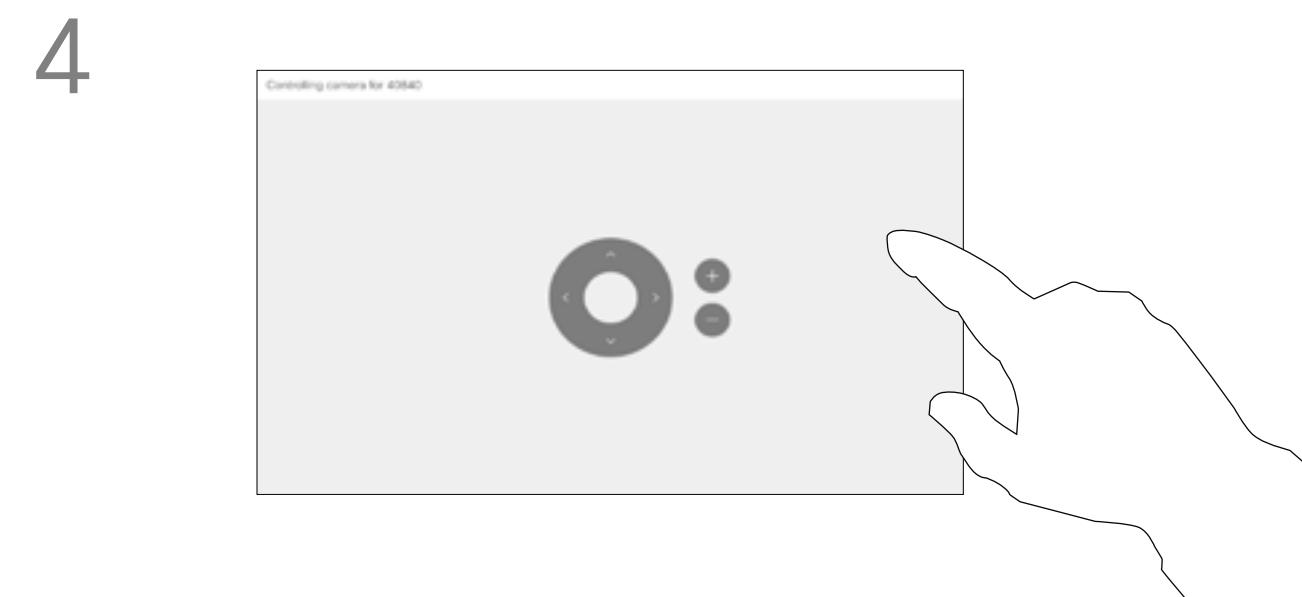
通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



制御対象のカメラを持つ出席者をタップします。



コントロールをタップします。



リモート カメラを調整します。完了したらカメラ制御ボタン以外の場所をタップします。

ビデオコール中に、他のデバイスのうちの1つ以上がリモートで制御可能なカメラを使用している場合があります。

その後、自分のタッチコントローラからこれらのカメラを制御できるようになります。これは遠端カメラ制御(FECC)と呼ばれます。

遠端デバイスによってカメラトラッキングがアクティブ化されている場合(この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは提供されません。

リモート カメラ プリセットにアクセスすることはできません。

# カメラ セルフビューの管理

## プリセットの編集について

### 非通話時

1



通話中またはコール外 (図をご覧ください)、カメラアイコンをタップします。

2



セルフビュー をタップしてオンにします。  
セルフビューの画像のサイズを変更する (詳細については、次のページを参照) か、カメラのパン、チルト、およびズームを制御します (詳細については、前のページを参照してください)。

3



完了したらメニュー以外の場所をタップします。

セルフビューには、自分デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは PiP (ピクチャインピクチャ) として表示されますが、最大化した画面を最大にすることができます (次のページを参照)。

セルフビュー PiP の位置は、通話中でも非通話時でも変更できます。詳細については、2 ページ先を参照してください。

### 通話中

1



通話中にセルフビューをオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中にセルフビューをオンにするには、上記(非通話時の場合)で説明した操作を実行します。

2



図のように オフにする をタップします。

カメラ

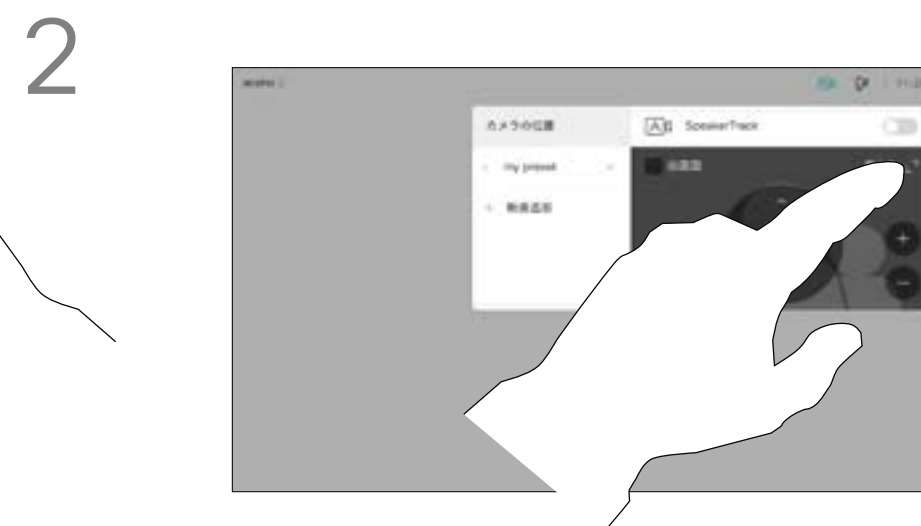
# セルフビュー PiP サイズの変更

## セルフビューのサイズを変更する理由

非通話時



1 通話中または非通話時に (図示)、Cameraをタップします。



2 セルフビューの画像のサイズを変更するには、最大化をタップします。同じ操作を繰り返して画像を最小化します。



3 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

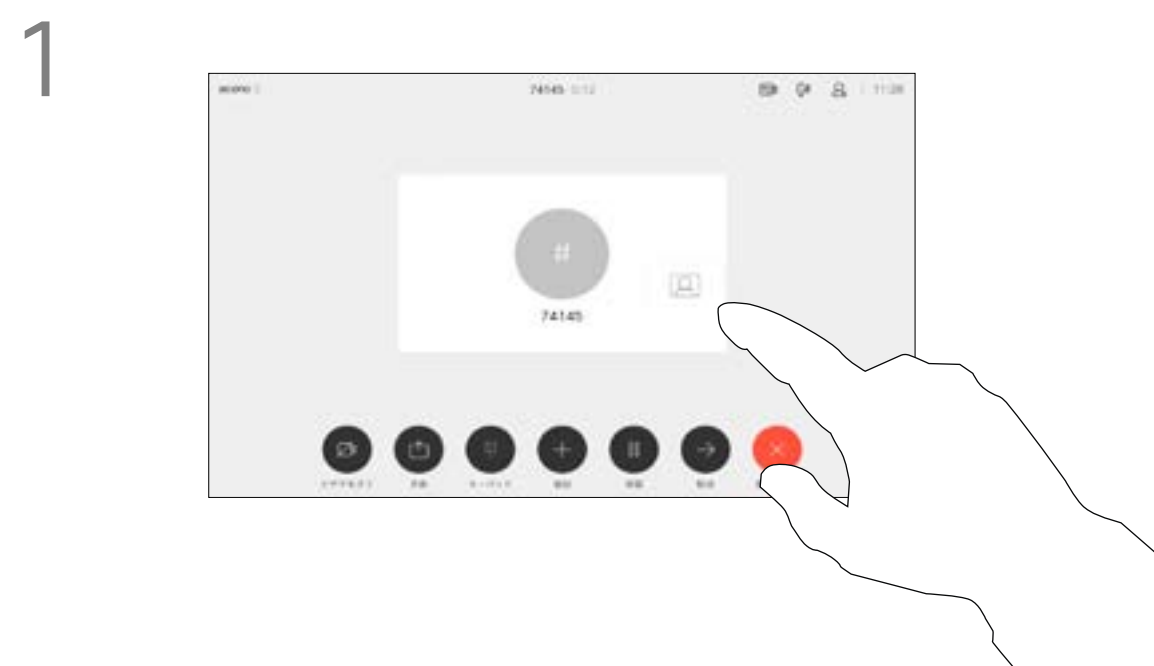
セルフビューには、自分デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。

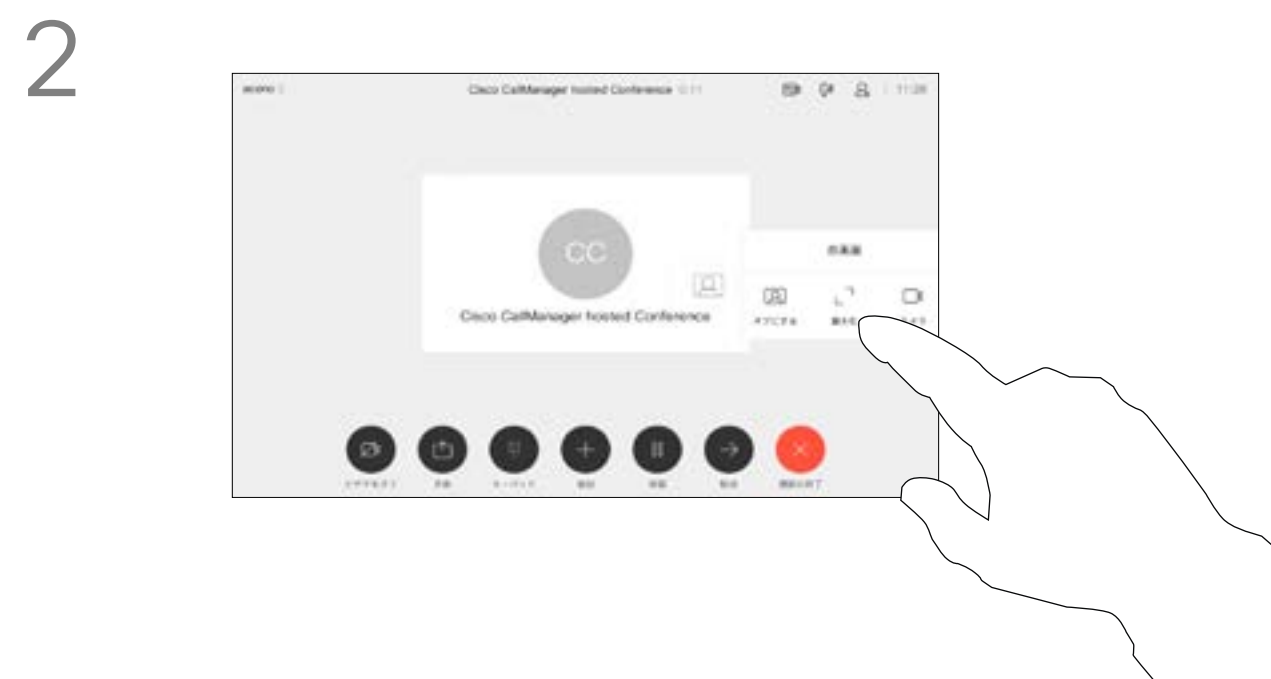
カメラをズーム、パン、またはチルトすることによって、他の参加者により適切なビューを提供することができます。見やすくするために、セルフビューを最大化できます。

通話中



1 通話中にセルフビューをオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中にセルフビューをオンにするには、上記(非通話時の場合)で説明した操作を実行します。



2 セルフビューの画像のサイズを変更するには、図のように 最大化 をタップします。

同じ操作を繰り返して画像を最小化します。

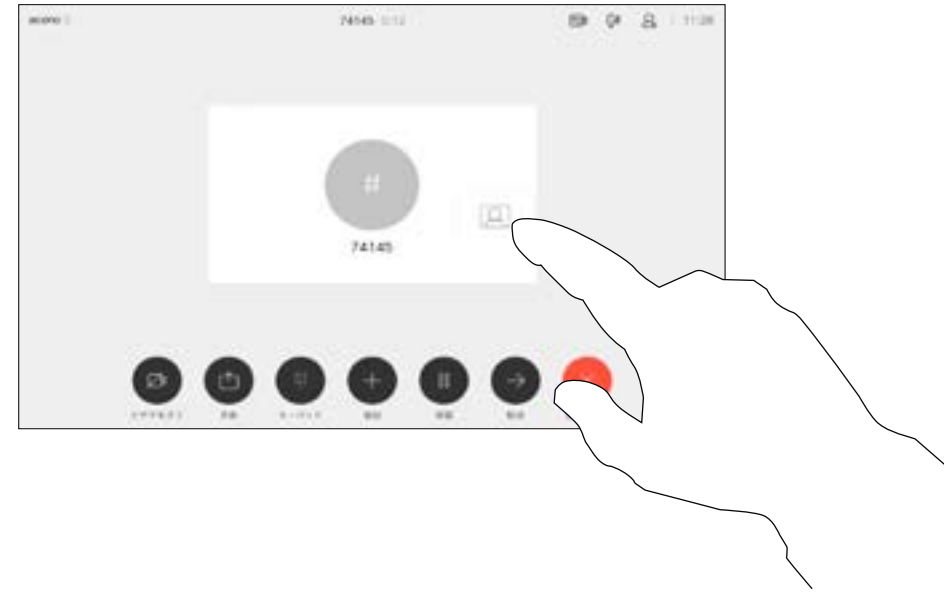


カメラ

# セルフビュー PiP を移動する

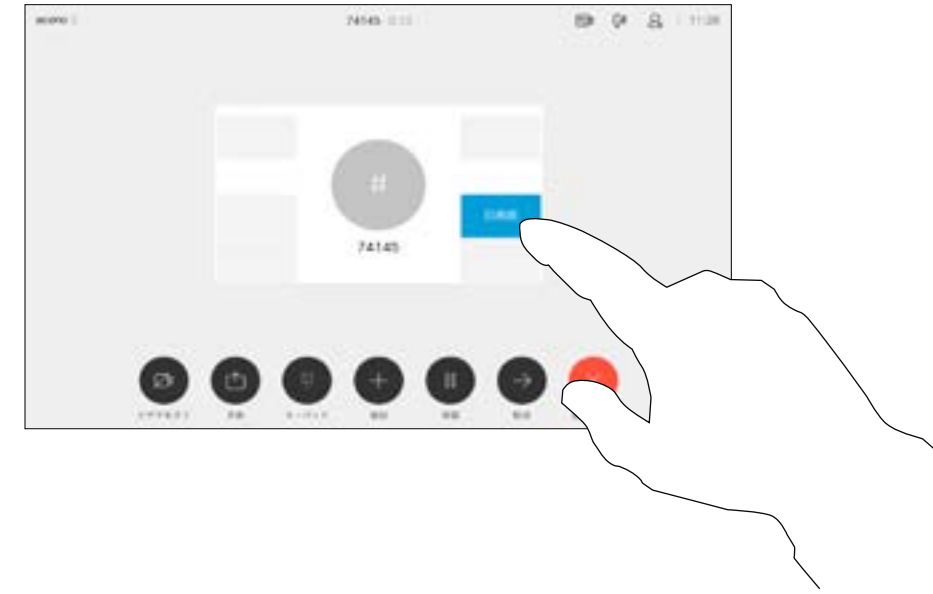
## セルフビューを移動する理由

1



セルフビュー画像をタップして長押しします。

2



セルフビューの画像が青色に変わります。セルフビューの画像の利用可能な代替位置が表示できます。画像をタップし続けます。

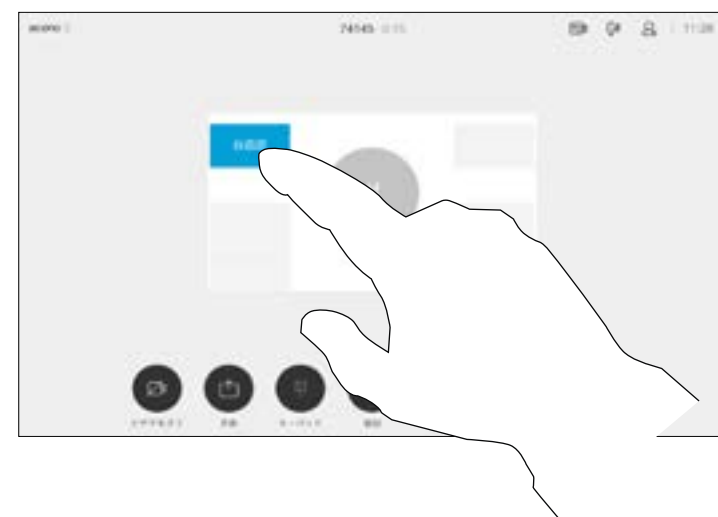
セルフビューには、デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

セルフビューの現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。これを行うには、セルフビューを移動します。

3

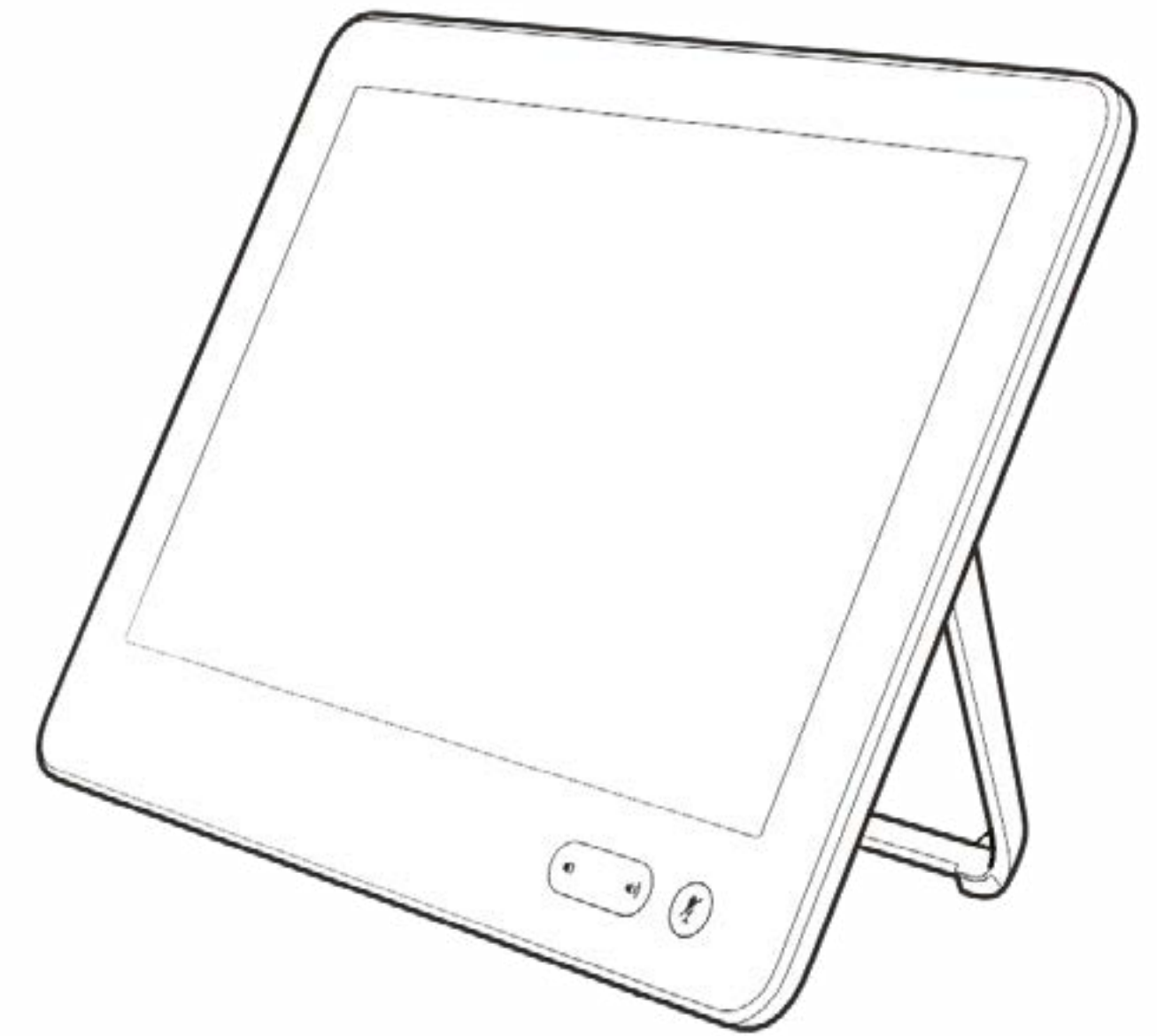
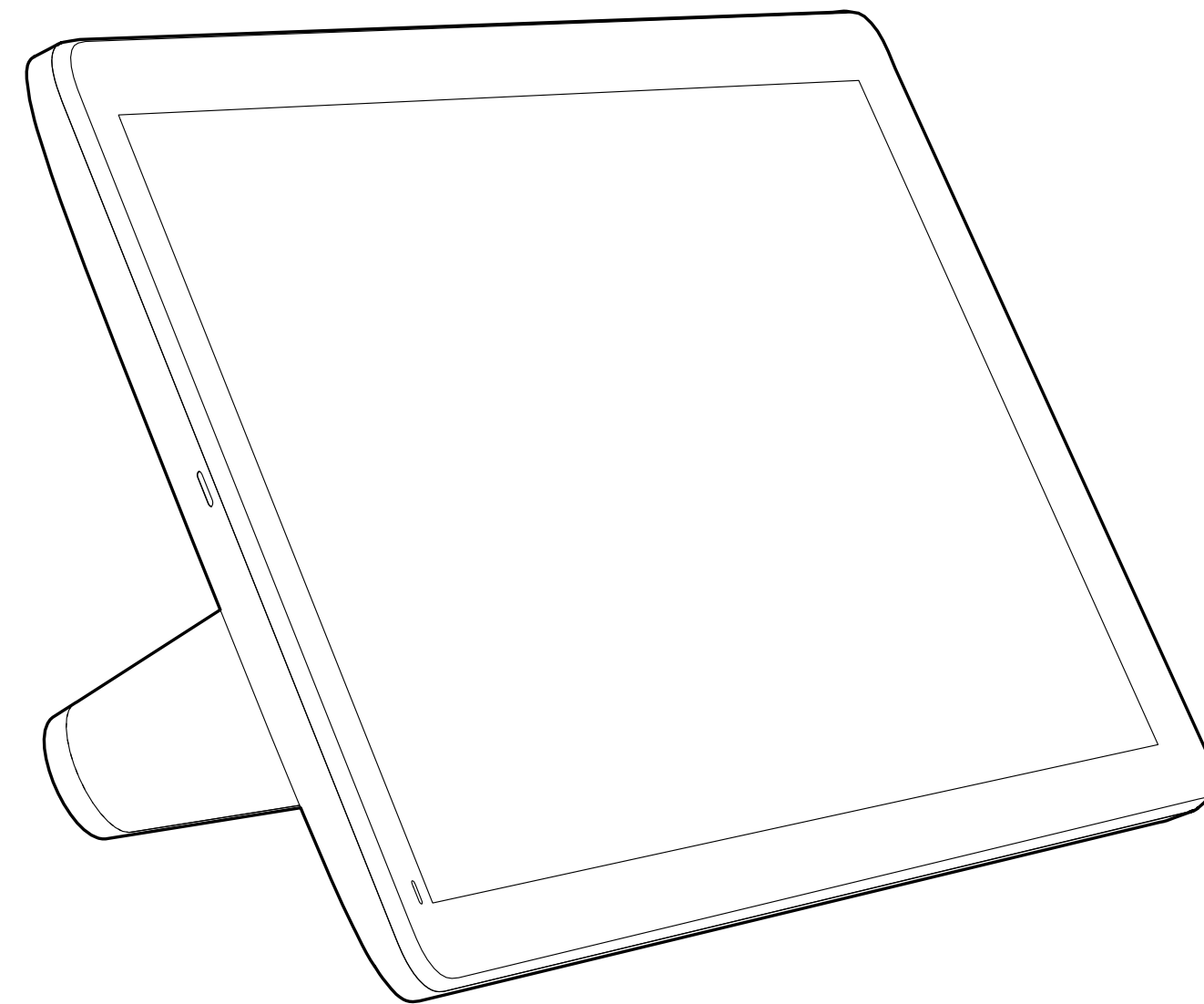


画像を新しい位置にドラッグします(ここでは左上隅に表示します)。

4



画面から指を離して、画像を公開します。セルフビューの画像が新しい位置に移動しました。

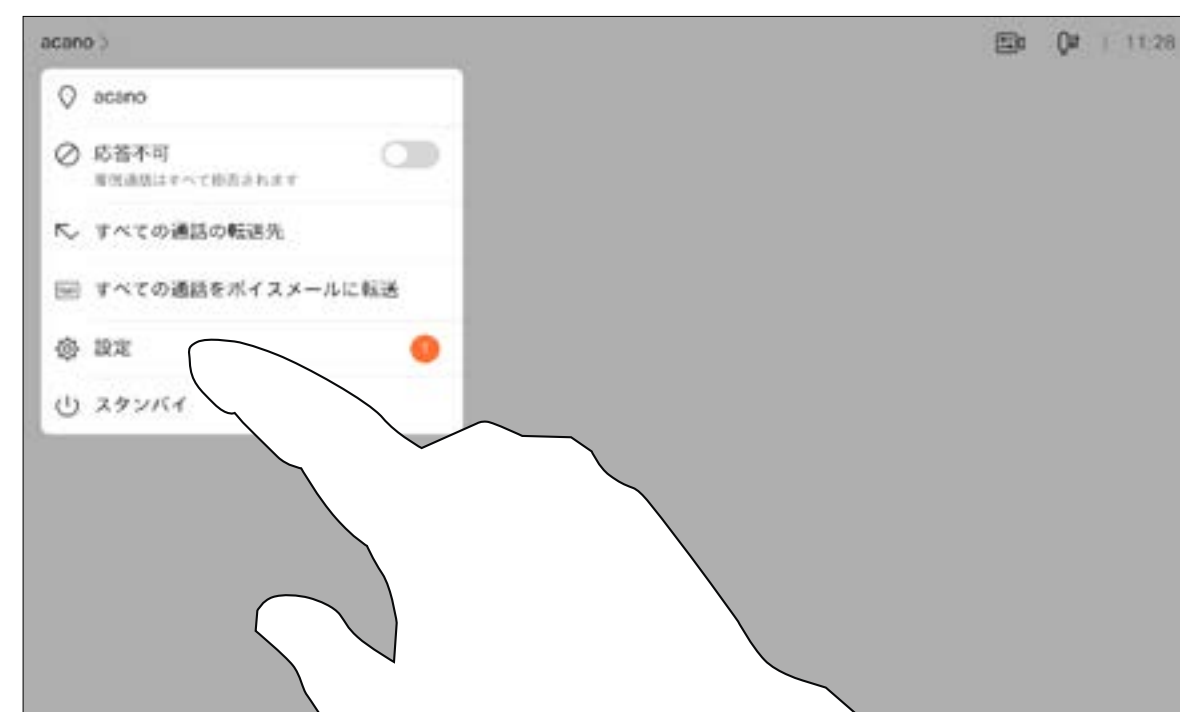


# 設定

# 設定 アクセス設定

## バージョン情報管理

1



2



設定メニューから、デバイスの情報を確認したり、設定をいくつか変更することができます。使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。

言語、着信音や音量を変更したり、デバイス情報を確認することができます。

利用可能な設定は、お使いの製品と管理者によって有効にされた機能によって異なります。

設定メニューには、Room Navigator の定格評価ラベル情報が記載されています。これらを確認するには、設定 > タッチパネルについて > 規制に移動します。



アメリカ本部  
Cisco Systems, Inc.  
San Jose, CA

アジア太平洋本社  
Cisco Systems(USA)Pte. Ltd.  
シンガポール

ヨーロッパ本社  
Cisco Systems International BV  
Amsterdam, オランダ

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices))をご覧ください。

---

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、[www.cisco.com/jp/go/trademarks](http://www.cisco.com/jp/go/trademarks) をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)